

参考資料

平成31年 3 月



佐久市

目次

1 「移住」の論調分析	2
(1) 移住施策の推移	
(2) 論調とモデル自治体の推移	
2 佐久市の現状分析	5
(1) 佐久市の概況	
(2) RESASによる佐久市の現状分析	
3 他都市との比較分析	10
(1) 比較する都市の設定	
(2) 移住施策の比較	
(3) インターネット調査による認知度・来訪度比較	
(4) メディア露出比較	
4 インターネット調査	16
(1) インターネット調査に基づくファインディングス	
(2) 定量調査 結果サマリー	

1 「移住」の論調分析

目的：日本における移住の変遷と現状を把握する。

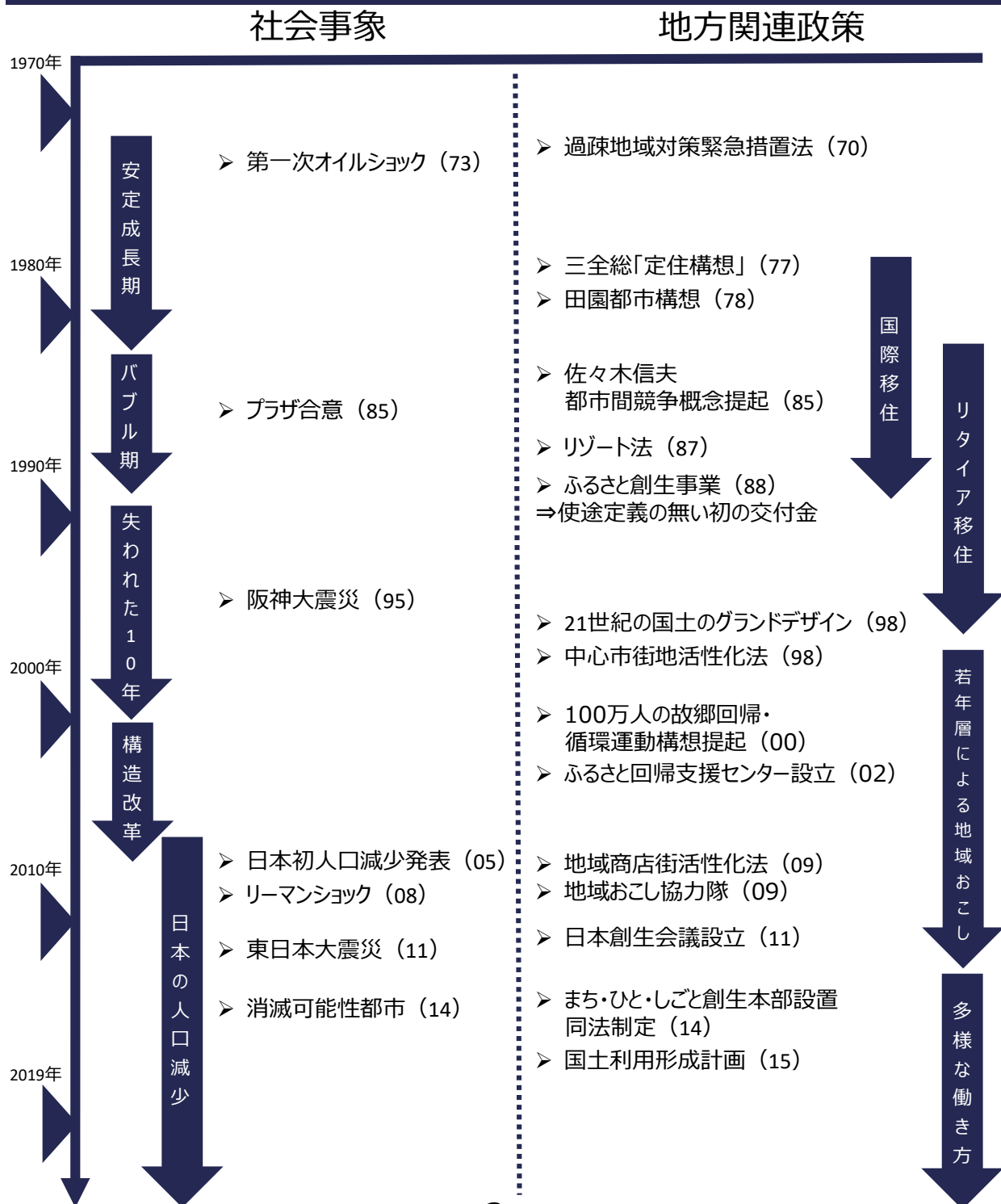
手法：日経テレコンにより、一般紙（朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・日本経済新聞・産経新聞）において、「移住」というワードが掲出された社説を調査・論調分析を行った。
調査結果のまとめにおいては、関連する記事や論文なども参考とした。

1 「移住」の論調分析

(1) 移住施策の推移

本項では、読売・朝日・毎日・産経・日経新聞の社説、AERA2018年10月8日号、及び農林中金総合研究所 多田氏「移住促進政策の変遷と課題」を基に作成。

- ✓ 1970年代から現在に至るまで、地方創生政策は、形を変えながら継続して行われている。
- ✓ 人口動態が増加した2010年をピークに減少へ転じ、国が移住関連施策に力を入れ始めた。
- ✓ 現在の移住ブームや移住に対し好意的な論調は、2014年のまち・ひと・しごと創生法と働き方改革の影響によるものが多い。



1 「移住」の論調分析

(2) 論調とモデル自治体の推移

これまでの個人の暮らし方としての、地方への移住という選択肢から、働き方の選択としての、地方移住といった文脈が増えている。

昨今、地域活性からだけではなく、働き方改革の流れも汲んだ新しい移住の文脈が出来つつあるようだ。

リタイア世代を対象とした田園回帰

1970～80年代の脱サラブームに乗った
田舎でカフェ・ペンションなどが増加。

キーワード：「脱サラ」、「田舎でのんびり」、「田園」、「老後」



若者主役で地域活性・まちおこし

2000年初頭から始まる、田舎で働き隊（後の地域おこし協力隊）など
若年層の地方回帰支援策と共に、
若者の地方移住が増加し、若者主役の地域活性活動が話題。

キーワード：「地域おこし」、「商店街の再活性」、「空き家活用」



現在

多様な暮らし・多様な働き

地方の人材支援といった国のサポートや働き方改革、特区などの影響から
これまでよりも地方でビジネスといった文脈が多発。
実際に、地方発のベンチャーなども増加傾向。
また、子育て世代をターゲットとした自治体などもフォーカスされている。

キーワード：「リモートワーク」、「地域で副業」、「ソーシャルビジネス」

2 佐久市の現状分析

目的：佐久市の概況・現状を把握する。

手法：産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム「RESAS 地域経済分析システム」などを利用し、佐久市の現状の調査・分析を行った。

2 佐久市の現状分析

(1) 佐久市の概況

■ 位置・自然

佐久市は、長野県の東部（東信地域）で、県下4つの平のひとつである佐久平に位置し、北に浅間山、南に八ヶ岳連峰を望み、蓼科山・双子山（八ヶ岳中信高原国定公園）、荒船山（妙義荒船佐久高原国定公園）に囲まれ、千曲川が南北に貫流する自然環境に恵まれた高原都市。

市の面積は、423.51km²で、市域は東西32.1km、南北23.1kmに及び、気温の較差が大きく降水量が少ないなど、典型的な内陸性気候を示す高燥冷涼地。特に、年間を通して晴天率が高く、国内でも有数の日照時間が多い地域。また、佐久市は、現在、活断層が発見されていないこともあり、比較的災害が少ない地域とされている。

■ 交通アクセス

新幹線の駅と6か所の高速道路インターチェンジがあるなどの高速交通網の充実があげられる。

平成26年度に長野－金沢間が開通した北陸新幹線や、平成22年度に佐久南インターチェンジまで開通した中部横断自動車道により、東京圏から佐久市へのアクセス状況はさらに向上し、佐久市への新たな人や企業の流れを生み出している。

現在、東京－佐久平間は、北陸新幹線を利用して約75分、練馬－佐久間は、関越自動車道・上信越自動車道を利用して、約110分となっているが、今後、北陸新幹線は、平成34年度に金沢－敦賀間が開通、佐久市を横断する中部横断自動車道の延伸などにより、佐久南インターチェンジ出入口に建設された佐久南交流拠点施設などを拠点として、さらなる交流の拡大が期待されている。

■ 地域医療発祥の地

厚生労働省が発表した平成27年都道府県・市町村別生命表によると、長野県は全国的に健康長寿の県で、その中でも佐久市は、男女ともに長野県平均を上回っている。特に女性は、長野県内で1位であり、全国でも11位に位置付けている。

しかし、今でこそ「健康長寿のまち」とされているが、昭和36年、佐久市発足時は、脳卒中の死亡率が全国的にみて大変高い状態だった。そんな中、地域の中核医療機関である浅間総合病院の吉澤名誉院長が提唱した「地域医療」の推進、佐久総合病院の若月名誉総長による「農村医療」の取り組みなどにより、現在では、全国有数の健康長寿のまちになった。

また、平成25年度に開院した佐久総合病院佐久医療センターは、3次救急医療機関であり、救急・急性期医療及び専門医療に特化した、佐久医療圏で初めての「地域医療支援病院」として整備された。

こうした長年積み重ねてきた歴史を承継し、現在でも、市民の健康意識が高いことや、地域保健、医療体制の充実、豊かな自然などの理由から、「健康長寿のまち」とされており、「新しい保健」といった健康長寿のさらなる推進に向けた取り組みも始まっている。

※ 「新しい保健」とは、生まれてくる赤ちゃんからお年寄りまで、家族みんなが健康長寿であり続けるため、各世代に見えてきた課題を克服する取り組みや手法を新しい視点から取り入れた若い世代からの保健予防活動を行うこと。



2 佐久市の現状分析

(1) 佐久市の概況

■長野県内における佐久市の立ち位置

長野県の東の玄関口である佐久市は、小諸市、佐久穂町、御代田町、蓼科町などに隣接している。特に、佐久市の北東に位置し、国際的な保養地として名高い軽井沢町は、北陸新幹線の隣駅であることから、佐久平-軽井沢間の移動者が多く、交流人口の多いまちであると言える。

また、長野県は、東京圏から近く、移住先として人気が高い県であり、県内の他市町村においても移住施策は力を入れている。さらに、長野県はUターン、Jターンの移住希望地として特に人気が高く、その影響を受けてか、佐久市もIターン移住者が多い傾向にある。

ふるさと回帰支援センター（東京）移住希望地ランキング（2009-2017：暦年）

※（NPOふるさと回帰支援センター（東京）に相談来訪者・セミナー参加者、複数回答）

西日本

1月から12月までの1年間に新たに移住相談カード（移住希望者アンケート）を作成した人のみ。

N = 回答件数

2009年		2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年	
順位	県名	順位	県名	順位	県名	順位	県名	順位	県名	順位	県名	順位	県名	順位	県名	順位	県名
1位	福島県	1位	福島県	1位	長野県	1位	長野県	1位	長野県	1位	山梨県	1位	長野県	1位	山梨県	1位	長野県
2位	長野県	2位	長野県	2位	福島県	2位	岡山県	2位	山梨県	2位	長野県	2位	山梨県	2位	長野県	2位	山梨県
3位	千葉県	3位	千葉県	3位	千葉県	3位	福島県	3位	岡山県	3位	岡山県	3位	島根県	3位	静岡県	3位	静岡県
4位	茨城県	4位	岩手県	4位	茨城県	4位	香川県	4位	福島県	4位	福島県	4位	静岡県	4位	広島県	4位	広島県
5位	山梨県	5位	山形県	5位	岩手県	5位	千葉県	5位	熊本県	5位	新潟県	5位	岡山県	5位	福岡県	5位	新潟県
6位	北海道	6位	茨城県	6位	大分県	6位	島根県	6位	高知県	6位	熊本県	6位	広島県	6位	岡山県	6位	福岡県
7位	福井県	7位	宮城県	7位	富山県	7位	大分県	7位	富山県	7位	静岡県	7位	高知県	7位	大分県	7位	岡山県
8位	山形県	8位	山梨県	8位	熊本県	8位	鳥取県	8位	群馬県	8位	島根県	8位	秋田県	8位	新潟県	8位	福島県
9位	静岡県	9位	静岡県	9位	秋田県	9位	宮崎県	9位	香川県	9位	富山県	9位	大分県	9位	長崎県	9位	宮崎県
10位	秋田県	10位	宮崎県	9位	宮崎県	10位	和歌山県	10位	鹿児島県	10位	香川県	10位	宮崎県	10位	宮崎県	10位	富山県
11位	和歌山県	11位	北海道	11位	新潟県	11位	山形県	11位	栃木県	11位	石川県	11位	富山県	11位	高知県	11位	愛媛県
12位	栃木県	12位	秋田県	12位	栃木県	12位	高知県	12位	新潟県	12位	千葉県	12位	長崎県	12位	栃木県	12位	高知県
13位	岐阜県	12位	岐阜県	12位	山梨県	12位	鹿児島県	13位	山口県	13位	群馬県	13位	香川県	13位	鹿児島県	13位	和歌山県
14位	岩手県	12位	大分県	12位	鳥取県	14位	滋賀県	14位	島根県	14位	秋田県	14位	山口県	14位	愛媛県	14位	群馬県
15位	宮城県	15位	栃木県	15位	石川県	15位	山梨県	15位	大分県	15位	山口県	15位	新潟県	15位	富山県	14位	山口県
16位	富山県	16位	福井県	15位	岡山県	16位	埼玉県	16位	茨城県	16位	長崎県	16位	福島県	16位	神奈川県	16位	北海道
17位	新潟県	17位	鹿児島県	15位	鹿児島県	17位	愛媛県	17位	石川県	17位	茨城県	17位	熊本県	17位	群馬県	17位	大分県
18位	宮崎県	18位	群馬県	18位	山形県	18位	熊本県	18位	福井県	18位	広島県	18位	岐阜県	18位	熊本県	18位	栃木県
19位	群馬県	18位	和歌山県	19位	群馬県	19位	栃木県	19位	千葉県	19位	高知県	19位	鹿児島県	19位	福島県	19位	長崎県
20位	埼玉県	20位	富山県	19位	岐阜県	19位	山口県	20位	北海道	20位	和歌山県	20位	秋田県	20位	秋田県	20位	宮城県
				19位	静岡県							20位	三重県				

N = 788

N = 775

N = 406

N = 1,017

N = 1,642

N = 2,885

N = 4,325

N = 6,777

N = 8,498

※ 希望地域ランキング21位以下の集計は行っておりません。（順位のお答えも出来ませんのでご了承ください。）

UJIターン別移住希望地ランキング（2017）

	Iターン	Jターン	Uターン
1	長野県 10.2	山梨県 16.7	新潟県 8.3
2	山梨県 10.1	福岡県 11.5	広島県 6.4
3	静岡県 9.9	長野県 9.8	福岡県 5.5
4	岡山県 9.5	福島県 8.9	福島県 5.5
5	和歌山県 8.4	静岡県 7.9	栃木県 5.1
6	福岡県 8.2	宮崎県 7.9	北海道 4.5
7	福島県 6.9	岡山県 7.5	静岡県 4.5
8	広島県 6.8	宮城県 7.2	宮崎県 4.4
9	北海道 6.4	大分県 6.9	長崎県 4.3
10	大分県 6.2	佐賀県 5.9	山口県 4.2

(n=5140※複数回答)

※ふるさと回帰支援センター | 2017年移住希望地域ランキング | プレスリリース より抜粋

2 佐久市の現状分析

(2) RESASによる佐久市の現状分析

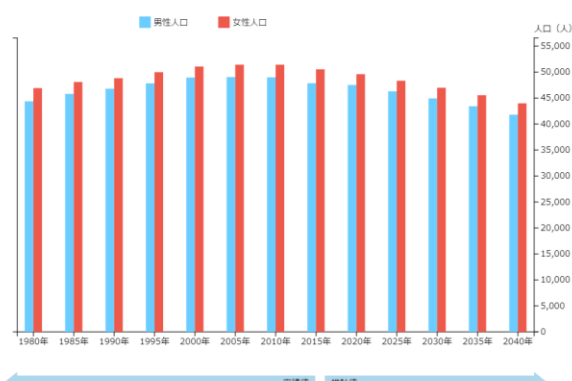
本項からは、産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム「RESAS 地域経済分析システム」を利用し、佐久市の現状を集約する。

■ 人口

人口動態全体では減少傾向だが、社会人口は微増傾向である。

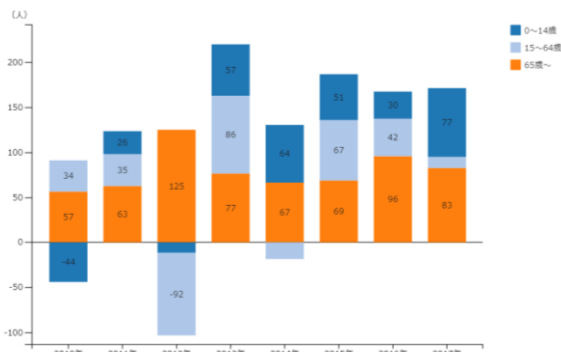
長野県佐久市 合計特殊出生率と人口推移

下限：なし～ 上限：なし



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

長野県佐久市 年齢階級別純移動数



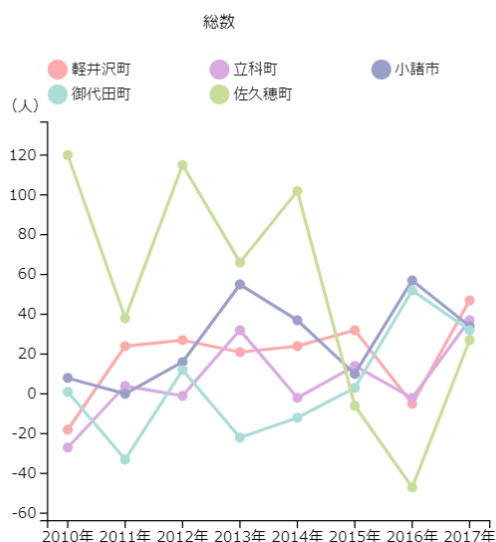
【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

【注記】2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成25年3月公表）に基づく推計値。

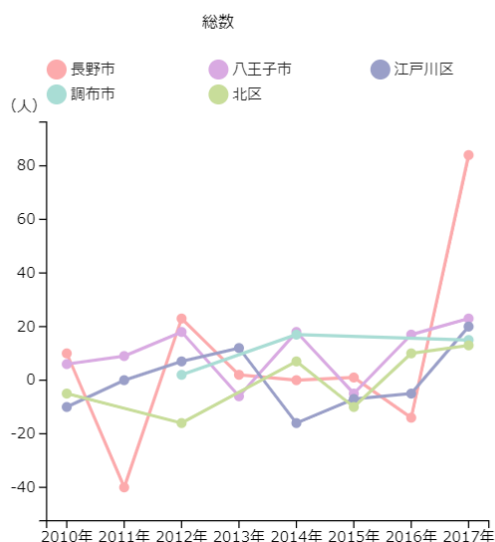
■ 転入出者の推移

佐久市への転入者のTOP5を見ると、県内からの転入者が多い。一方で、転出者のTOP5では県内の他市町村のほか、東京への転出も多いことが伺える。

転入超過数上位5地域 2017年



転出超過数上位5地域 2017年



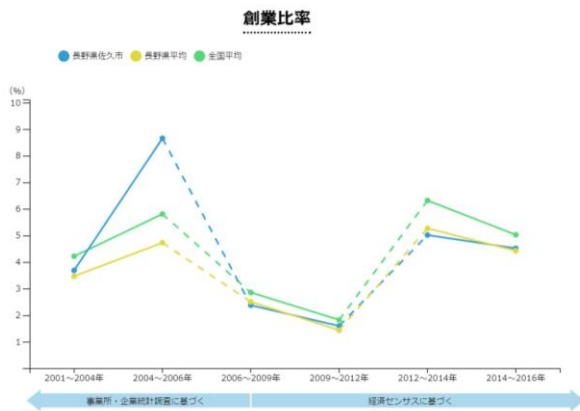
【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

佐久市の現状分析

RESASによる佐久市の現状分析

■ 起業動態

民間企業の創業は2004年～2006年をピークに減少しています。



創業比率順位

長野県佐久市

2016年

都道府県内	全国
25 位	594 位

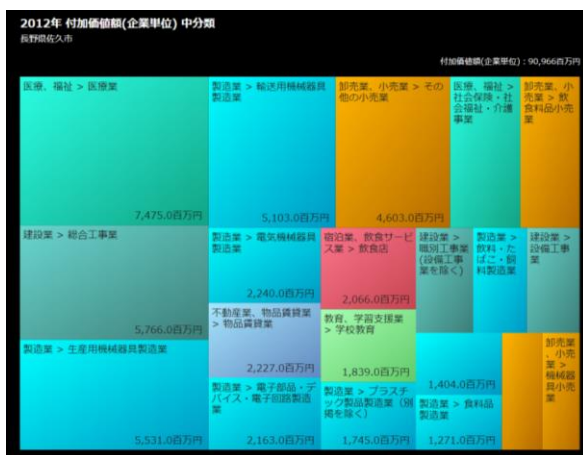
全国上位10市区町村	全国下位10市区町村	指定地域の上位5市区町村
1位 福島県富岡町	1,729位 北海道様月町	591位 沖縄県国頭村
2位 福島県楢葉町	1,730位 高知県大川村	591位 長野県諏訪市
3位 福島県浪江町	1,730位 奈良県黒滝村	591位 北海道西興部村
4位 北海道陸奥町	1,730位 長野県北相木村	594位 大分県臼杵市
5位 宮城県女川町	1,730位 東京都青ヶ島村	594位 愛媛県今治市
6位 宮城県南三陸町	1,730位 東京都利島村	594位 長野県佐久市
7位 沖縄県北中城村	1,730位 福島県飯館村	594位 埼玉県浦和市
8位 岩手県大槌町	1,730位 福島県大郷町	598位 大分県田市
9位 岩手県山田町	1,730位 青森県西目屋村	599位 鹿児島県種子町
10位 東京都渋谷区	1,730位 北海道島村	599位 鹿児島県薩摩川内市

【出典】総務省「事業所・企業統計調査」、総務省「経済センサス－基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」

【注記】平成21年経済センサス－基礎調査及び「平成24年経済センサス－活動調査」では、新設事業所の定義が異なるため、「2006-2009年」及び「2009-2012年」の創業比率は、前後の数字と単純に比較できない。

■ 産業構造

医療福祉・製造業の産業は、佐久市を特徴づける産業といえる。
地域の雇用は、様々な産業があり、中小企業の多さが伺える。



【出典】総務省・経済産業省「平成24年経済センサス－活動調査」再編加工
【注記】付加価値額 = 売上高 - 費用総額 + 給与総額 + 租税公課
(費用総額 = 売上原価 + 販売費及び一般管理費)

【出典】総務省「経済センサス－基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工

3 他都市との比較分析

目的：他都市との比較により、佐久市の強み・弱みなどを把握し、より正確な佐久市の現状理解を行う。

手法：東京圏からの距離や社会人口の推移、移住施策などから、佐久市と特徴が近い他都市を4都市選出し、以下の3つの観点から比較分析を実施した。

①移住施策

総務省が平成29年度に実施した「田園回帰に関する調査研究報告書」の「第3章 過疎市町村に対する調査」において、移住・定住促進施策の一覧を基に、他都市において該当する施策の実施有無を調査。結果をまとめるにあたり、比較をしやすいするため、施策数に応じて「○」「△」「×」の4段階評価とした。

②市インターネット調査

市インターネット調査の認知度・来訪度の結果を参照した。

③メディア露出分析

TV、WEB記事、Twitterの各種メディアにおいて、2017年4月～2018年3月までの1年間の露出件数等を比較。特に、任意の3ヶ月間（2017年4月～6月）において、露出の推移と露出内容を分析し、都市ごとの傾向をまとめた。

TVはエヌケン（※1）、WEB記事はRUNDA（※2）、Twitterはsocial Insight（※3）を利用した。

※1 エヌケン <http://news.n-monitor.co.jp/>

※2 RUNDA <https://runda.jp/concept/>

※3 Social Insight <https://social.userlocal.jp/>

3 他都市との比較分析

(1) 比較する都市の設定

佐久市の認知度の向上や交流人口、関係人口の創出、移住定住人口の増加につなげるためには、他の数多ある自治体から「選ばれる市」になることが重要。そのために、東京駅からの距離や社会人口の推移、移住施策などから、佐久市と特徴が近い他都市との比較を行うことで、佐久市の現状をより正確に理解し、佐久市の強み・弱みなどの把握に役立てる。

4 都市を選出し、様々な角度から佐久市との比較を行った。

- A市** 県内の比較対象となりやすい都市
- B市** 全国的に見ても移住希望者が多い県で、佐久市と近い都市
- C市** 距離感や人口増減以外に気候が近く、移住施策の戦略性も高い都市
- D市** 移住者向け雑誌「田舎暮らしの本」で、移住したい若者世代・子育て世代が住みたい街ランキング上位常連都市であることからピックアップ。

3 他都市との比較分析

(2) 移住施策の比較

■ 移住関連施策実施比較

佐久市は、他都市と比べても比較的移住施策は充実しているといえる。特に、移住後の支援が手厚く、住み続けることに適した支援環境が比較的整っているといえる（「子育て・医療に関する支援施策」、「教育に関する施策」）。また、移住直前の移住検討者を移住に後押しする施策や、継続的に佐久市と交流を持ちたいと思う人と継続的に交流できる施策が豊富である（「移住体験に関する施策」、「関係人口増加を目的とした支援施策」）。

一方で、**佐久市を知らない人に対する施策（「移住に関する情報提供」）は、改善の余地があり、継続的な情報発信を続けていくことで、現在充実している施策もより効果を期待できる**といえるだろう。

佐久市の移住施策において、**弱みといえるのが、仕事に関する支援施策で、他都市と比べて充実した内容といえない**。ベースとなる施策の整備を整えるだけでなく、さらに魅力的な雇用の受け皿をつくることも求められていくだろう。

施策等	主な内容	佐久市	A市	B市	C市	D市
総合的な移住相談窓口	・移住相談窓口の設置 ・移住相談員、定住コーディネーターの設置 ・移住相談、支援等を行っているNPO方針等の支援	○	△	×	◎	○
移住に関する情報提供	・個別相談会の実施 ・ポータルサイト（移住、定住専用サイト）の開設 ・SNS、メールマガジン等の活用 ・専用のパンフレット、ガイドブック等の配布 ・移住・定住フェアへの出店、開催	○	◎	△	◎	◎
移住体験に関する施策	・地域内での移住体験の実施 ・地域内の見学ツアーの記載	◎	×	×	○	◎
住まい・暮らしに関する支援施策	・空き家の斡旋 ・空き家バンク制度 ・定住促進住宅の斡旋 ・公営住宅の斡旋 ・住宅建築・改築、購入に関する助成 ・空き家改修経費の助成	○	△	△	○	◎
仕事に関する支援施策	・就活支援窓口の設置 ・インターネットによる就職情報の提供 ・農業体験等の機会の提供 ・技術習得に関する機会の提供・補助金 ・就農者等に対する給付金・生活費支援 ・受け入れ農家とのマッチング支援 ・起業・就業に対する金融支援・補助金	△	△	○	◎	◎
子育て・医療に関する支援施策	・出産・検診費用の助成 ・子どもの医療費の助成	◎	×	○	◎	◎
教育に関する支援施策	・奨学金の給付、貸与、返済一部免除 ・保育料の軽減、免除	◎	×	×	○	◎
関係人口増加を目的とした支援施策	・菜園・田畑等の貸付（滞在型市民農園を含む） ・都市住民との交流イベントの開催	◎	×	×	○	○

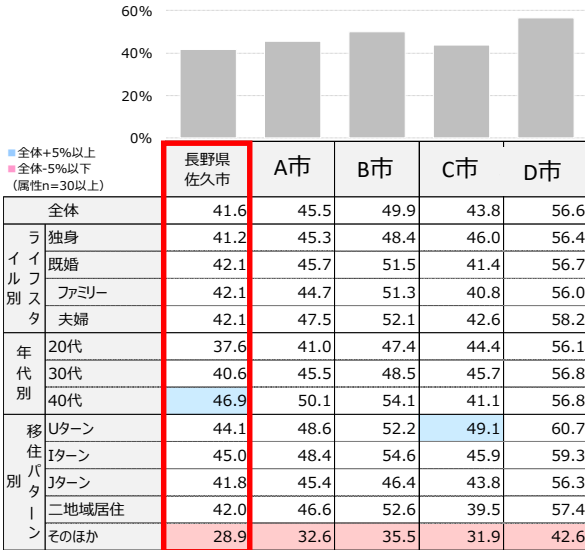
3 他都市との比較分析

(3) インターネット調査による認知度・来訪度比較／(4) メディア露出比較

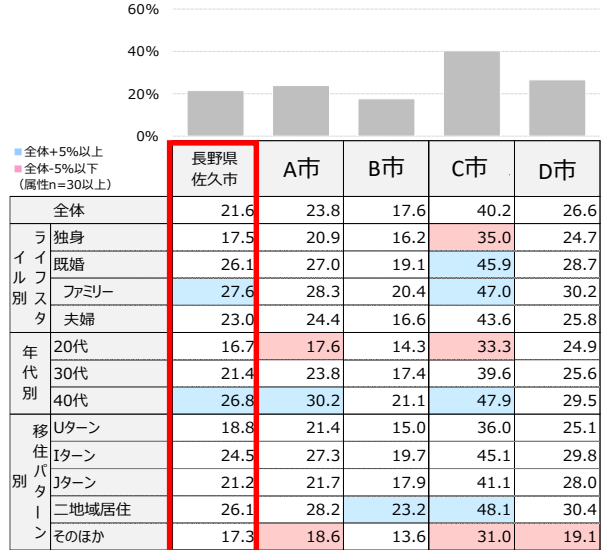
■ 認知・来訪度

東京圏の移住検討者の「佐久市」認知率、来訪度が全体的に低い傾向。
佐久市のポイントとしては、全体的に40代が高い傾向。

認知率／東京圏S15



来訪度／東京圏S15



■ メディア露出量

- ✓ 年間の露出量を見ると、佐久市はTV露出が少ないが、Twitterのリーチ数が多い傾向。
- ✓ Twitterのリーチ数は、バルーンフェスタや高校野球などの全国的に知られるイベント時の伸びが高く、このようなイベントが年間を通して複数回あり、これにより、他都市と比べても数値が高かったといえる。

	TV	WEB	Twitter 投稿数	Twitter リーチ数	Twitter RT数
佐久市	21	1,390	84,328	238,048,879	50,689
A市	63	2,185	147,486	255,409,098	75,592
B市	6	516	119,396	174,426,886	93,871
C市	55	1,241	48,337	84,732,460	29,169
D市	37	1,277	45,906	80,213,655	27,674

3 他都市との比較分析

(4) メディア露出比較

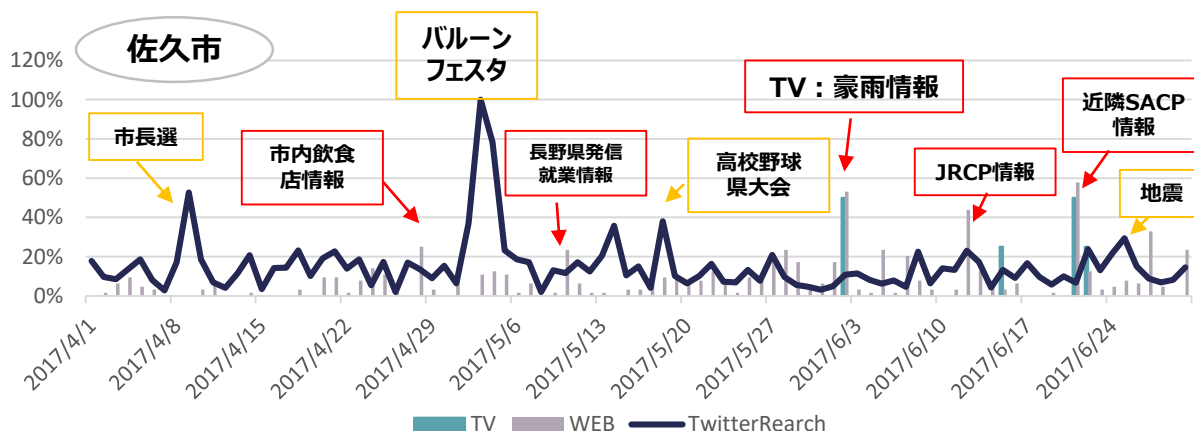
■メディア露出推移

全体を通してのファインディングス

- ✓ どの都市も主な露出トピックスを見ると、地元企業の情報や気象・事件事故報道がほとんどで、自治体から経常的な情報発信がなされていない。
- ✓ WEB、SNSの情報は、単一のメディアでしか拡散がされていない。
- ✓ 情報は単発で、波及していく傾向が少ないといえる。

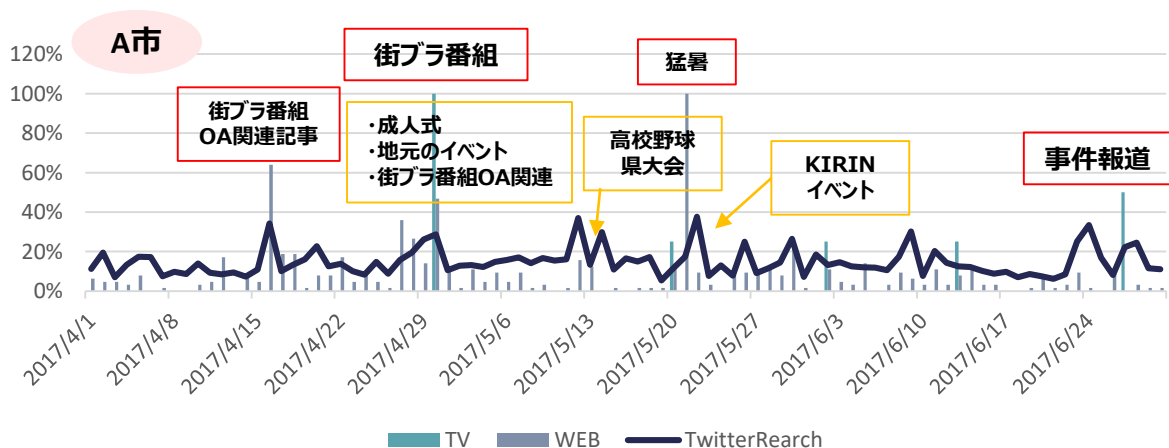
佐久市

他都市と比べ、良かった点としては、自治体が主催するイベントの様子を参加者が中心にSNSで投稿されており、コンテンツパワーの強いイベント企画・運営ができているといえる。一方で、自治体の経常的な情報発信が少なく、ベースとなる情報量は少ない。また、Twitterにおいては、市長のアカウントの影響力が強いといえる。



A市

他都市には見られなかったTV露出を起点としてWEB・SNS上でも情報は立体的に拡散していた点が良い点。これは、話題になる番組構成ができるだけの地域の特性があったからだといえる。ただ、TV露出は偶発的な産物であり、分析した期間に同様の露出を見受けることができなかった。よって、より戦略的に構築できるかが今後の課題といえる。

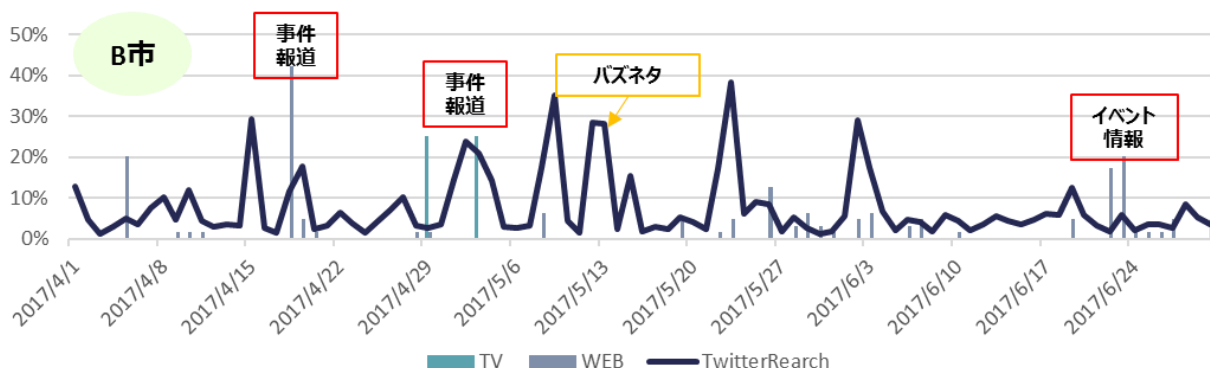


3 他都市との比較分析

(4) メディア露出比較

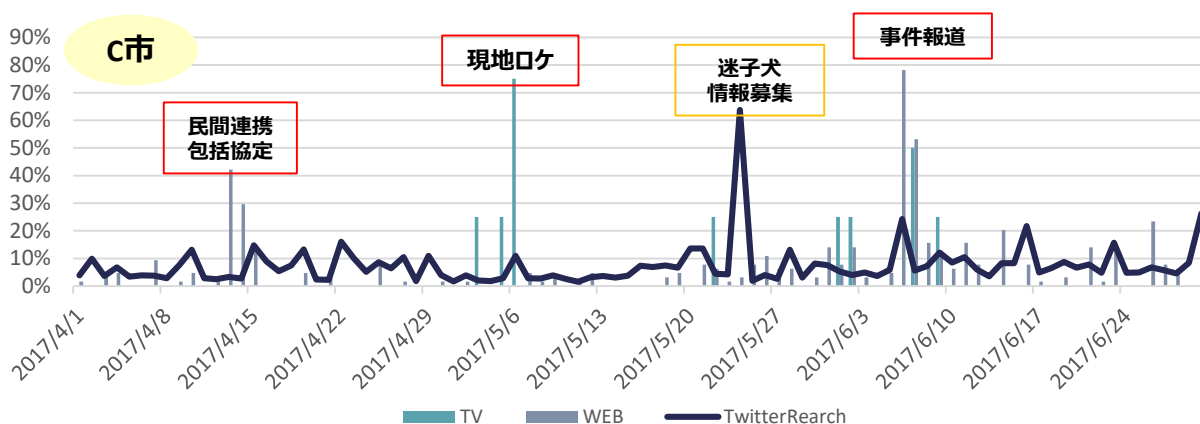
B市

他都市と比べ、TV、WEB記事、SNS全体を通して露出量が少ない。特徴的だったポイントとしては、twitter上の個人のネタ投稿が拡散した「バズネタ」が露出の中にあった点。バズネタは偶発的なものであるが、今後、同様の投稿でバズが発生するとすれば、そのネタの要素がB市ならではの特徴といえるだろう。



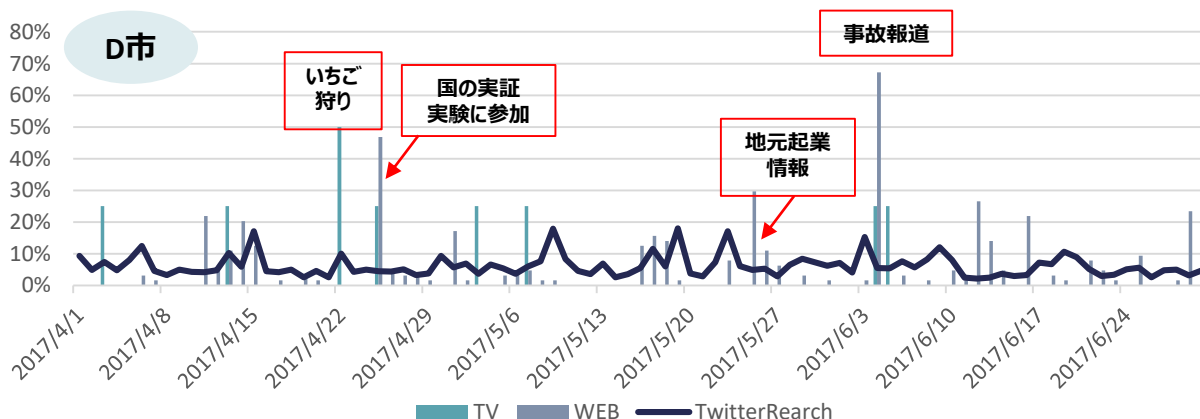
c市

SNSのリーチ数が他都市と比べ低かった。一方で、地域特性上、TV取材やロケ地として多く使われる傾向があった。注目したい点としては、民間連携で包括協定締結記事がc市の露出の中では伸びたという点で、ニュースバリューがあるコンテンツといえる。



D市

SNSのリーチが他都市と比べ低く、特段目立つ露出がなかった。



4 インターネット調査

目的：移住や佐久市の実態を把握する。

手法：東京圏在住者、東京圏から関東甲信越への移住者、佐久市民（移住者含む）へインターネット調査を実施した。

4 インターネット調査

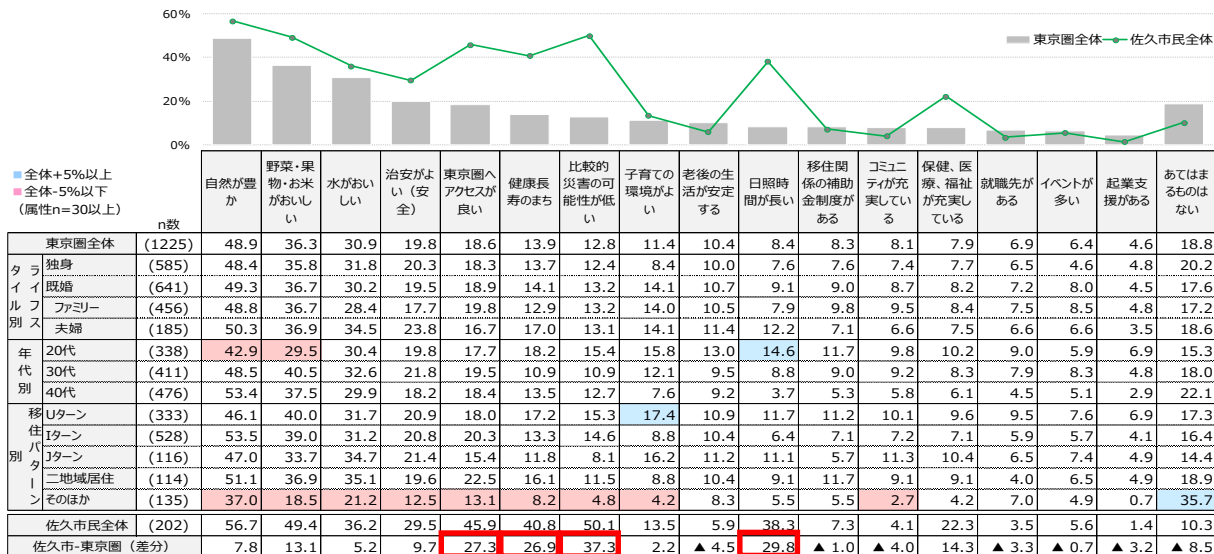
(1) インターネット調査に基づくファインディングス

■ 佐久市のイメージ

東京圏の3割以上の人々が、佐久市のイメージとして、「自然が豊か」、「野菜・果実・お米がおいしい」、「水がおいしい」を挙げた。これらは佐久市以外の都市でも当てはまる内容であることから、佐久市の特徴的なイメージが東京圏の移住検討者には想起されていないと考えられる。

佐久市民と東京圏在住者でイメージのギャップがあったものは、「東京圏へアクセスが良い」、「健康長寿のまち」、「比較的災害の可能性が低い」、「日照時間が長い」。

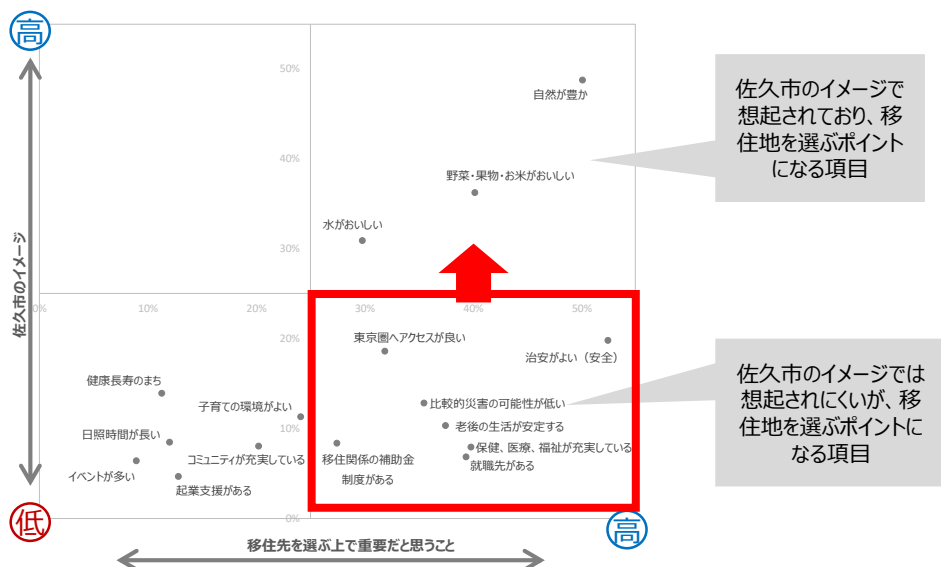
佐久市のイメージ／東京圏Q10 [MA]



■ 佐久市のイメージと移住において重要な要素の相関

佐久市のイメージで想起されており、移住地を選ぶポイントになる項目が、移住地としての佐久市の優位性である。佐久市のイメージでは想起されにくい、移住地を選ぶポイントになる項目において、佐久市のイメージが想起されるように変化させていくことが重要である。

佐久市のイメージ／東京圏Q10 [MA]



4 インターネット調査

(1) インターネット調査に基づくファインディングス

■ 移住後のギャップ

移住前後のギャップは、移住者全般においてはほとんどなく、思った通りの移住をした人が多い。
佐久市の移住者も、思っていたより良い移住をした人が多かった。

移住者全般の回答で、Iターン移住者が思っていたより良かったと答えたように、佐久市の移住者はIターンが多いことも要因のひとつだと考えられる。

移住後に感じたギャップ／関東甲信越Q6[SA]

		■ 思っていたより良かった	■ やや思っていたより良かった	■ 思っていたとおりだった	■ やや思っていたより良かった	■ 思っていたより良かった	TOP2 合計 (%)	BTM2 合計 (%)
全体	(243)	17.8	19.8	41.1	13.2	8.1	37.7	21.2
ライフスタイル別								
独身	(101)	17.2	24.2	38.2	12.9	7.6	41.4	20.4
既婚	(93)	20.6	19.2	40.1	13.2	8.9	39.8	20.1
ファミリー	(63)	28.0	18.3	37.1	7.8	8.9	46.3	16.6
夫婦	(30)	5.2	21.1	46.4	24.6	1.1	26.3	27.4
リタイア層・50-60代	(49)	13.8	12.0	49.0	13.7	11.4	25.9	25.1
年代別								
20代	(81)	21.8	27.7	34.9	11.6	1.0	49.5	15.6
30代	(68)	15.4	21.9	39.2	14.8	8.6	37.4	23.4
40代	(46)	18.6	11.2	46.3	12.8	11.0	29.8	23.9
50-60代	(49)	13.8	12.0	49.0	13.7	11.4	25.9	25.1
移住パターン別								
Iターン	(89)	12.5	17.8	50.1	13.1	6.5	30.3	19.6
Uターン	(67)	19.8	31.1	27.0	14.6	7.5	50.9	22.1
二地域居住	(8)	44.9	10.7	22.8	10.9	10.7	55.5	21.6
その他	(5)	15.9	49.4	17.7	17.0		65.3	17.0
その他	(27)	30.7	9.8	41.3	11.9	5.3	40.5	18.2

【良かった理由】

- ☺ 人との繋がりが感じられる。
- ☺ 農家さんから、沢山の貰い物がある。
- ☺ 車があると買い物が便利でわざわざ遠くまで行く必要がなく、暮らしやすい。

【良くなかった理由】

- ☹ 交通の便が悪く施設も少ない。
- ☹ 歩いていける距離にお店がない。車が必須。お店が少ない。
- ☹ 子育て環境があまり整っていない。

移住後に感じたギャップ／佐久市Q22[SA]

	■ 思っていたより良かった	■ やや思っていたより良かった	■ 思っていたとおりだった	■ やや思っていたより良かった	■ 思っていたより良かった	TOP2 合計 (%)
移住市民全体 (105)	25.0	47.4	9.6	4.2	13.9	72.4

【良かった理由】

- ☺ 晴天率が高い。(女性30代・Jターン)
- ☺ 自然がとても豊か。(女性50代・Iターン)
- ☺ 住みやすい。(男性40代・Uターン)
- ☺ 夏涼しい。(女性40代・そのほかのパターン)
- ☺ 戸建住宅を建てる事が出来た。(男性30代・Iターン)

【良くなかった理由】

- ☹ 地域での同世代の交流が薄い、昔からお住いの方々と若干のしがらみが苦痛。(男性50代・二地域居住)
- ☹ 田舎の人ほど親切だと思っていたが実際はよそ者には壁が厚かった。(女性50代・Iターン)
- ☹ 地元活動や労働時間が長く、ワークライフバランスが崩れた。(男性30代・Uターン)
- ☹ ゴミ収集が厳しかったり、移動時間が長かったりと考えていたのとは違った障壁があった。(男性30代・Jターン)
- ☹ 道路事情が悪い。(男性50代・Uターン)
- ☹ 町の街灯が少なく、夜道を歩くのが不安だった。(女性40代・そのほかのパターン)
- ☹ 交通機関が思いのほかダメ。(男性60代・Jターン)
- ☹ 異常に寒い。(男性30代・二地域居住)

4 インターネット調査

(1) インターネット調査に基づくファインディングス

■ 移住後のギャップ

移住市民が移住してギャップがあったことは仕事や収入に関してで、移住した人の移住前の不安も仕事や収入面への不安が強かったことから、仕事に関する積極的な情報発信や産業を育てる取り組みを行う必要がある。

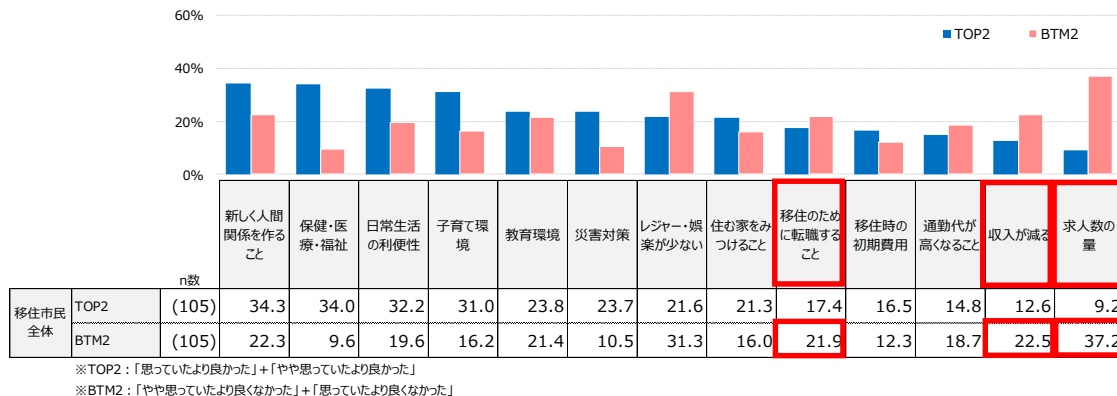
思っていたより良くなかったこと／関東甲信越Q7[SAMX]

※数値はBTM2(「やや思っていたより良くなかった」+「思っていたより良くなかった」)

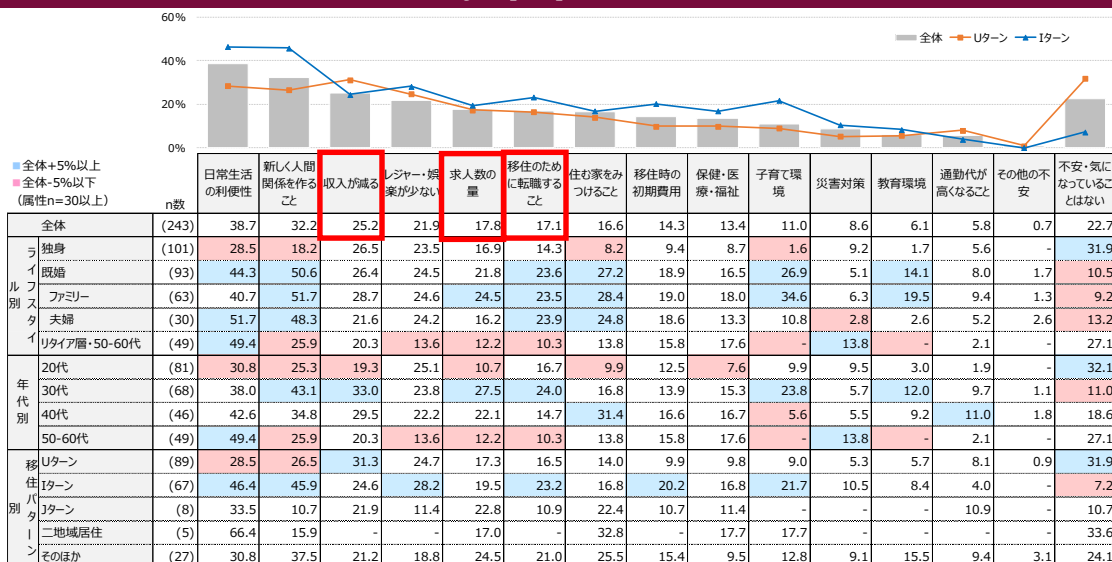
■ 全体+5%以上
■ 全体-5%以下 (属性n=30以上)

	n数	求人数の量	レジャー・娯楽が少ない	日常生活の利便性	収入が減る	新しく人間関係を作ること	通勤代が高くなること	保健・医療・福祉	移住のために転職すること	移住時の初期費用	教育環境	子育て環境	災害対策	住む家を見つけること
全体(MA)	(243)	32.7	30.0	27.0	23.5	23.1	22.4	21.7	19.7	19.6	18.9	16.6	15.6	14.5
ライフスタイル														
独身	(101)	24.3	32.1	30.6	27.4	19.3	20.6	15.7	19.2	19.7	13.5	10.4	15.6	12.8
既婚	(93)	45.3	29.0	23.5	22.1	27.9	23.8	27.1	20.3	23.5	23.4	21.9	16.5	20.8
ファミリー	(63)	42.4	29.8	21.7	20.9	29.5	24.9	28.5	21.0	20.5	28.0	20.5	19.2	21.8
夫婦	(30)	51.4	27.3	27.3	24.5	24.5	21.4	24.2	18.8	29.7	13.8	24.9	10.7	18.7
リタイア層・50-60代	(49)	25.9	27.5	25.8	17.9	21.7	23.4	23.9	19.6	12.0	21.4	19.6	13.6	5.8
年代別														
20代	(81)	33.8	31.8	30.7	27.9	22.3	16.3	21.2	16.5	24.1	17.3	11.7	21.2	14.5
30代	(68)	33.4	32.4	24.2	20.6	24.4	27.8	18.1	18.1	16.8	14.3	13.0	12.0	13.0
40代	(46)	36.9	25.8	25.7	25.8	24.0	23.8	25.8	27.7	24.0	25.8	27.7	12.9	25.8
50-60代	(49)	25.9	27.5	25.8	17.9	21.7	23.4	23.9	19.6	12.0	21.4	19.6	13.6	5.8
移住パターン別														
Uターン	(89)	29.6	30.5	23.6	27.1	22.8	19.7	19.8	18.2	21.6	12.8	11.8	14.2	16.3
Iターン	(67)	43.3	36.0	32.2	22.7	26.6	27.2	26.5	19.3	26.5	23.7	20.5	20.3	15.5
Jターン	(8)	22.4	10.9	10.9	10.9	33.0	10.9	21.9	33.0	10.9	22.4	11.4	10.9	10.9
二地域居住	(5)	52.4	-	34.7	34.7	34.7	50.6	17.7	34.7	35.5	17.7	17.7	17.7	33.6
その他	(27)	28.2	28.5	30.4	24.8	12.8	15.1	13.1	19.0	9.4	22.0	19.1	12.7	18.9

移住後に感じたギャップ／佐久市Q23[SAMX]



移住を検討する上で不安だったこと／関東甲信越Q17[MA]



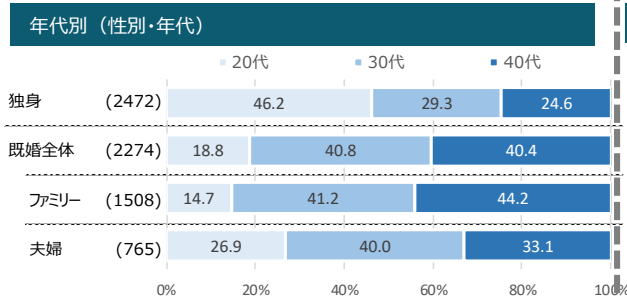
4 インターネット調査

(1) インターネット調査に基づくファインディングス

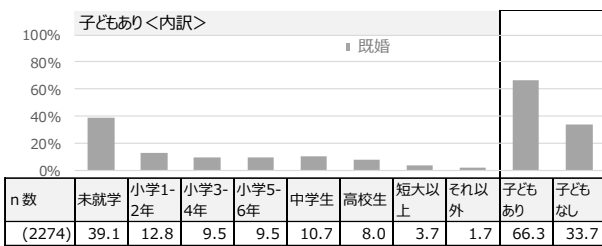
■ 移住検討者と佐久市への移住検討者の実態

移住検討者全体では、独身20代、既婚30代が多いが、佐久市への移住検討者では、40代が若干多く、子どもあり層が増えている。

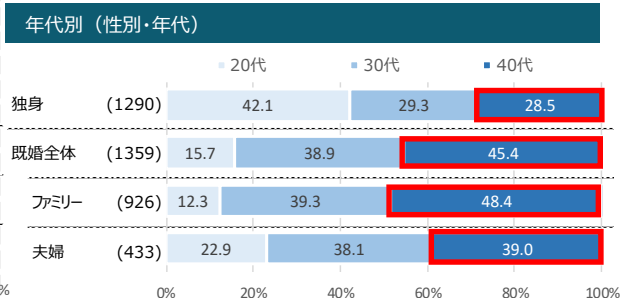
東京圏在住 移住検討者の属性



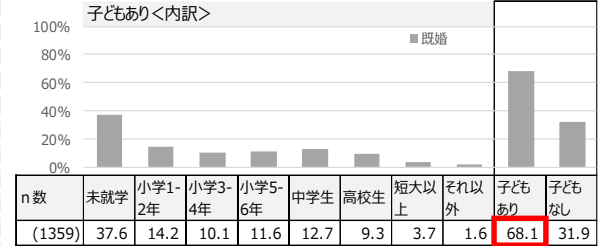
【既婚】子どもの有無



東京圏在住 佐久市への移住検討者の属性

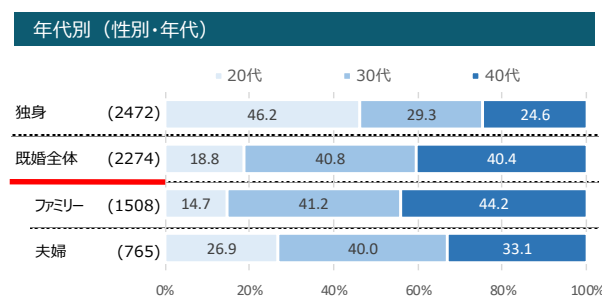


【既婚】子どもの有無

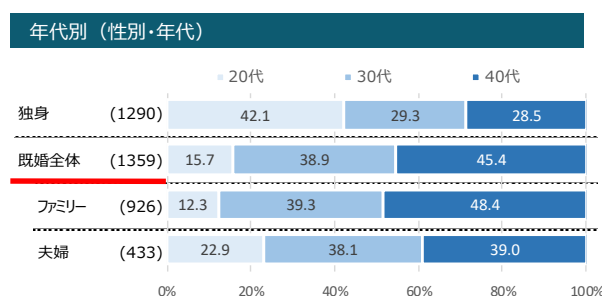


佐久市への移住検討者は、移住検討者全体と比較すると、既婚者の比率が高いのが印象的。実際の移住者においては、20代が最も多く。独身と既婚においては数値に大きな差は出ていないが、ファミリーと夫婦ではファミリーのほうが多く、全体の傾向としては移住検討者と実際の移住者の属性は、ほぼ類似していると言える。

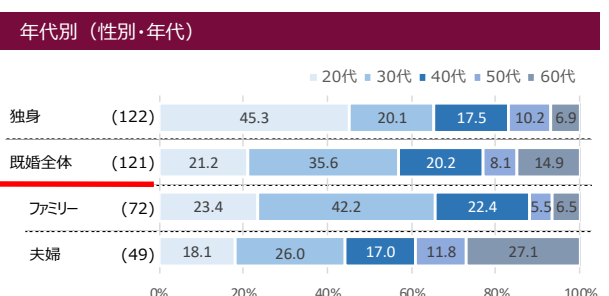
東京圏在住 移住検討者の属性



佐久市移住検討者の属性



関東甲信越への移住者の属性



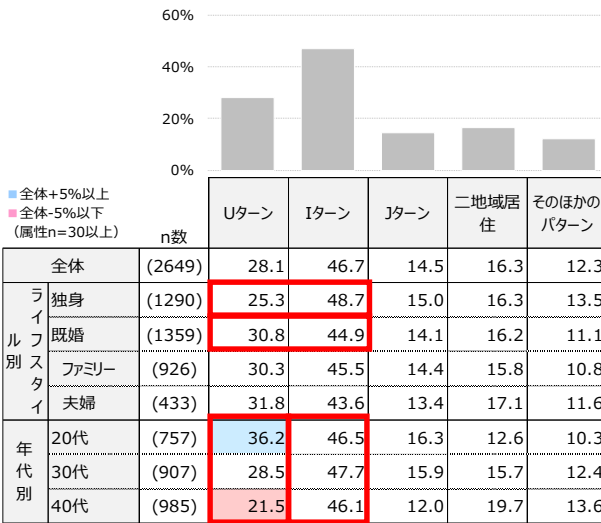
4 インターネット調査

(1) インターネット調査に基づくファインディングス

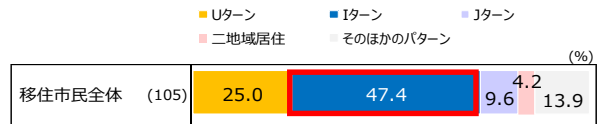
■ 佐久市移住検討者の移住希望パターン

希望する移住のパターンでは、全体的にIターンが多い。特にIターンとUターンでは、ライフスタイル、年齢に差がある傾向。実際に佐久市に移住した方もIターンの方が多かった。

希望する移住パターン／東京圏S12[MA]



移住パターン／佐久市Q17[SA]



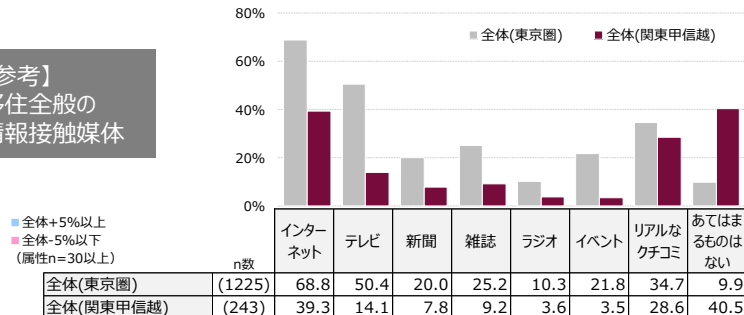
4 インターネット調査

(1) インターネット調査に基づくファインディングス

どの調査においても、移住全般の情報接触媒体としては、「インターネット」が約4割以上と一番高く、知人や友人、現地に生活している人の意見（口コミ）も高い数値を示した。そのため、インターネットを活用した情報発信は、移住を現実的に検討している層に向けて有効であるといえる。また、移住検討者と移住経験者で情報接触媒体は多少異なる。

■ 移住全般の情報接触について

【参考】
移住全般の
情報接触媒体



n = 東京圏・移住検討者（佐久市認知あり）
関東甲信越・移住経験者（直近4年以内）

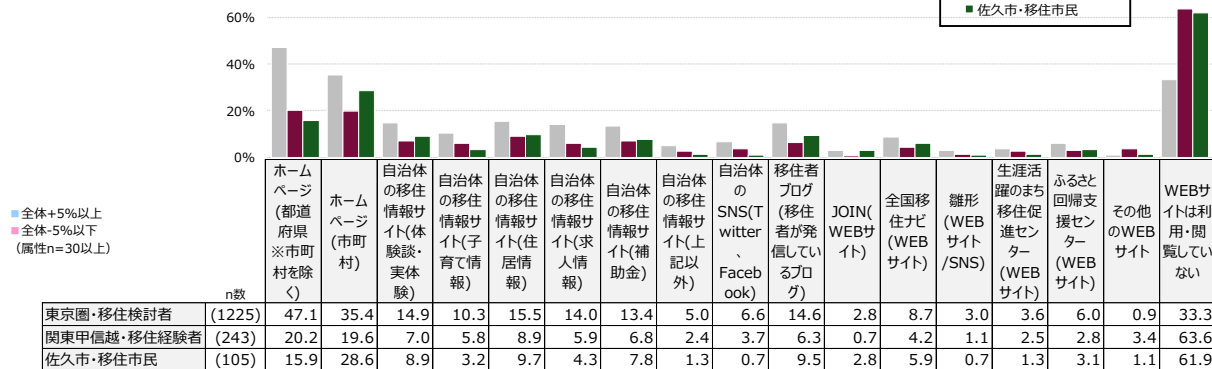
※「あてはまるものはない」には、移住候補地の情報収集をしていない者が含まれる。

移住全般のインターネット情報接点／東京圏Q7 [MA]

移住全般のインターネット情報接点／関東甲信越S14 [MA]

移住全般のインターネット情報接点／佐久市Q26 [MA]

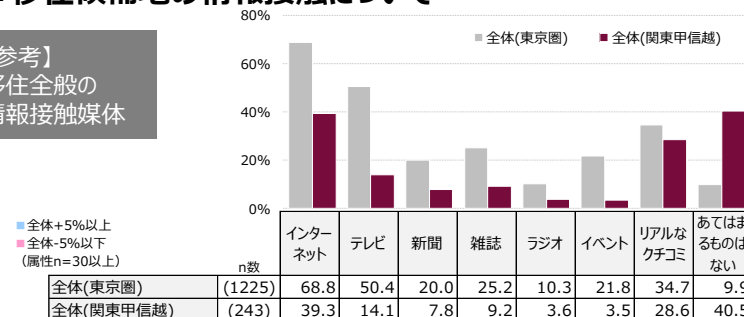
n = 東京圏・移住検討者（佐久市認知あり）
関東甲信越・移住経験者（直近4年以内）
佐久市・移住市民（移住時期不問）



※「WEBサイトは利用・閲覧していない」に差があるが、移住時期や回答対象の年代差による影響が大きいため比較は参考とする。

■ 移住候補地の情報接触について

【参考】
移住全般の
情報接触媒体



n = 東京圏・移住検討者（佐久市認知あり）
関東甲信越・移住経験者（直近4年以内）

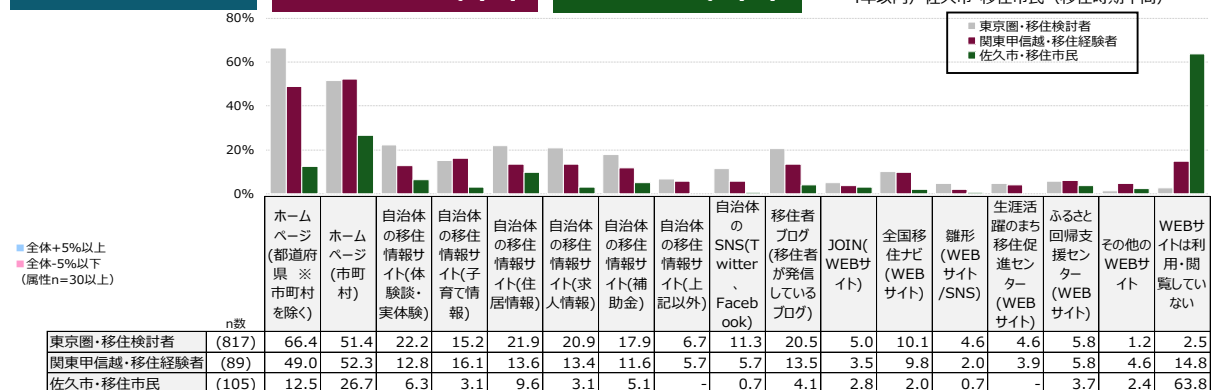
※「あてはまるものはない」には移住候補地の情報収集をしていない者が含まれる。

移住候補地のインターネット情報接点／東京圏Q8 [MA]

移住候補地のインターネット情報接点／関東甲信越Q9 [MA]

移住全般のインターネット情報接点／佐久市Q27 [MA]

n = 移住関連でWebで情報収集あり、かつ、東京圏・移住検討者（佐久市認知あり） 関東甲信越・移住経験者（直近4年以内） 佐久市・移住市民（移住時期不問）



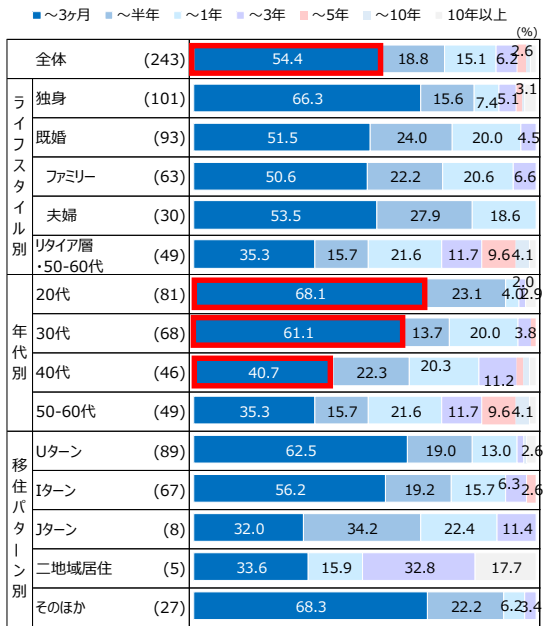
4 インターネット調査

(1) インターネット調査に基づくファインディングス

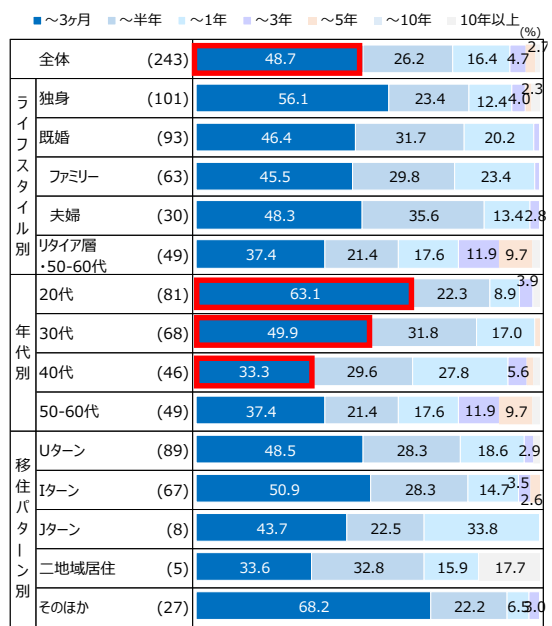
■ 移住経験者の移住実態

3ヶ月以内に移住が決定し、さらに、移住地が決まってから引っ越しまでも3ヶ月以内で行う人が最も多い。また、年代が若い層ほど期間が短い傾向がみられる。

移住地が決定するまでの期間／関東甲信越S12_1[SA]



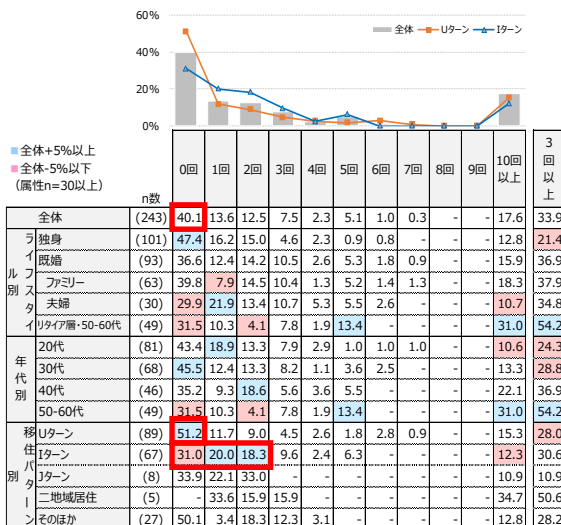
移住地決定から引っ越しまでの期間／関東甲信越S12_2[SA]



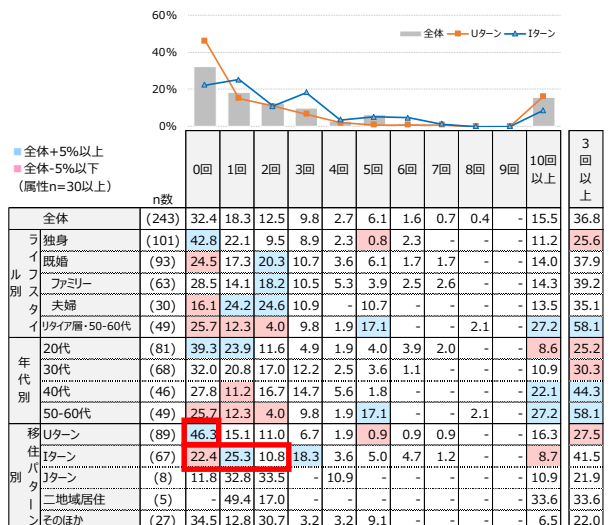
※2%未満の数値ラベルは非表示

移住候補地を決定するまで、現地への訪問回数が0回が最も多い。移住候補地になってから、移住地を決定するまでの訪問回数は、Uターンは0回が最も多く、移住地へ訪れずに移住を決定する。Iターンは2回以下の訪問で、移住地を決定する人が半数を超える。

移住候補地決定までの来訪回数
／関東甲信越S15_1[SA]



移住候補地になってから決定するまでの来訪回数
／関東甲信越S15_2[SA]



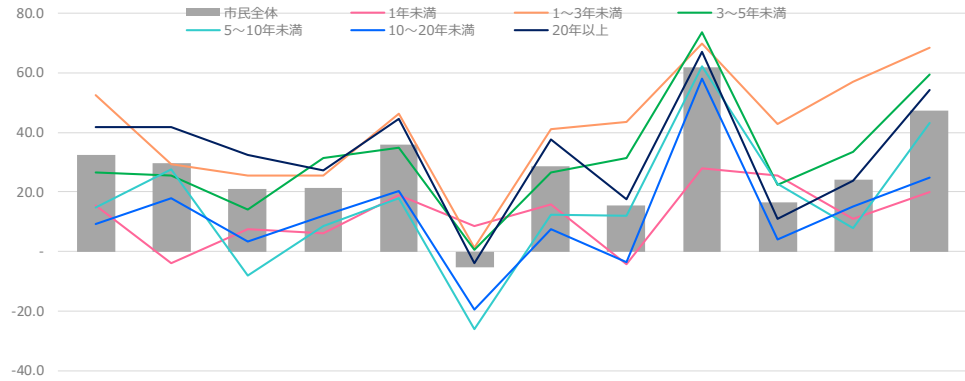
4 インターネット調査

(1) インターネット調査に基づくファインディングス

■ 居住歴とシビックプライド指標

居住歴20年以上の定住者のシビックプライドが高くなる傾向にあるため、シビックプライドを高めることは定住者の増加につながると考えられる。

シビックプライド各指標／佐久市Q9[SAMX]



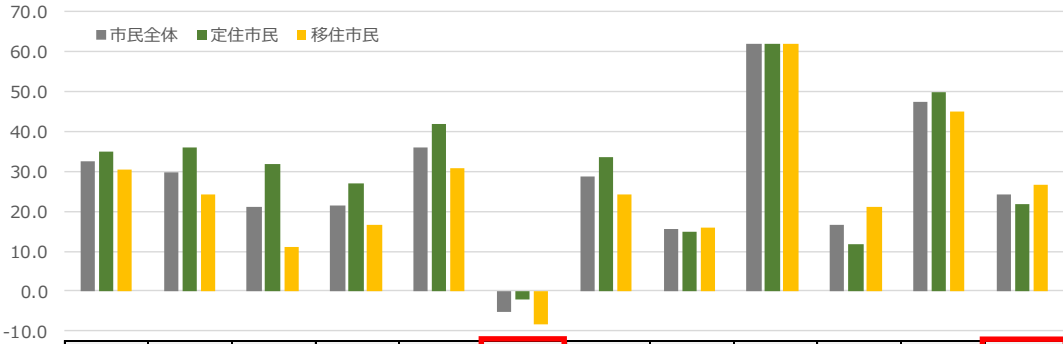
※スコアについて：
各指標は「とても思う／まったくそう思わない」の5段階尺度で聴取。それぞれに100、50、0、-50、-100の加重値を用いて平均値を算出した

			このまちが好きだ	このまちに親しみを 感じる	このまちから離れても 戻ってきたい	このまちに住んでいる 自分が好きだ	このまちを大切に思 う	このまちにステータス を感じる	このまちは自分に 合っている	このまちにいと楽し い	まちがより良くなって 欲しいと思っている	このまちのイベントや 活動に参加したいと思っ ている	佐久市で暮らし続け たい	佐久市の良いところ を人と共有したい
全体		(202)	32.6	29.8	20.9	21.6	36.0	-5.3	28.8	15.4	61.7	16.5	24.3	47.2
居住歴別	1年未満	(23)	15.7	-3.9	7.4	6.1	18.9	8.6	15.9	-4.2	27.9	25.5	10.9	19.9
	1～3年未満	(22)	52.7	29.4	25.5	25.4	46.2	1.2	41.3	43.6	69.9	42.8	57.1	68.4
	3～5年未満	(12)	26.6	25.7	14.0	31.5	34.9	0.5	26.6	31.5	73.7	22.5	33.5	59.5
	5～10年未満	(13)	14.7	27.8	-8.0	8.6	17.9	-25.9	12.4	11.9	62.2	22.8	7.8	43.2
	10～20年未満	(30)	9.4	17.9	3.4	12.1	20.2	-19.4	7.7	-3.5	58.1	4.0	15.0	24.8
	20年以上	(102)	41.8	41.7	32.5	27.3	44.5	-3.8	37.5	17.7	67.1	11.0	23.8	54.3

■ シビックプライド指標

シビックプライドとは、「郷土愛だけでなく、主体的にまちを良くしよう」という概念である。
シビックプライドの指標は、様々なものがあるが、その中から、「このまちにステータスを感じる」、「佐久市の良いところを人と共有したい」を設定した。「このまちにステータスを感じる」は、シビックプライド指標の中で最も低い値となった。

シビックプライド各指標／佐久市Q9[SAMX]



※スコアについて：
各指標は「とても思う／まったくそう思わない」の5段階尺度で聴取。それぞれに100、50、0、-50、-100の加重値を用いて平均値を算出した

			このまちが好きだ	このまちに親しみを 感じる	このまちから離れても 戻ってきたい	このまちに住んでいる 自分が好きだ	このまちを大切に思 う	このまちにステータス を感じる	このまちは自分に 合っている	このまちにいと楽し い	まちがより良くなって 欲しいと思っている	このまちのイベントや 活動に参加したいと思っ ている	佐久市で暮らし続け たい	佐久市の良いところ を人と共有したい
市民全体	(202)		32.6	29.8	20.9	21.6	36.0	-5.3	28.8	15.4	61.7	16.5	47.2	24.3
定住市民	(97)		35.1	35.8	31.6	26.8	41.7	-2.0	33.7	14.9	61.7	11.7	49.7	21.8
移住市民	(105)		30.3	24.3	11.0	16.7	30.6	-8.4	24.3	15.9	61.7	21.0	44.9	26.6
定住市民-移住市民			4.8	11.5	20.6	10.2	11.1	6.4	9.3	▲ 1.0	0.0	▲ 9.3	4.8	▲ 4.8

4 インターネット調査

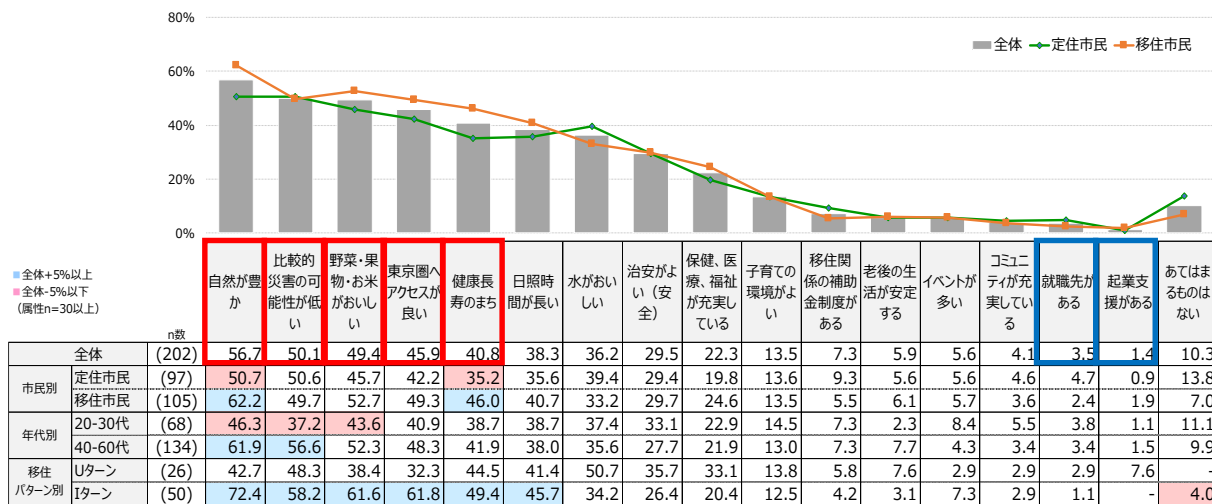
(1) インターネット調査に基づくファインディングス

■ 佐久市のイメージ

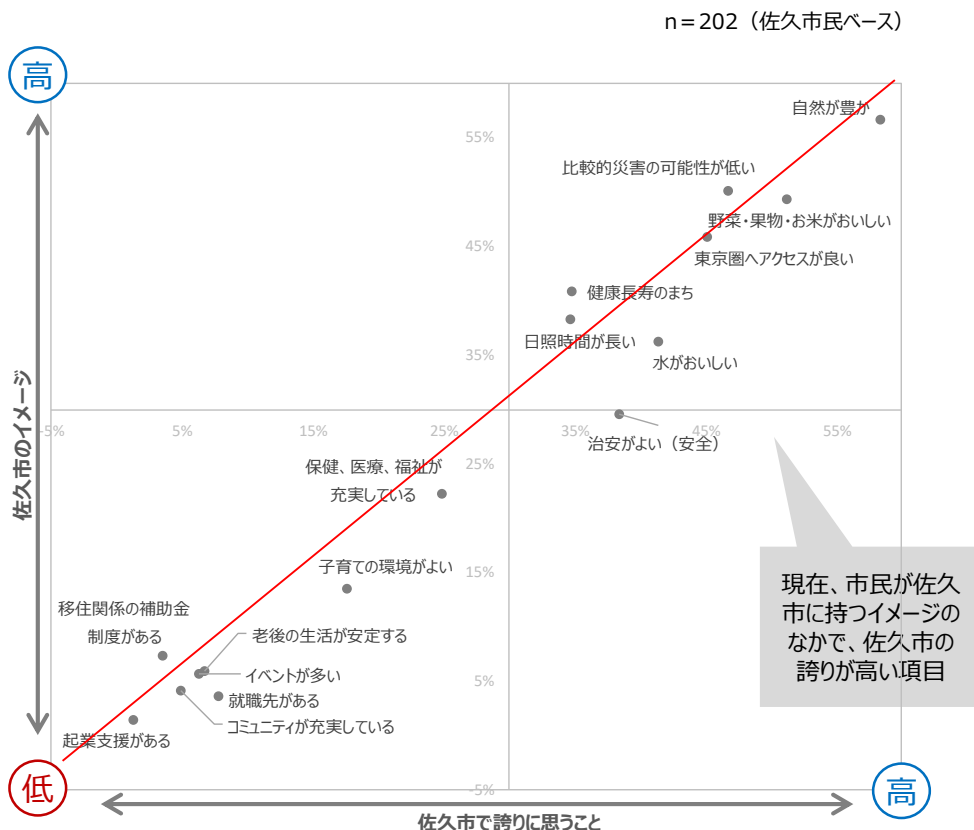
佐久市のイメージは、自然環境や交通の利便性、福祉医療等の公共サービスの充実度など、住居環境の良さを示す項目の数値が高かった。一方で、就業に関するイメージは低い。

佐久市のイメージと佐久市で誇りに思うことが相関していることから、佐久市のイメージとして想起できる要素を増やすことが佐久市で誇りに思うことを増やすことにつながる。佐久市で誇りに思うことを増やすことは、シビックプライドの醸成につながると考えられる。

佐久市のイメージ／佐久市Q16 [MA]



佐久市のイメージ／佐久市Q16 [MA]



4 インターネット調査

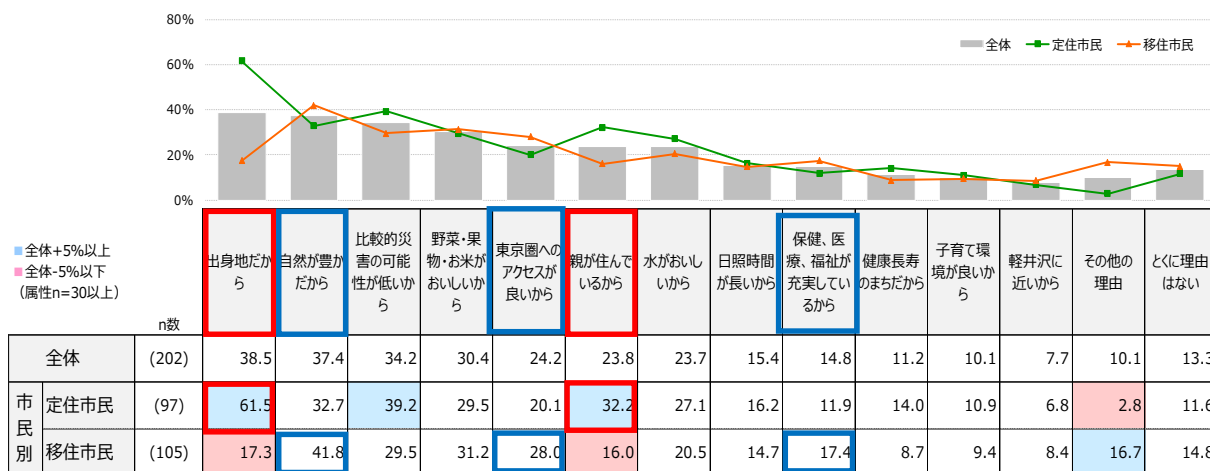
(1) インターネット調査に基づくファインディングス

■ 定住する理由

佐久市に住み続ける理由は、市民別で傾向が異なる。定住市民は出身地や家族を理由に上げる人が多く、移住市民は住居環境のメリットを上げる人が多かった。

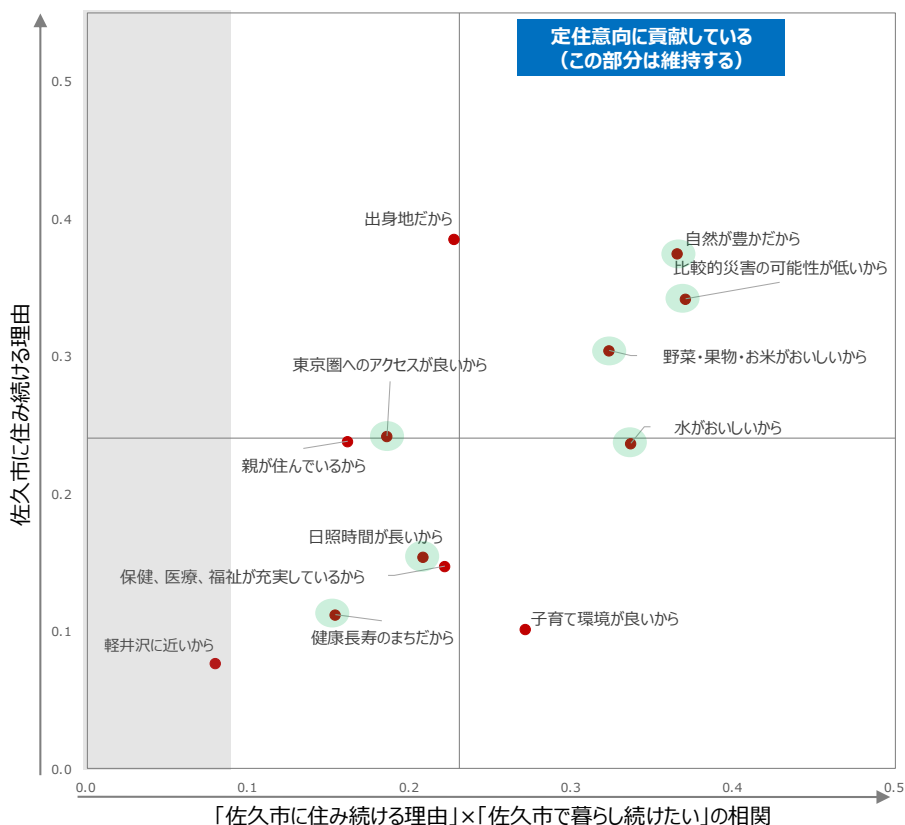
そういった中で、佐久市に住み続ける人を増やすためには、住み続ける理由としてすぐに想起できるような佐久市のイメージが強い要素を増やすことが重要である。

佐久市に住み続ける理由／佐久市Q12[MA]



佐久市に住み続ける理由／佐久市Q12 [MA]

n = 202 (佐久市民ベース)



- 佐久市に住み続ける理由のなかでも、定住意向（佐久市で暮らし続けたい）と相関が高いため維持することが望ましい項目は「自然が豊かだから」「比較的災害の可能性が低いから」「野菜・果物・お米がおいしいから」であった。

平均値

横軸：0.24

縦軸：0.23

※グレーの網掛けは、定住意向と無相関であるため、改善の必要性は低い。

※●は佐久市のイメージが3割以上ある項目

4 インターネット調査

(2) 定量調査 結果サマリー

ア 調査設計



移住ターゲット像を把握するため佐久市の「知名度」「イメージ」等の意識調査を行う

- ①どのようなセグメントがプロモーションのターゲットになるのか。
- ②どのようなポイントが移住地選定の訴求になりうるのか。
- ③東京圏の移住希望者は佐久市にどのようなイメージを持っているのか。
- ④どのように情報を伝えることが有効なのか。



東京圏から一定の距離にあるエリアへの移住者から、移住に関する意識や行動を探る

- ①どのようなポイントが移住地選定の訴求になったのか。
- ②移住するまで、どのような行動をし、どのような情報を必要としていたのか。



佐久市の「住み心地」「強み」等のシビックプライド醸成のための意識調査を行う

- ①佐久市民はどのようなシビックプライドを持っているのか。
- ②佐久市民は佐久市にどのようなイメージを持っているのか。
- ③移住市民はなぜ佐久市に移住してきたのか。
- ④どのような媒体で情報を伝えることが有効なのか。

調査設計 <定量調査> 東京圏

調査手法	インターネット調査
謝礼	アンケートポイント
調査エリア	東京圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）
調査項目	スクリーニング調査：18問 本調査：17問
調査対象者	●インターネットパネルから条件合致者を抽出 ●20歳～49歳の男女
サンプル割付	●地方移住に関心がある人 ●佐久市を知っている人 ●佐久市が移住の選択肢になる人（TOP3：移住地として1.とても魅力がある、2.やや魅力がある、3.どちらともいえない、4.あまり魅力がない、5.まったく魅力がないの5段階尺度で1～3の合計）を除く
集計方法	ウェイトバック集計 回収サンプルを市場ボリュームに換算するために、回収数と実際の人口から割り出した「ウェイトバック値」を掛け合わせて算出

調査手法	インターネット調査
謝礼	アンケートポイント
調査エリア	福島、茨城、栃木、群馬、新潟、山梨、長野、静岡 ※佐久市民は長野から除く
調査項目	スクリーニング調査：16問 本調査：20問
調査対象者	●インターネットパネルから条件合致者を抽出 ●20歳～69歳の男女
サンプル割付	●東京圏から現居住エリアに移住した ●移住時期は直近4年以内
集計方法	ウェイトバック集計 回収サンプルを市場ボリュームに換算するために、回収数と実際の人口から割り出した「ウェイトバック値」を掛け合わせて算出

調査設計＜定量調査＞ 佐久市

- 佐久市調査はインターネットパネルのほか、「さくネット」によるアンケートを実施した。

① インター ネット パネル	調査手法	インターネット調査
	謝礼	アンケートポイント
	調査エリア	長野県佐久市
	調査項目	スクリーニング調査：17問 本調査：18問
	調査対象者	●インターネットパネルから条件合致者を抽出 ●20歳～69歳の男女
	サンプル割付	●現在、佐久市に住んでいる
② さくネット	調査手法	インターネット調査
	謝礼	なし
	調査エリア	長野県佐久市
	調査項目	スクリーニング調査：16問 本調査：20問
	調査対象者	●「さくネット」にメール配信してアンケートURLに誘導 ●20歳～69歳の男女
	サンプル割付	●現在、佐久市に住んでいる

①と②を合算し、ウェイトバック集計を行った

集計について＜ウェイトバック値＞

東京圏

	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	合計
人口	2,022,927	2,517,356	2,978,189			1,915,960	2,394,382	2,818,880			14,647,694
構成比	13.8%	17.2%	20.3%			13.1%	16.3%	19.2%			100.0%
アンケート回収数	1,514	3,325	4,113			2,651	3,450	4,128			19,181
構成比	7.9%	17.3%	21.4%			13.8%	18.0%	21.5%			100.0%
ウェイトバック値（WB）	1.75	0.99	0.95			0.95	0.91	0.89			
WB後サンプル数	2649	3296	3900			2509	3135	3691			19,181
WB後サンプル比率	13.8%	17.2%	20.3%			13.1%	16.3%	19.2%			100.0%

関東甲信越

	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	合計
人口	818,108	1,067,261	1,257,079	1,121,517	1,332,228	748,778	997,338	1,191,861	1,097,858	1,351,940	10,983,968
構成比	7.4%	9.7%	11.4%	10.2%	12.1%	6.8%	9.1%	10.9%	10.0%	12.3%	100.0%
アンケート回収数	499	1,095	1,337	1,131	1,277	852	1,186	1,324	989	452	10,142
構成比	4.9%	10.8%	13.2%	11.2%	12.6%	8.4%	11.7%	13.1%	9.8%	4.5%	100.0%
ウェイトバック値（WB）	1.51	0.90	0.87	0.92	0.96	0.81	0.78	0.83	1.02	2.76	
WB後サンプル数	755	985	1161	1036	1230	691	921	1100	1014	1248	10,142
WB後サンプル比率	7.4%	9.7%	11.4%	10.2%	12.1%	6.8%	9.1%	10.9%	10.0%	12.3%	100.0%

佐久市

	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	合計
人口	4,623	5,637	6,821	6,153	7,107	4,304	5,384	6,512	6,058	7,058	59,657
構成比	7.7%	9.4%	11.4%	10.3%	11.9%	7.2%	9.0%	10.9%	10.2%	11.8%	100.0%
アンケート回収数	11	25	27	17	18	26	27	28	17	6	202
構成比	5.4%	12.4%	13.4%	8.4%	8.9%	12.9%	13.4%	13.9%	8.4%	3.0%	100.0%
ウェイトバック値（WB）	1.42	0.76	0.86	1.23	1.34	0.56	0.68	0.79	1.21	3.98	
WB後サンプル数	16	19	23	21	24	15	18	22	21	24	202
WB後サンプル比率	7.7%	9.4%	11.4%	10.3%	11.9%	7.2%	9.0%	10.9%	10.2%	11.8%	100.0%

※総務省統計局 国勢統計調査結果より、調査母数は50歳未満以上および信頼に値する。
<https://www.stat.go.jp/kokou/trivia/careers/careers8.html>

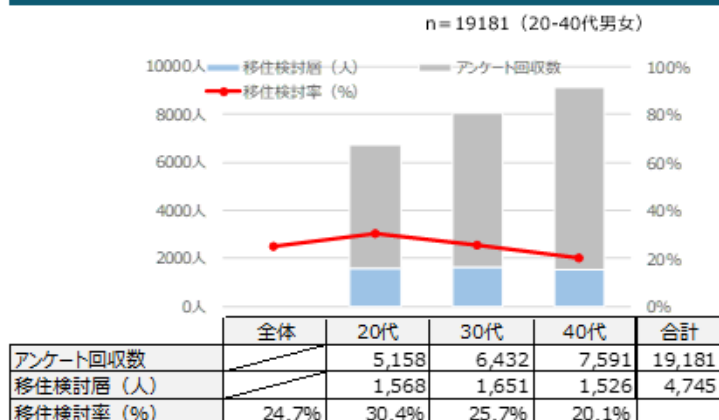
Ⅰ 調査結果

(ア) 東京圏調査

移住検討者の基本属性

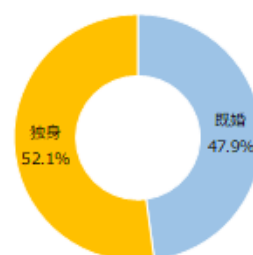
- 東京圏20-40代の移住検討率は24.7%。20代の移住検討率は高いが、人数ベースでは30代の方が移住検討者数は多い傾向。（30代の方が移住検討率は低いが人口が多いため実数では20代を上回る）
- 移住検討者の婚姻状況をみると、既婚47.9%・独身52.1%。僅かに独身が多い。

年代別



婚姻状況

n = 4,745 (移住検討者)

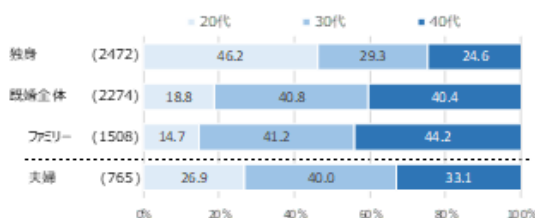


移住検討者の基本属性

n = 移住検討者ベース

- 独身の移住検討者は20代が約半数を占める。フルタイム勤務が52.1%、学生（短大以上）が14.5%であった。
- 既婚の移住検討者は30-40代が多く、ファミリー（子どもあり）が66.3%、夫婦（子どもなし）が33.7%であった。ファミリーでは「未就学」がいる世帯がボリューム層。夫婦は66.9%が共働き。

年代別（性別・年代）



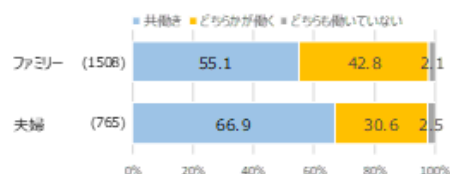
職業



【既婚】子どもの有無



【既婚】家庭内の働きかた状況



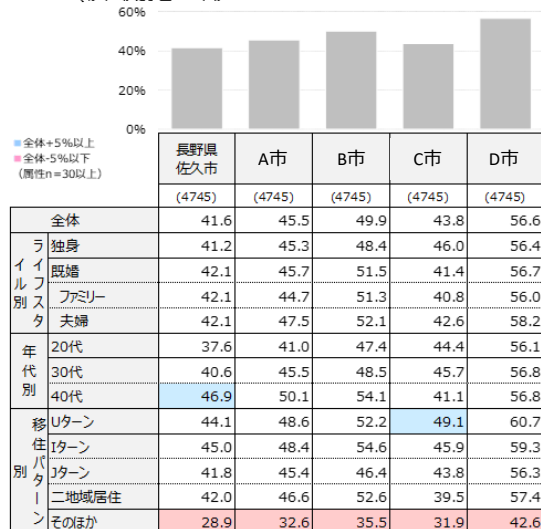
佐久市のポジション

n = 移住検討者ベース

- 東京圏の移住検討者の「佐久市」認知率は41.6%、交流率（行ったことがある）は21.6%であった。長野県内で比較すると、全体的にA市のスコアを下回る。

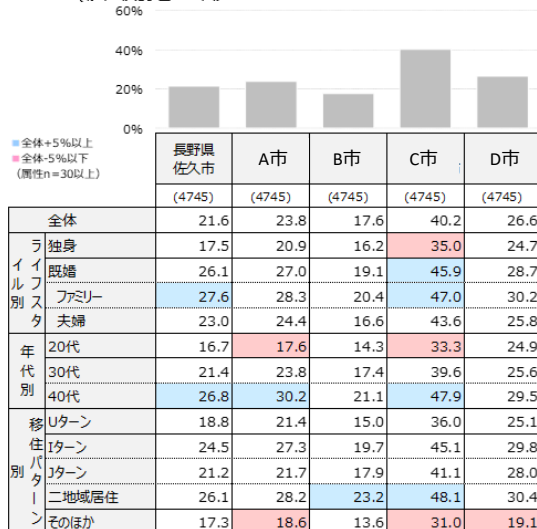
認知率／東京圏S15

n = 4745（移住検討者ベース）



交流率／東京圏S15

n = 4745（移住検討者ベース）

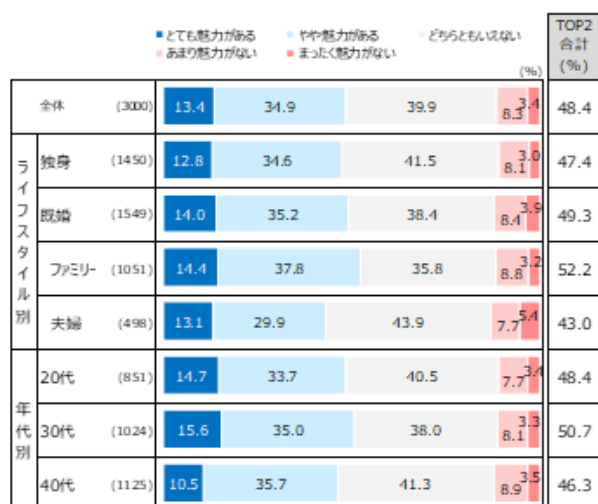


佐久市のポジション

n = 移住検討者 & 佐久市認知ベース

- 「佐久市」の移住地としての魅力度は48.4%。ライフスタイル別ではファミリーのスコアが52.2%で最も高い。
- 魅力がある理由には「自然が豊か」であることが目立つ。魅力がない理由では「魅力がない」というより「魅力がわからない」意見が複数あった。

移住先としての魅力度／東京圏S16



魅力がある理由

- ① 交通のアクセスがよいこと、自然が豊か、観光で訪れたことがあり親しみがある。
- ② 実際行ったことがあるが自然豊かで住みやすそうだったから
- ③ 駅伝の名門、佐久長聖高校があるので、日常的に練習風景を見られるなら面白い
- ④ 山に囲まれていて、自然が豊かで、のどかなイメージだから。

魅力がない理由

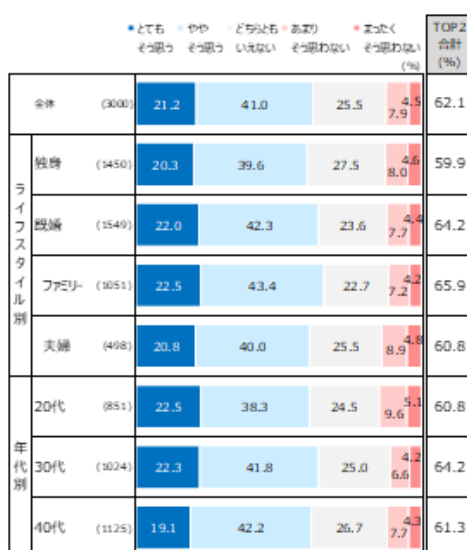
- ① 逆に、何か魅力があるのか。並大抵のことでは一般的な魅力として打ち出したとは言えない
- ② 佐久市そのものにはあまり魅力的ではないと思う。隣町が軽井沢なので、観光地へのアクセスは良いとおもう。
- ③ 名前を聞いたことがあるだけ。魅力的な場所という認識がない。

佐久市のポジション

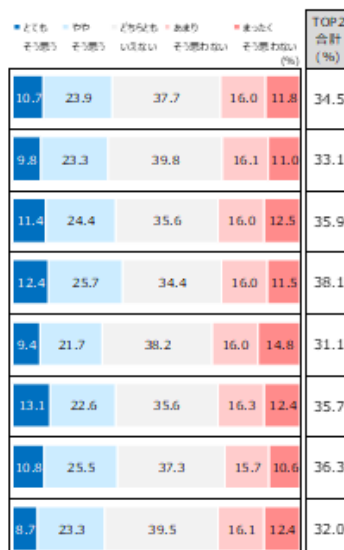
n = 移住検討者かつ佐久市認知者ベース

- 東京圏の移住検討者で、佐久市に行ってみたい人(TOP2:「とてもそう思う」+「ややそう思う」)は62.1%。佐久市が移住の候補地になる人は34.5%。佐久市に住んでみたい人は32.5%であった。いずれもスコアも、最も高いのはファミリー。

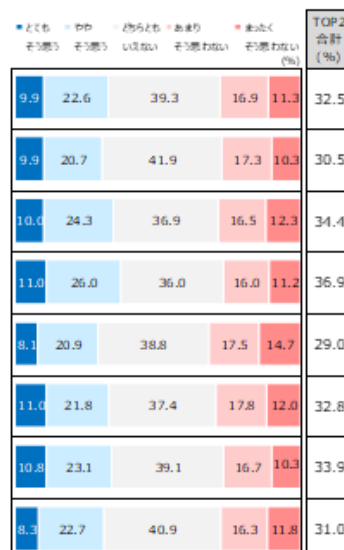
行ってみたい／東京圏S18_1



移住の候補地になる／東京圏S18_2



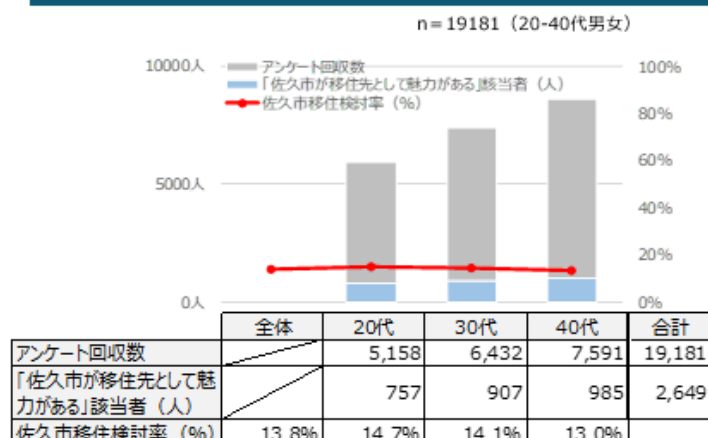
住んでみたい／東京圏S18_3



佐久市移住検討者の基本属性

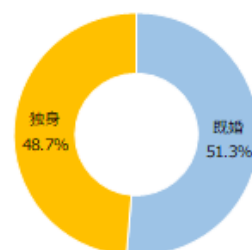
- 東京圏20-40代の佐久市移住検討率は13.8%。年代による大きな差はみられない。人数ベースでは40代の移住検討者数が多い傾向。(40代の人口が多いため)
- 佐久市移住検討者(佐久市の移住地魅力度TOP3の人)の婚姻状況をみると、既婚51.4%・独身48.6%。僅かに既婚が多い。

年代別



婚姻状況

n = 2649 (佐久市の移住地魅力度TOP3ベース)

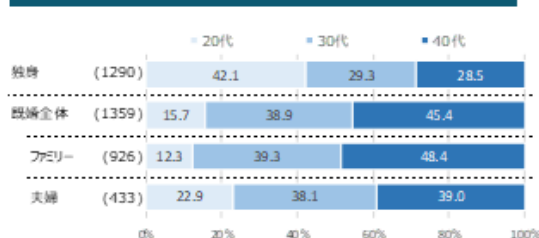


佐久市移住検討者の基本属性

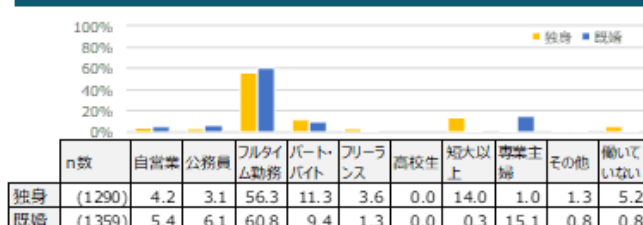
n = 佐久市移住検討者ベース

- 佐久市移住検討者のうち、独身は20代が4割強。フルタイム勤務が56.3%、学生が14.0%。
- 既婚は30-40代が多く、ファミリー（子どもあり）が68.1%、夫婦（子どもなし）が31.9%。ファミリーでは「未就学」がいる世帯がボリューム層。夫婦は67.8%が共働き。

年代別 (性別・年代)



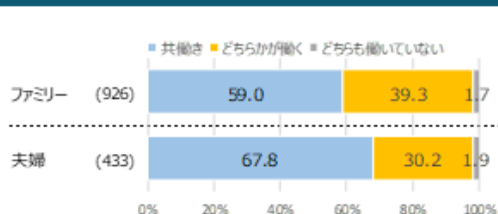
職業



【既婚】子どもの有無



【既婚】家庭内の働きかた状況

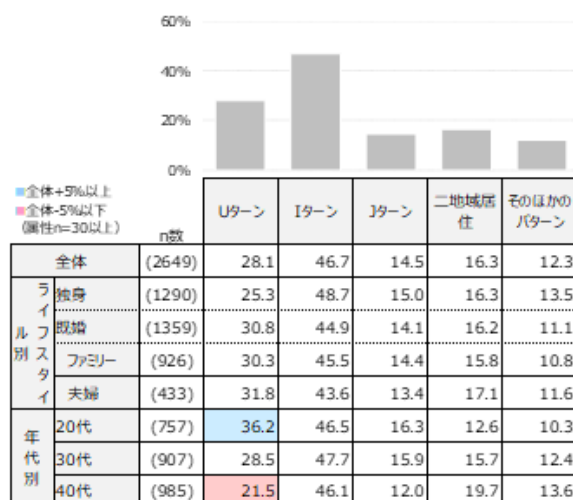


佐久市移住検討者の意識・実態

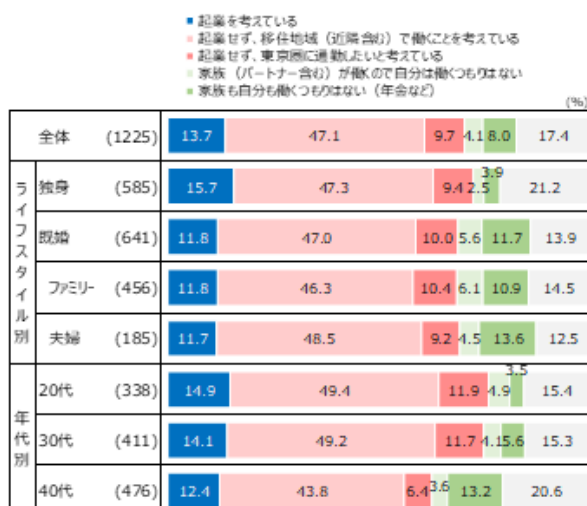
n = 佐久市移住検討者ベース

- 希望する移住パターンは「Iターン」46.7%が最も多い。「Uターン」は28.1%で、年代が若い層ほどスコアが高くなる傾向がみられる。独身の「Uターン」希望は25.3%とやや低い。
- 移住後に想定している働き方は「起業せず、移住地域で働く事を考えている」人が47.1%。次いで「起業を考えている」13.7%が多い。「わからない」も17.4%と2割弱を占める。

希望する移住パターン／東京圏S12[MA]



想定する働き方[SA]／東京圏Q1

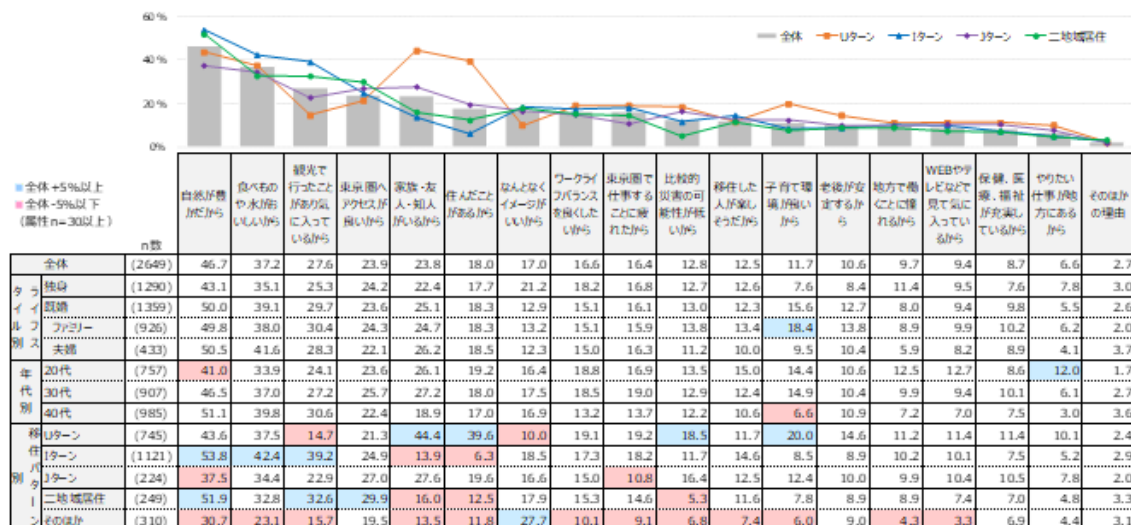


佐久市移住検討者の意識・実態

n = 佐久市移住検討者ベース

- 移住を検討する理由は、「自然が豊かだから」46.7%、「食べものや水がおいしいから」37.2%、「観光で行ったことがあり気に入っているから」27.6%が上位にあがる。
- 移住パターン別に違いがみられる。Uターンでは「家族・友人・知人がいるから」「住んだことがあるから」が高く、Iターンは「自然が豊かだから」「食べものや水がおいしいから」が高い。Iターン・二地域居住では「観光で行ったことがあり気に入っているから」のスコアも高く、観光による交流も移住の重要な接点のひとつである様子が伺える。

移住を検討する理由／東京圏S13 [MA]

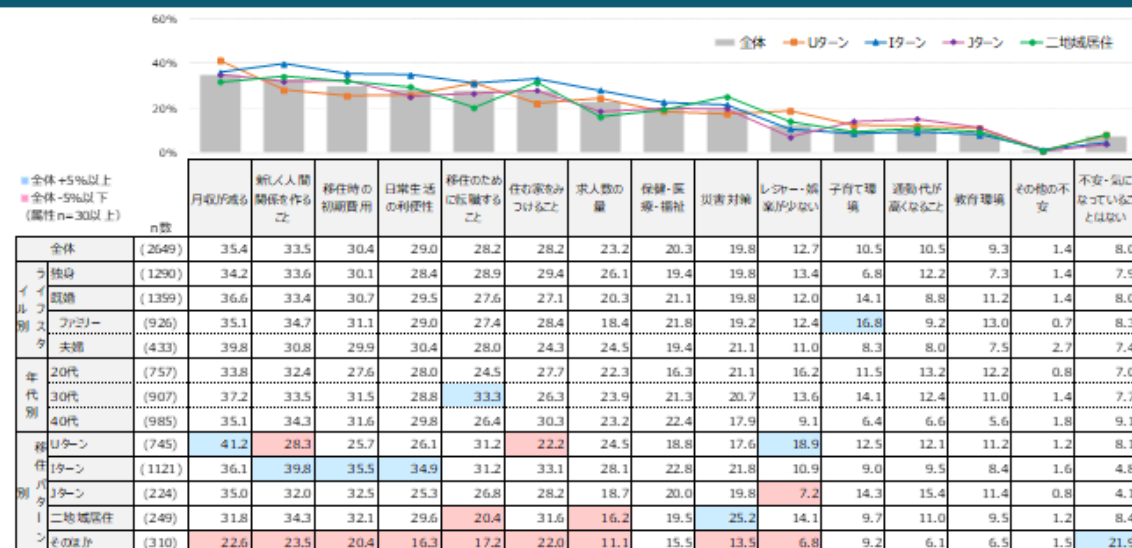


佐久市移住検討者の意識・実態

n = 佐久市移住検討者ベース

- 移住で不安なことは、「月収が減る」35.4%、「新しく人間関係を作ること」33.5%、「移住時の初期費用」30.4%が3割を超える上位項目。
- 移住検討理由と同じく、不安要素も移住パターン別で違いがみられる。Uターンでは「月収が減る」が高い。Iターンでは「新しく人間関係を作ること」「移住時の初期費用」「日常生活の利便性」の不安が大きい傾向。

移住を検討する上で不安なこと／東京圏S14 [MA]

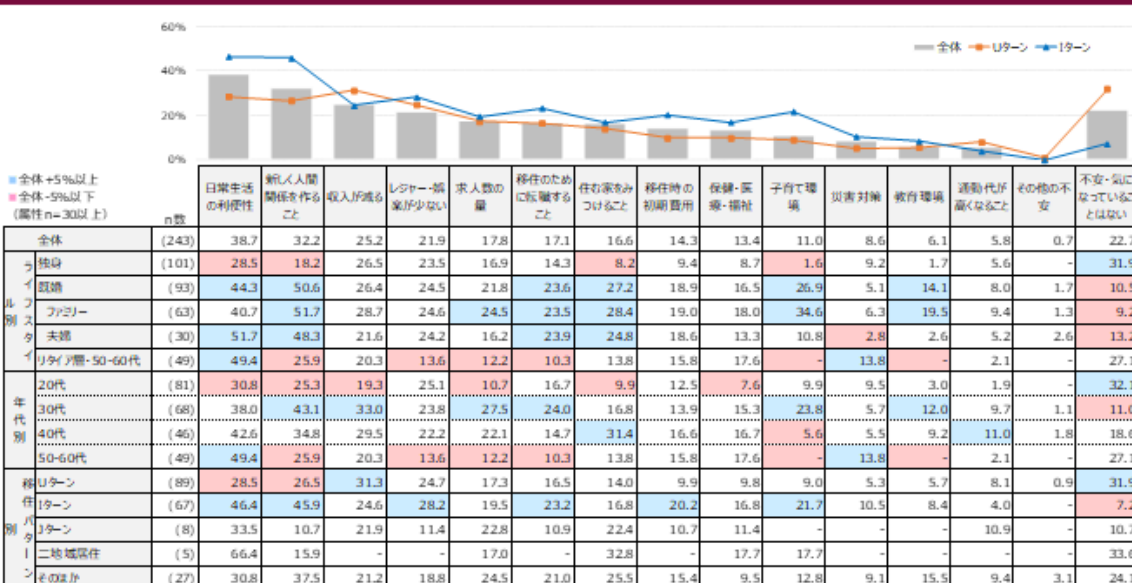


佐久市移住検討者の意識・実態＜関東甲信越＞

n = 関東甲信越・移住経験者ベース

- 実際に東京圏からの移住経験者が不安だったことも、移住パターン別で傾向が異なる。Uターンでは「収入が減る」が31.3%で高いが「不安はない」も31.9%であった。Iターンでは「日常生活の利便性」「新しく人間関係を作ること」に対する不安が大きい傾向がみられる。

移住を検討する上で不安だったこと／関東甲信越Q17 [MA]

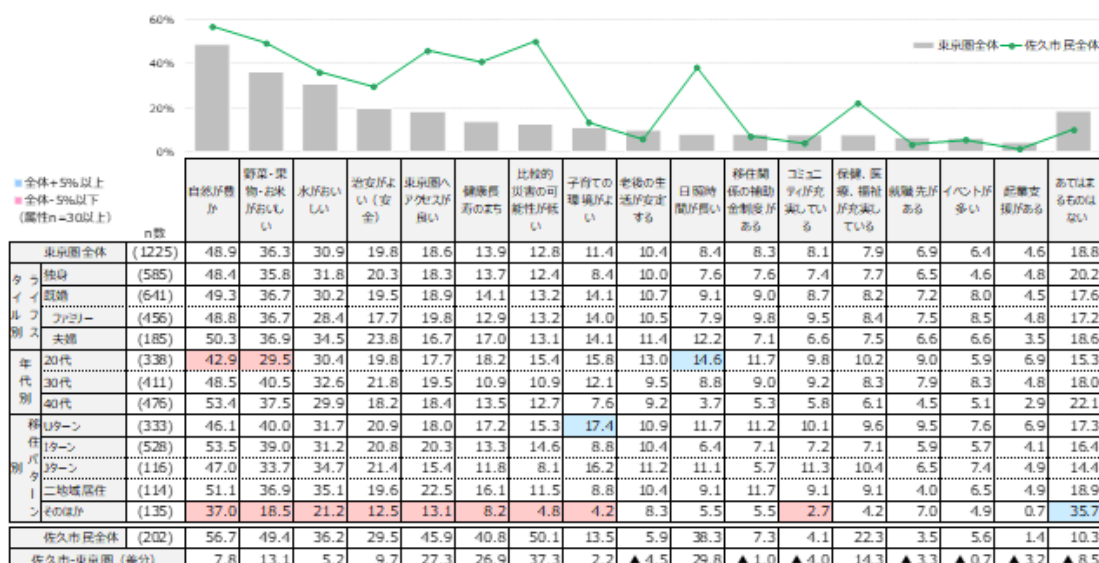


佐久市のイメージ

n = 佐久市移住検討者ベース

- 佐久市のイメージは「自然が豊か」が48.9%で最も高く、そのほか「野菜・果物・お米がおいしい」「水がおいしい」が3割を超えて上位にあがる。佐久市民が抱くイメージと比較すると、「東京圏へアクセスが良い」「比較的災害の可能性が低い」「健康長寿のまち」「日照時間が長い」など、佐久市の特徴と言える項目でスコア差が大きい。

佐久市のイメージ／東京圏Q10 [MA]



佐久市のイメージ

n = 佐久市移住検討者ベース

佐久市のイメージ／東京圏Q10 [MA]、東京圏S7 [MA]

Q10n=1225 (佐久市移住検討者ベース)、S7n=1196

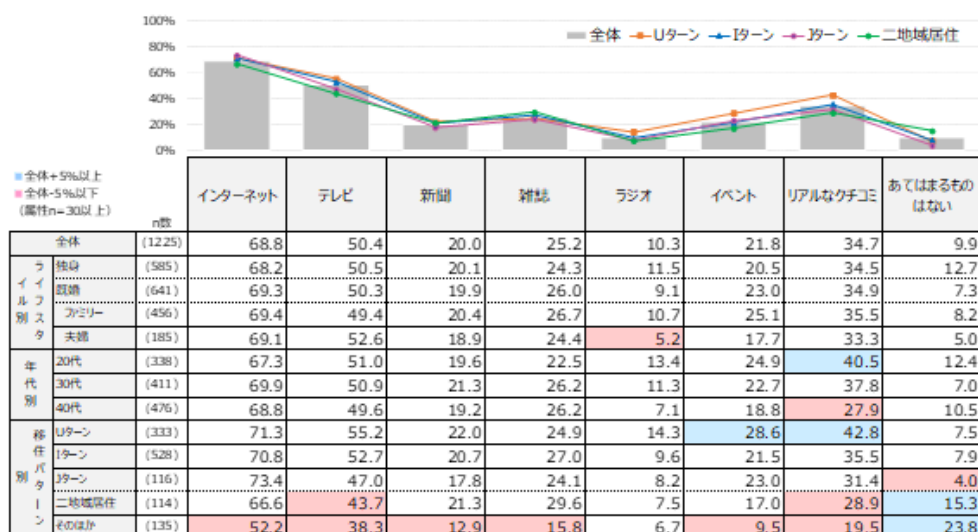


佐久市移住検討者が接触する情報

n = 佐久市移住検討者ベース

- 移住全般の情報接点は「インターネット」68.8%が最も高い。次いで「テレビ」50.4%が高い。
- 20代やUターンでは「リアルなクチコミ」が4割以上で比較的高いほか、Uターンでは「イベント」も3割近い。二地域居住では「雑誌」から情報を得る人が3割弱と若干高め。

移住全般の情報接触媒体 / 東京国Q5 [MA]



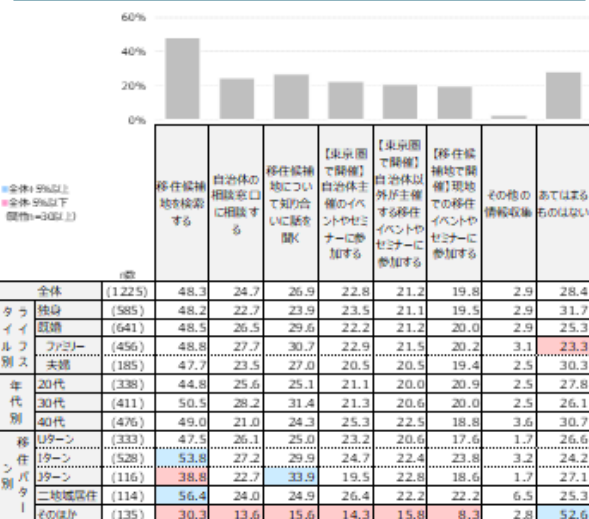
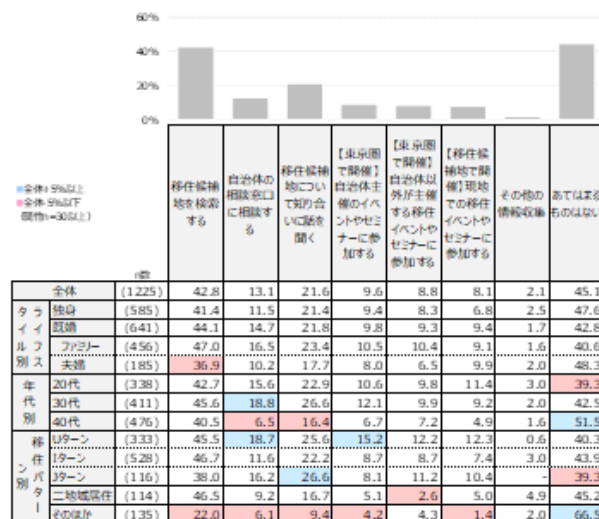
佐久市移住検討者が接触する情報

n = 佐久市移住検討者ベース

- 実際に行っている情報収集は、「移住候補地を検索する」42.8%、「移住候補地について知り合いに話を聞く」21.6%が多い。「あてはまるものはない」も45.1%いる。20~30代は40代に比べて全般的にスコアが高い傾向。
- 今後も行いたい情報収集でも「移住候補地を検索する」が約5割と多いほか、「自治体の相談窓口」に相談する」「移住候補地について知り合いに話を聞く」「イベントやセミナーに参加する」がいずれも2割台を示している。

移住候補地の情報収集【実際に行っていること】 / 東京国Q6_1[MA]

移住候補地の情報収集【今後（も）やりたいこと】 / 東京国Q6_2[MA]



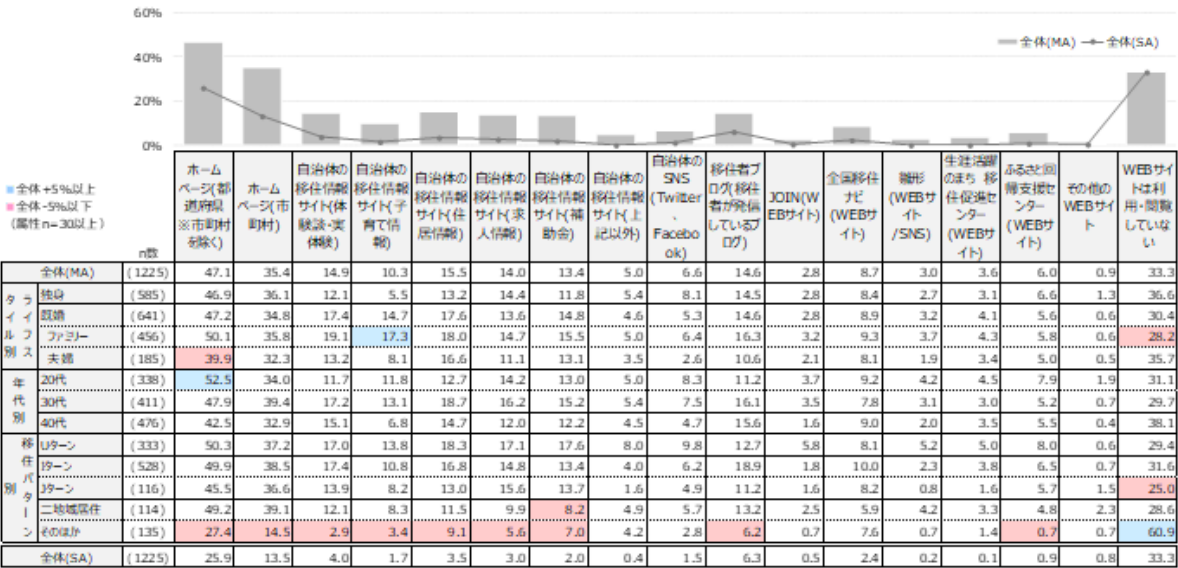
※情報収集を行う予定にないが、今後は情報収集をしていきたい移住の潜在的な層がアンケート回答者に多かったため、「あてはまるものはない」の回答者が45.1%となった。

佐久市移住検討者が接触する情報

n = 佐久市移住検討者ベース

- 移住全般に関するインターネット情報接点は「都道府県のホームページ」が47.1%で高く、次いで「市町村のホームページ」35.4%が高い。「自治体の移住情報サイト」の中では、「住居情報」15.5%が最も高い。
- 移住パターン別に大きな違いはみられない。

移住全般のインターネット情報接点／東京圏Q7 [MASAMX]



※東京圏Q5の回答の通り、情報接触媒体の約3割がインターネット以外だったため、「WEBサイトは利用・閲覧していない」が33.3%となった。

<参考> 佐久市移住検討者が接触する情報 <比較>

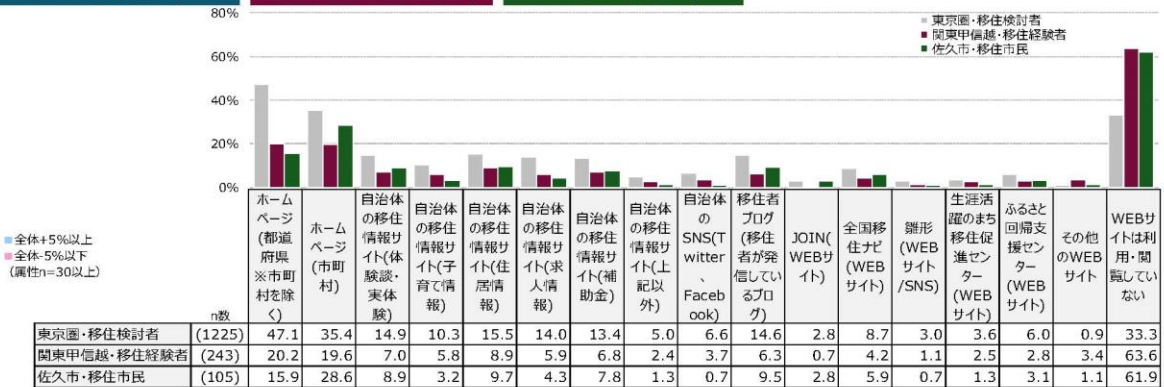
- 移住全般の情報について、移住検討者、および、移住経験者が接触した接点は以下の通り。
ベースが異なるため比較は参考とする。

移住全般のインターネット情報
接点／東京圏Q7 [MA]

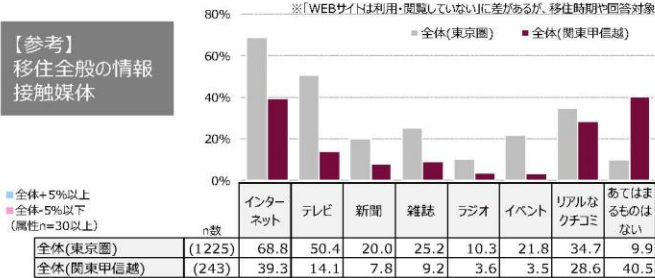
移住全般のインターネット情報
接点／関東甲信越S14 [MA]

移住全般のインターネット情報
接点／佐久市Q26 [MA]

n = 東京圏・移住候補地検討者
関東甲信越・移住経験者（直近4年以内）
佐久市・移住市民（移住時期不問）



【参考】
移住全般の情報
接触媒体



n = 東京圏・移住検討者（佐久市認知あり）
関東甲信越・移住経験者（直近4年以内）

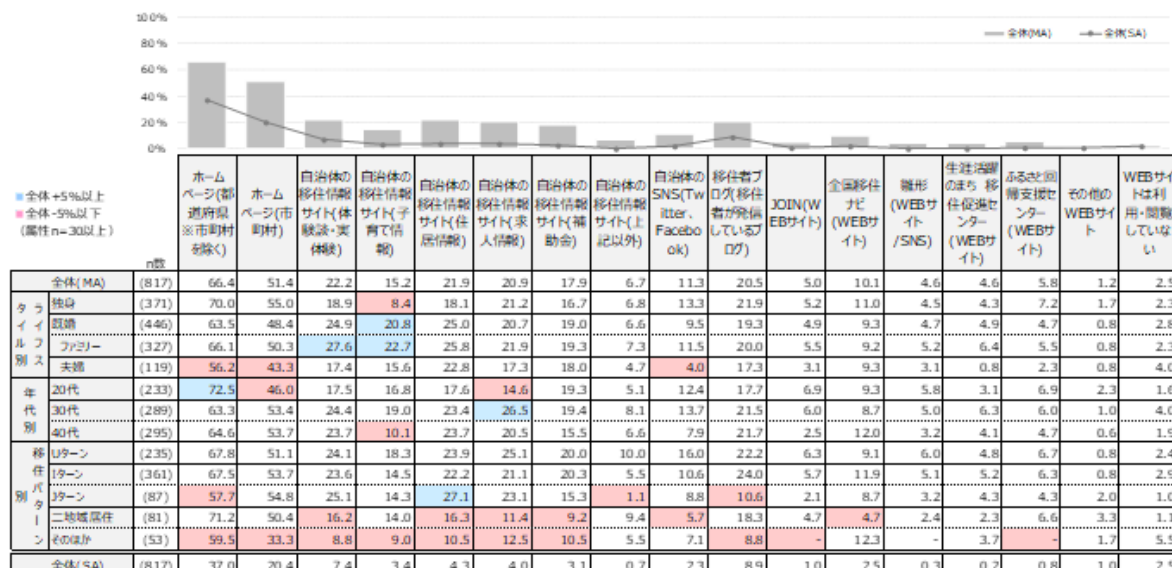
※「あてはまるものはない」には移住候補地の情報収集をしていない者が含まれる。

佐久市移住検討者が接触する情報

n = 佐久市移住検討者ベース (Webの情報収集者)

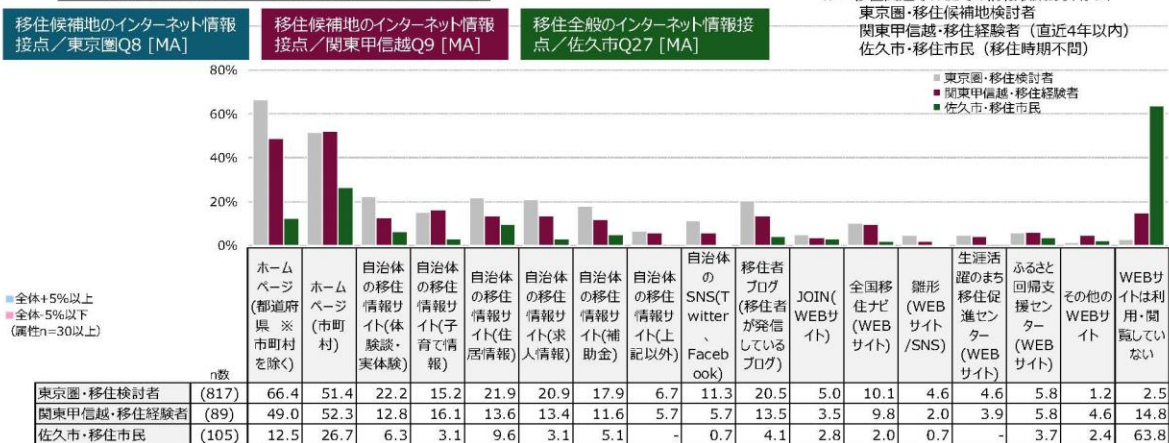
- 移住候補地に関するインターネット情報接点も、「都道府県のホームページ」66.4%で最も高く、次いで「市町村のホームページ」51.4%がつづく。「自治体の移住情報サイト」の中では「体験談・実体験」22.2%が最も高い。
- 20代では「都道府県のホームページ」が顕著に高い。

移住候補地のインターネット情報接点／東京圏Q8 [MASAMX]

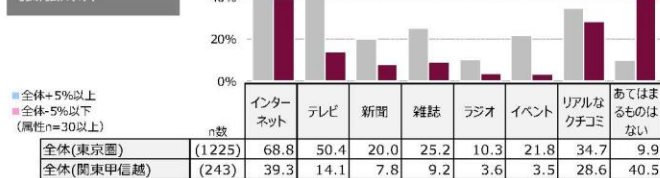


<参考> 佐久市移住検討者が接触する情報 <比較>

- 移住候補地の情報について、移住検討者、および、移住経験者が接触した接点は以下の通り。ベースが異なるため比較は参考とする。



【参考】移住全般の情報接触媒体



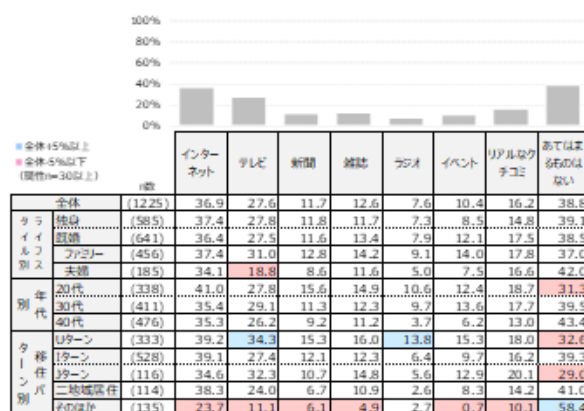
※「あてはまるものはない」には移住候補地の情報収集をしていない者が含まれる。

佐久市移住検討者が接触する情報

n = 佐久市移住検討者ベース

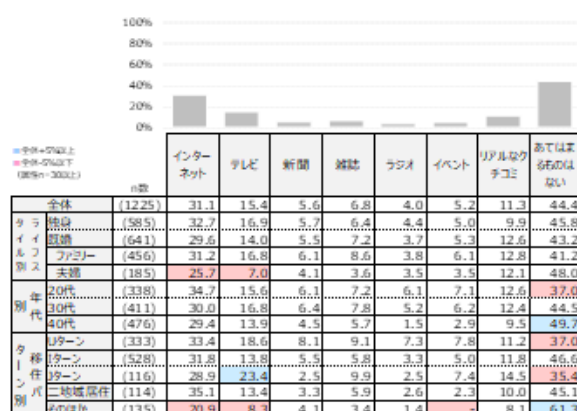
- 佐久市全般に関する情報接点は「インターネット」36.9%、「テレビ」27.6%、「リアルなクチコミ」16.2%が上位3項目。「あてはまるものはない」が38.8%あることから、4割には佐久市全般の情報が届いていないと言える。
- 佐久市移住に関する情報接点は「インターネット」31.1%、「テレビ」15.4%、「リアルなクチコミ」11.3%が上位3項目。こちらも「あてはまるものはない」が4割を超えており、4割には佐久市移住に関する情報が届いていないと言える。

佐久市全般に関する情報接触媒体／東京圏Q9_1[MA]



※佐久市を認知しているが、普段から佐久市の情報に触れていないため、「あてはまるものはない」と答えた方が4割となった。

佐久市移住に関する情報接触媒体／東京圏Q9_2[MA]



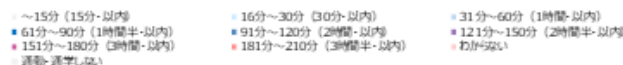
生活全般意識（通勤・家賃）

n = 移住後は東京圏への通勤・通学希望者

- 移住先から東京圏まで通勤・通学する場合、許容できる時間は「31分～60分」「61～90分」がそれぞれ3割強を占め、平均70.8分であった。現在の通勤・通学時間は平均53.0分。
- 東京駅～佐久平駅までの想定所要時間は平均89.9分であった。実際の75分より時間がかかるイメージが持たれている。

東京圏への通勤・通学時間／東京圏Q13_2 [SAMX]

許容できる通勤・通学時間

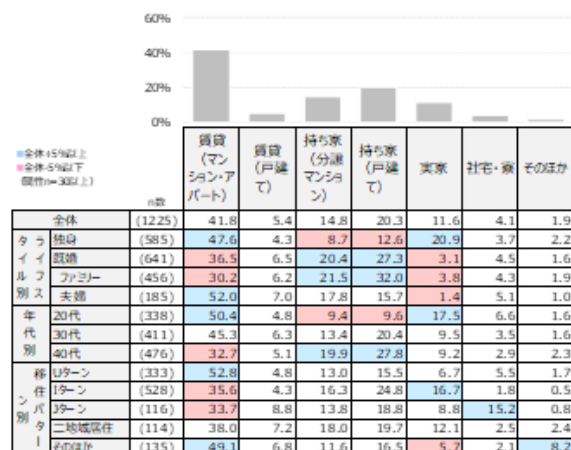


生活全般意識（通勤・家賃）

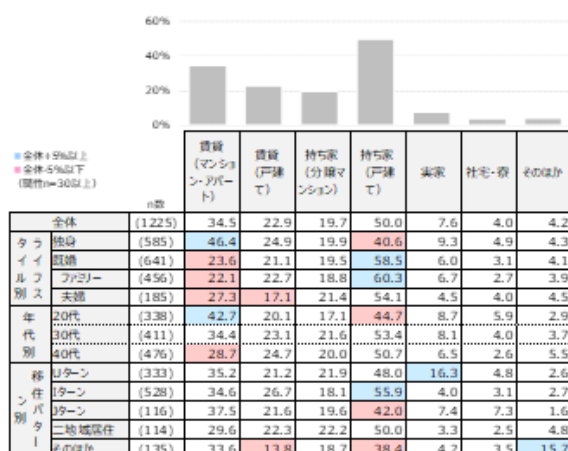
n = 佐久市移住検討者ベース

- 現在の住まいは「賃貸(マンション・アパート)」41.8%が最も多い。次いで「持ち家(戸建て)」20.3%が多い。夫婦、Uターンでは「賃貸(マンション・アパート)」が5割以上。
- 移住後に希望する住まいは「持ち家(戸建て)」が50.0%を占める。特にファミリーでは「持ち家(戸建て)」の希望が60.3%であった。

現在の住まい／東京圏Q15_1[SA]



移住後に希望する住まい／東京圏Q15_2[MA]



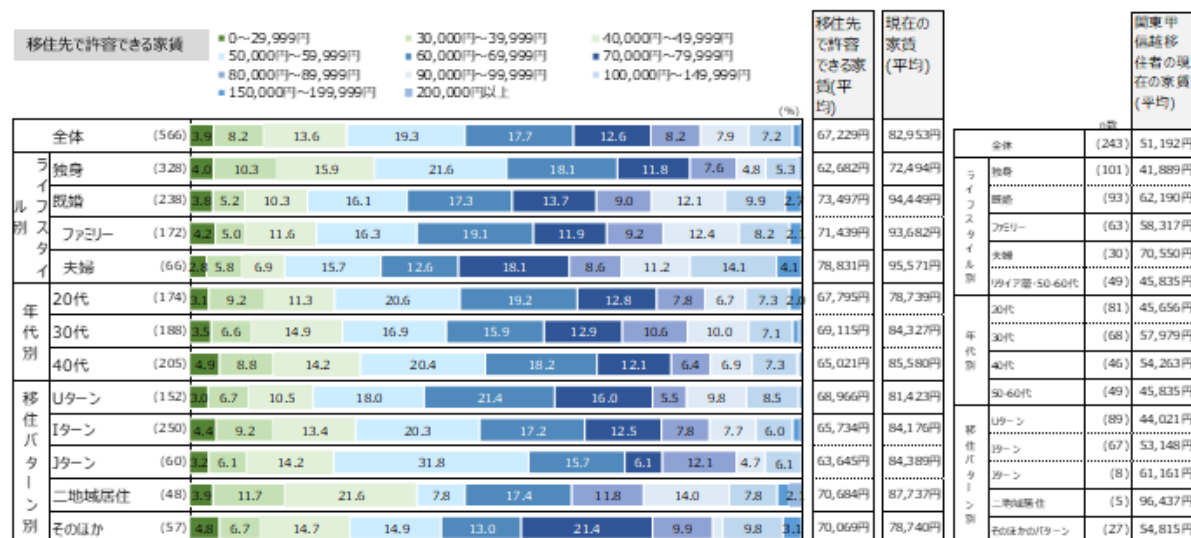
生活全般意識（通勤・家賃）

n = 現在賃貸に住んでいる人または移住後賃貸に住む予定の人（東京圏）
n = 関東甲信越・移住経験者ベース(関東甲信越)

- 東京圏での現家賃は平均82,953円。対して、移住先で許容できる家賃は平均67,229円であった。実際に東京圏から関東甲信越に移住した人の家賃は平均51,192円で、許容範囲内におさまっている。

家賃／東京圏Q16_2 [SAMX]

家賃／関東甲信越Q13_1 [SAMX]



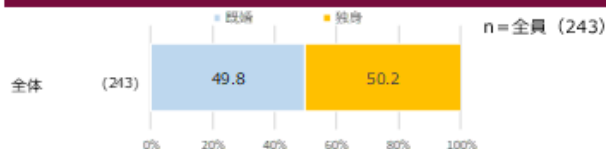
2%未満の数値ラベルは非表示

(イ) 関東甲信越調査

移住経験者の基本属性

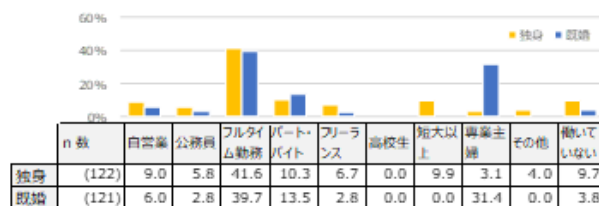
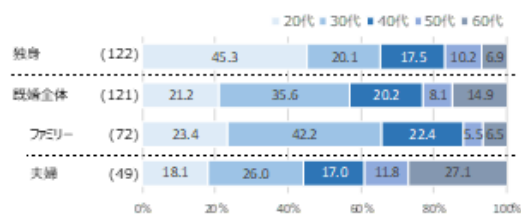
婚姻状況

n = 243 (直近4年以内に東京圏から関東甲信越に移住した者)



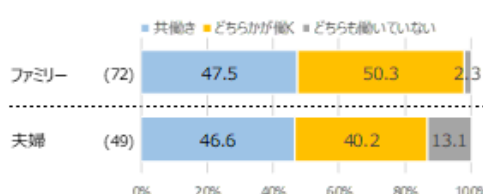
年代別 (性別・年代)

職業



【既婚】子どもの有無

【既婚】家庭内の働きかた状況

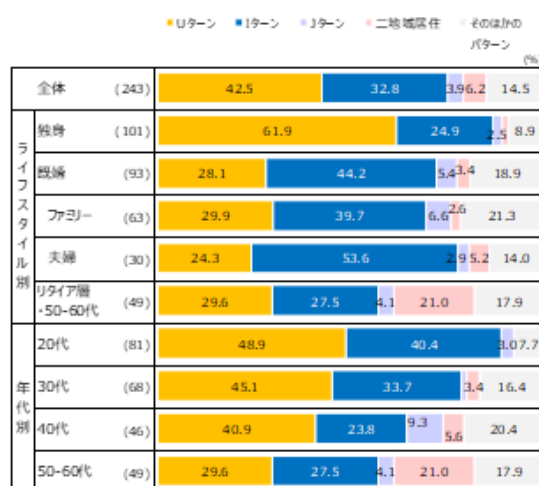


移住経験者の移住・生活実態

- 東京圏から関東甲信越に移住したパターンは、「Uターン」42.5%、「Iターン」32.8%であった。ライフスタイル別に見ると、独身では「Uターン」が6割を超える一方、ファミリー・夫婦では「Iターン」の割合が高い。また、リタイア層・50-60代では「二地域居住」21.0%の多さが目立つ。
- 働き方は「県内にある仕事場で働いている」人が8割近くを占める。「東京圏にある仕事場で働いている」人は13.5%であった。

移住パターン／関東甲信越S8[SA]

n = 関東甲信越・移住経験者ベース

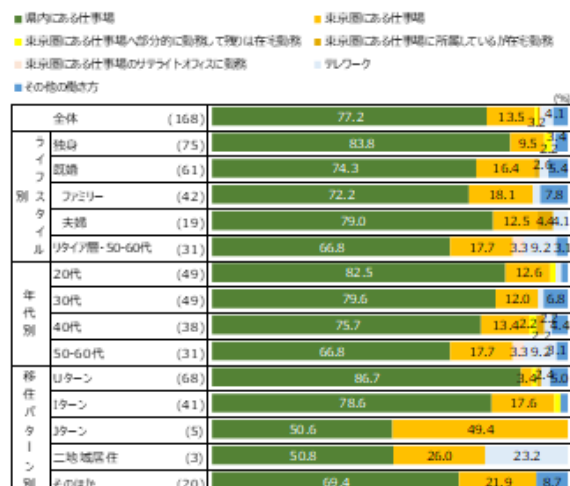


2%未満の数値レベルは非表示

働き方／関東甲信越S7[SA]

※回答者自身の働き方

n = 関東甲信越・移住経験者ベース (有職者)



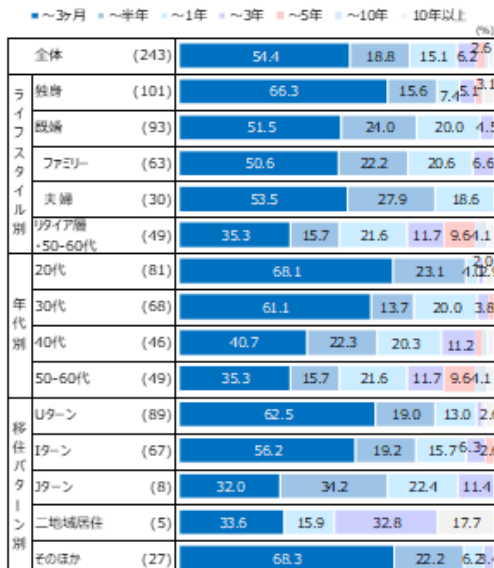
2%未満の数値レベルは非表示

移住経験者の移住・生活実態

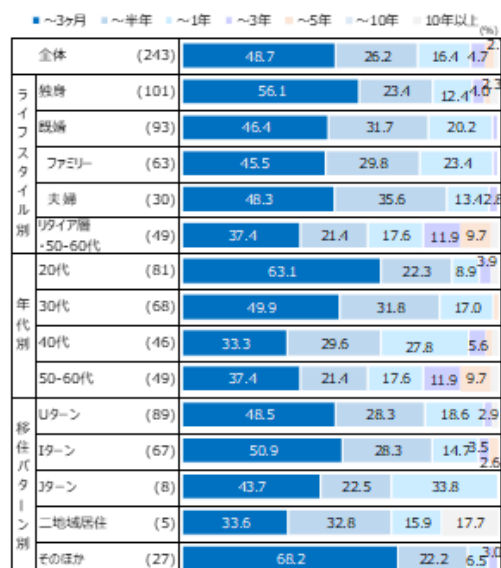
n = 関東甲信越・移住経験者ベース

- 移住が決定するまでの期間は「～3ヶ月」54.4%が最も多い。年代が若い層ほど期間が短い傾向がみられる。
- 移住地が決まってから引っ越しまでの期間も、「～3ヶ月」48.7%が最も多い。

移住地が決定するまでの期間／関東甲信越S12_1[SA]



移住地決定から引っ越しまでの期間／関東甲信越S12_2[SA]



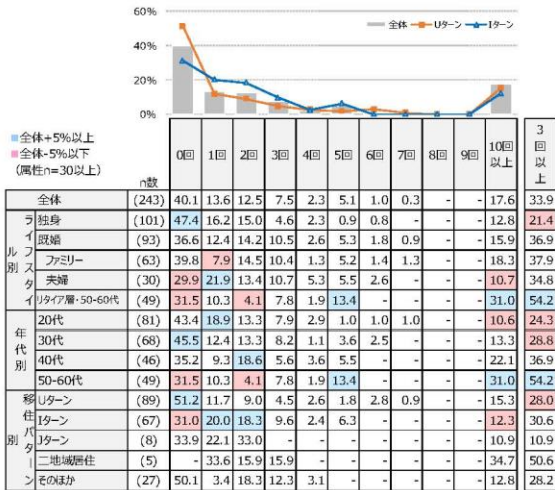
※2%未満の数値レベルは非表示

移住経験者の移住・生活実態

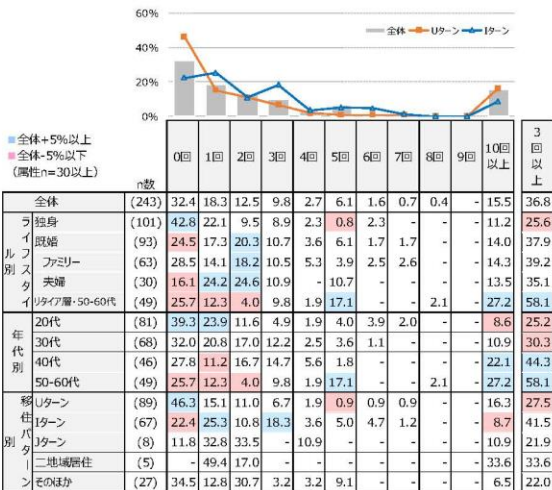
n = 関東甲信越・移住経験者ベース

- 移住候補地決定までの交流回数は、「0回」が最も多く、Uターンで51.2%、Iターンで31.0%。
- 移住候補地になってから決定するまでの交流回数は、Uターンは「0回」が46.3%で最も多く、Iターンは「1回」25.3%が多い。Uターンの場合、交流なく移住を決定するパターンも多い様子が伺える。

移住候補地決定までの交流回数
／関東甲信越S15_1[SA]



移住候補地になってから決定するまでの交流回数
／関東甲信越S15_2 [SA]

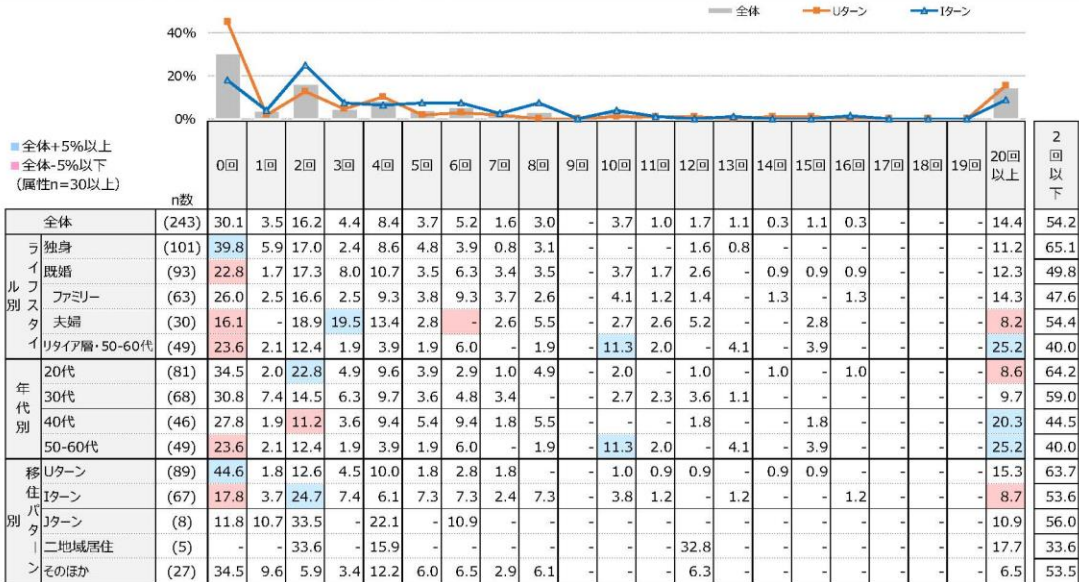


移住経験者の移住・生活実態

n = 関東甲信越・移住経験者ベース

- 移住候補地の検討を始め、実際に移住するまでの回数を合算した結果は以下の通り。
- Uターンは「0回」が44.6%で最も多く、Iターンは「2回」が24.7%で最も多い。

移住候補地決定までの交流回数 + 移住候補地になってから決定するまでの交流回数
／関東甲信越S15_1[SA] + 関東甲信越S15_2 [SA]

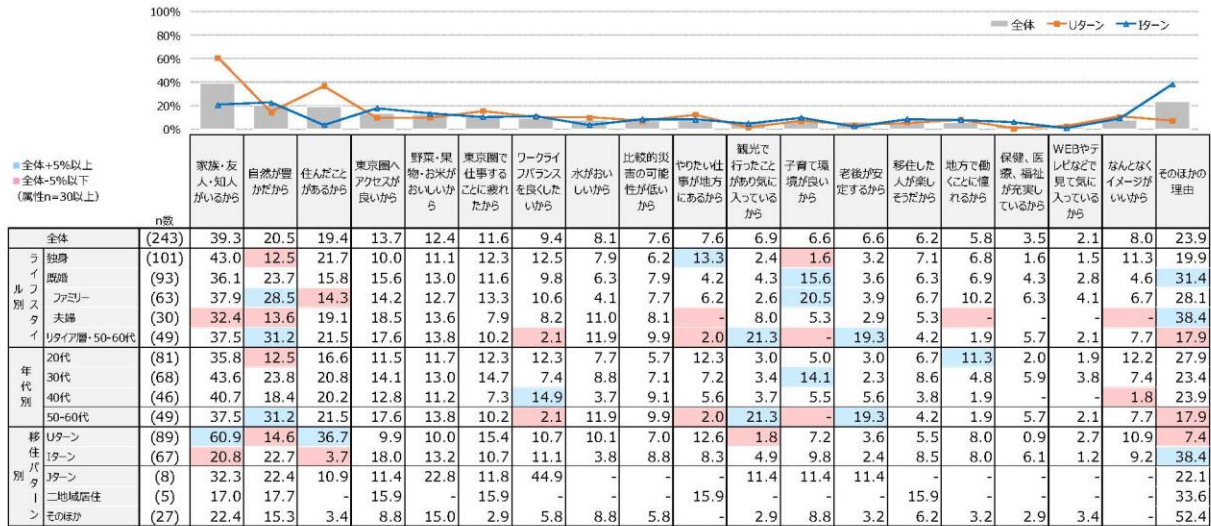


移住前後の意識

n = 関東甲信越・移住経験者ベース

- 移住地を選んだ理由は、移住パターン別で傾向が異なる。Uターンは「家族・友人・知人がいるから」60.9%、「住んだことがあるから」36.7%が最も高い。Iターンでは「自然が豊かだから」22.7%が高く、「家族・友人・知人がいるから」20.8%で続く。「その他の理由」38.4%も高い。人のつながりが上位にあがることは、いずれのパターンでも共通している。

現在の移住地を選んだ理由／関東甲信越S16 [MA]



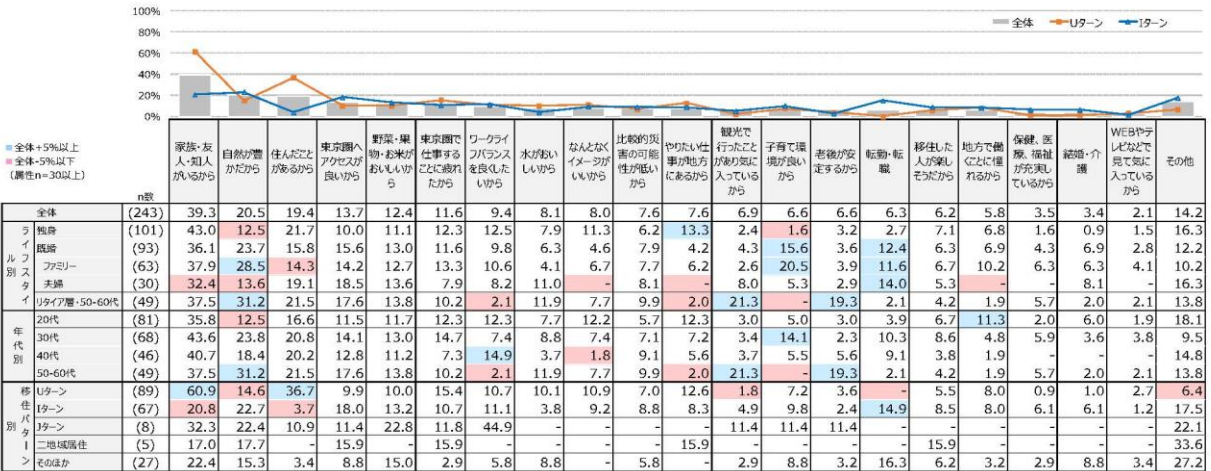
※「その他の理由」は、「転勤・転職」、「結婚・介護」が上げられた。

<参考> 現在の移住地を選んだ理由

n = 関東甲信越・移住経験者ベース

- 選択肢「その他」から、「転勤・転職」および「結婚・介護」を選択肢化した結果は以下の通り。

現在の移住地を選んだ理由／関東甲信越S16 [MA]



※全体数値で降順ソート

移住前後の意識

n = 関東甲信越・移住経験者ベース

- 移住後の実感では、TOP2（「思っていたより良かった」+「やや思っていたより良かった」合計）が37.7%。BTM2（「思っていたより良くなかった」+「やや思っていたより良くなかった」合計）が21.2%。
- IターンのTOP2は、Uターンを20pt.上回っている。Iターンの方が、移住後の満足が高い様子が伺える。

移住後に感じたギャップ／関東甲信越Q6[SA]

		● 思っていたより良かった	● やや思っていたより良かった	● 思っていたとおりだった	● やや思っていたより良くなかった	● 思っていたより良くなかった	TOP2 合計 (%)	BTM2 合計 (%)
全体	(243)	17.8	19.8	41.1	13.2	8.1	37.7	21.2
ライフスタイル別								
独身	(101)	17.2	24.2	38.2	12.9	7.6	41.4	20.4
既婚	(93)	20.6	19.2	40.1	13.2	6.9	39.8	20.1
ファミリー	(63)	28.0	18.3	37.1	7.8	8.9	46.3	16.6
夫婦	(30)	21.1	21.1	46.4	24.6	6.8	26.3	27.4
リタイア層・50-60代	(49)	13.8	12.0	49.0	13.7	11.4	25.9	25.1
年代別								
20代	(81)	21.8	27.7	34.9	11.6	7.9	49.5	15.6
30代	(68)	15.4	21.9	39.2	14.8	8.6	37.4	23.4
40代	(46)	18.6	11.2	46.3	12.8	11.0	29.8	23.9
50-60代	(49)	13.8	12.0	49.0	13.7	11.4	25.9	25.1
移住パターン別								
Uターン	(89)	12.5	17.8	50.1	13.1	6.5	30.3	19.6
Iターン	(67)	19.8	31.1	27.0	14.6	7.5	50.9	22.1
Iターン	(8)	44.9	10.7	22.8	10.9	10.7	55.5	21.6
二地域居住	(5)	15.9	49.4	17.7	17.0	0.0	65.3	17.0
その他	(27)	30.7	9.8	41.3	11.9	6.3	40.5	18.2

- 【良かった理由】

 - ⓐ 身体障害者であるが、福祉面が整っている
 - ⓑ ショッピングモールが充実している。
 - ⓒ 人との繋がりが感じられる。
 - ⓓ 農家さんから、沢山の貰い物がある
 - ⓔ 車があると買い物が便利でわざわざ遠くまで行く必要がなく、暮らしやすい
- 【良くなかった理由】

 - ⓐ 交通の便が悪く施設も少ない
 - ⓑ 歩いていける距離にお店がない。車が必須。お店が少ない。
 - ⓒ 地名は聞いていたもので期待していたが、全般的に寂れていた。
 - ⓓ 蛇が出る
 - ⓔ 子育て環境があまり整っていない

移住前後の意識

n = 関東甲信越・移住経験者ベース

- 移住後に思っていたより良くなかったことは、「求人数の量」32.7%が最も多い。次いで「レジャー・娯楽が少ない」30.0%、「日常生活の利便性」27.0%、「収入が減る」23.5%が続く。
- 独身は「レジャー・娯楽が少ない」「日常生活の利便性」が3割を超える。ファミリー・夫婦では「求人数の数」が4割を超えて高い。Iターンは全体的にUターンよりスコアが高く、ギャップを感じている。

思っていたより良くなかったこと／関東甲信越Q7[SAMX]

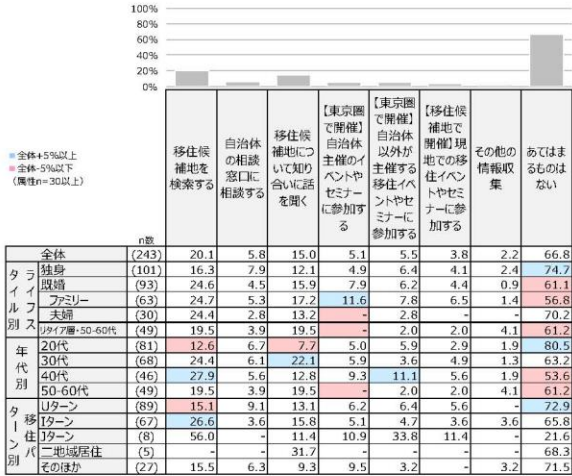
		n数	求人数の量	レジャー・娯楽が少ない	日常生活の利便性	収入が減る	新しく人間関係を作ること	通勤代が高くなること	保健・医療・福祉	移住のために転職すること	移住時の初期費用	教育環境	子育て環境	災害対策	住む家を見つけること
全体	(MA)	(243)	32.7	30.0	27.0	23.5	23.1	22.4	21.7	19.7	19.6	18.9	16.6	15.6	14.5
ライフスタイル別															
独身	(101)	24.3	32.1	30.6	27.4	19.3	20.6	15.7	19.2	19.7	13.5	10.4	15.6	12.8	
既婚	(93)	45.3	29.0	23.5	22.1	27.9	23.8	27.1	20.3	23.5	23.4	21.9	16.5	20.8	
ファミリー	(63)	42.4	29.8	21.7	20.9	29.5	24.9	28.5	21.0	20.5	28.0	20.5	19.2	21.8	
夫婦	(30)	51.4	27.3	27.3	24.5	24.5	21.4	24.2	18.8	29.7	13.8	24.9	10.7	18.7	
リタイア層・50-60代	(49)	25.9	27.5	25.8	17.9	21.7	23.4	23.9	19.6	12.0	21.4	19.6	13.6	5.8	
年代別															
20代	(81)	33.8	31.8	30.7	27.9	22.3	16.3	21.2	16.5	24.1	17.3	11.7	21.2	14.5	
30代	(68)	33.4	32.4	24.2	20.6	24.4	27.8	18.1	18.1	16.8	14.3	13.0	12.0	13.0	
40代	(46)	36.9	25.8	25.7	25.8	24.0	23.8	25.8	27.7	24.0	25.8	27.7	12.9	25.8	
50-60代	(49)	25.9	27.5	25.8	17.9	21.7	23.4	23.9	19.6	12.0	21.4	19.6	13.6	5.8	
移住パターン別															
Uターン	(89)	29.6	30.5	23.6	27.1	22.8	19.7	19.8	18.2	21.6	12.8	11.8	14.2	16.3	
Iターン	(67)	43.3	36.0	32.2	22.7	26.6	27.2	26.5	19.3	26.5	23.7	20.5	20.3	15.5	
Iターン	(8)	22.4	10.9	10.9	10.9	33.0	10.9	21.9	33.0	10.9	22.4	11.4	10.9	10.9	
二地域居住	(5)	52.4	-	34.7	34.7	34.7	50.6	17.7	34.7	35.5	17.7	17.7	17.7	33.6	
その他	(27)	28.2	28.5	30.4	24.8	12.8	15.1	13.1	19.0	9.4	22.0	19.1	12.7	18.9	

移住経験者が接触した情報

n = 関東甲信越・移住経験者ベース

- 実際に行った情報収集は、「移住候補地を検索する」20.1%、「移住候補地について知り合いに話を聞く」15.0%が多い。一方、「あてはまるものはない」が66.8%を占めている。
- 移住地決定の後押しになった行動も、「移住候補地を検索する」15.6%が最も多い。こちらも、「あてはまるものはない」が68.5%を占めている。

移住候補地の情報収集【実際に行ったこと】
／関東甲信越S13_1[MA]



※「あてはまるものはない」には移住候補地の情報収集をしていない者が含まれる。
移住理由（転職・家族の事情）、移住パターンによっては特に「移住」に関して情報収集していない者もいると考えられる。

移住候補地の情報収集【移住地決定の後押しになったこと】
／関東甲信越S13_2 [MA]

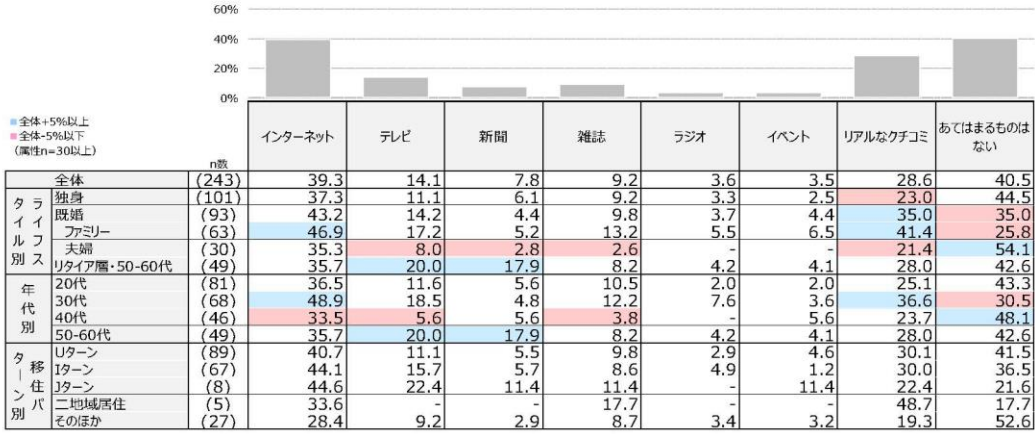


移住経験者が接触した情報

n = 関東甲信越・移住経験者ベース

- 移住全般の情報接点は「インターネット」39.3%が最も多い。次いで「リアルなクチコミ」28.6%、「テレビ」14.1%が続く。
- ファミリーでは「インターネット」「リアルなクチコミ」が特に多い傾向。また、リタイア層・50-60代では他層に比べて「テレビ」「新聞」との接点が高めであった。

移住全般の情報接触媒体 ／関東甲信越Q10 [MA]



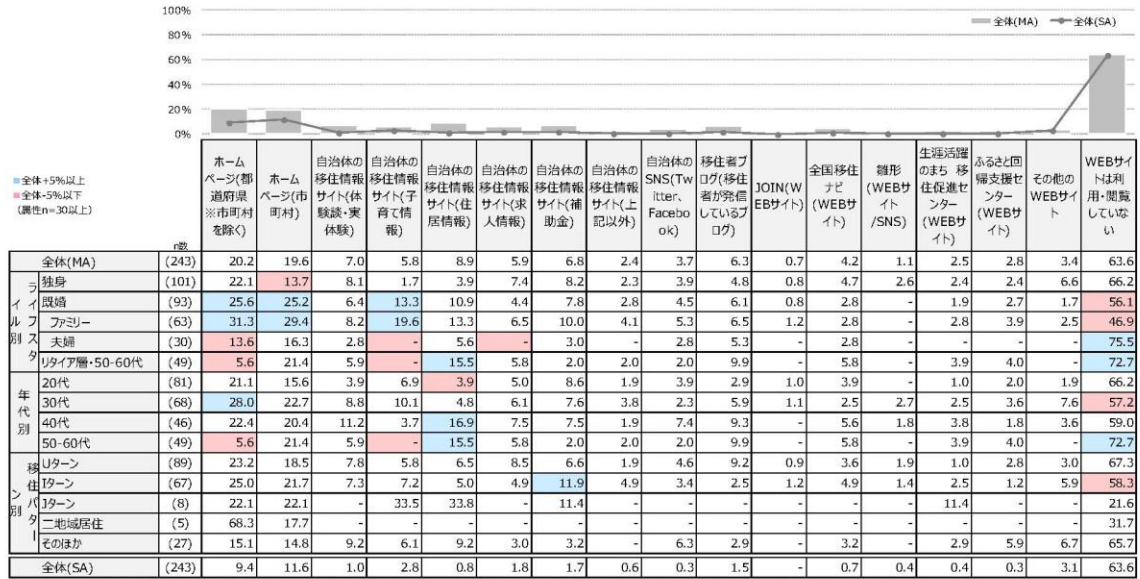
※「あてはまるものはない」には移住候補地の情報収集をしていない者が含まれる。
移住理由（転職・家族の事情）、移住パターンによっては特に「移住」に関して情報収集していない者もいると考えられる。

移住経験者が接触した情報

n = 関東甲信越・移住経験者ベース

- 移住全般に関するインターネット情報接点は、都道府県や市町村の「ホームページ」が約2割と高いほかは、いずれも1割に満たない。「WEBサイトは利用・閲覧していない」が63.6%を占める。
- ファミリーは独身に比べて「ホームページ」や「自治体の移住情報サイト(子育て情報)」の利用が比較的多い。

移住全般のインターネット情報接点／関東甲信越S14 [MASAMX]



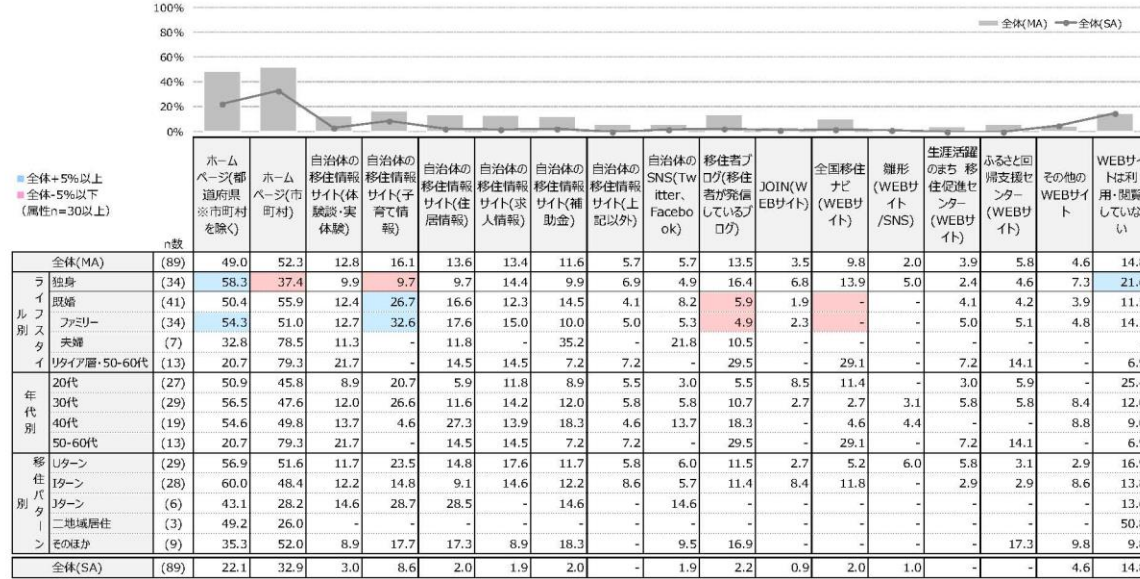
※関東甲信越Q10の通り、情報接触媒体としてWEBサイト以外を利用している人が、約6割のため、「WEBサイトは利用・閲覧していない」の回答が約6割となった。

移住経験者が接触した情報

n = 関東甲信越・移住経験者ベース (Webでの情報収集者)

- 移住候補地に関するインターネット情報接点は、都道府県や市町村の「ホームページ」が約5割と高い。このほか、ファミリーは「自治体の移住情報サイト(子育て情報)」が32.6%で高い。

移住候補地のインターネット情報接点／関東甲信越Q9 [MASAMX]

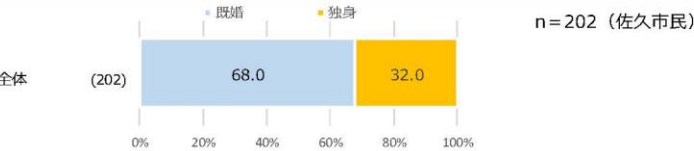


(ウ) 佐久市内調査

基本情報

婚姻状況

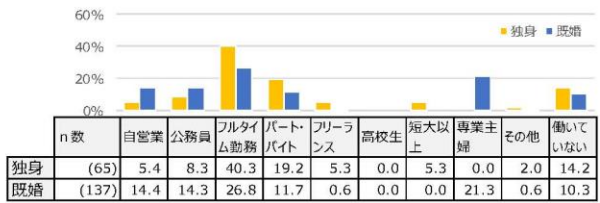
n = 202（佐久市在住者）



年代別（性別・年代）



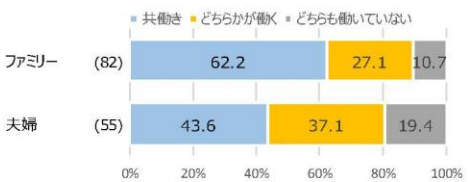
職業



【既婚】子どもの有無



【既婚】家庭内の働きかた状況

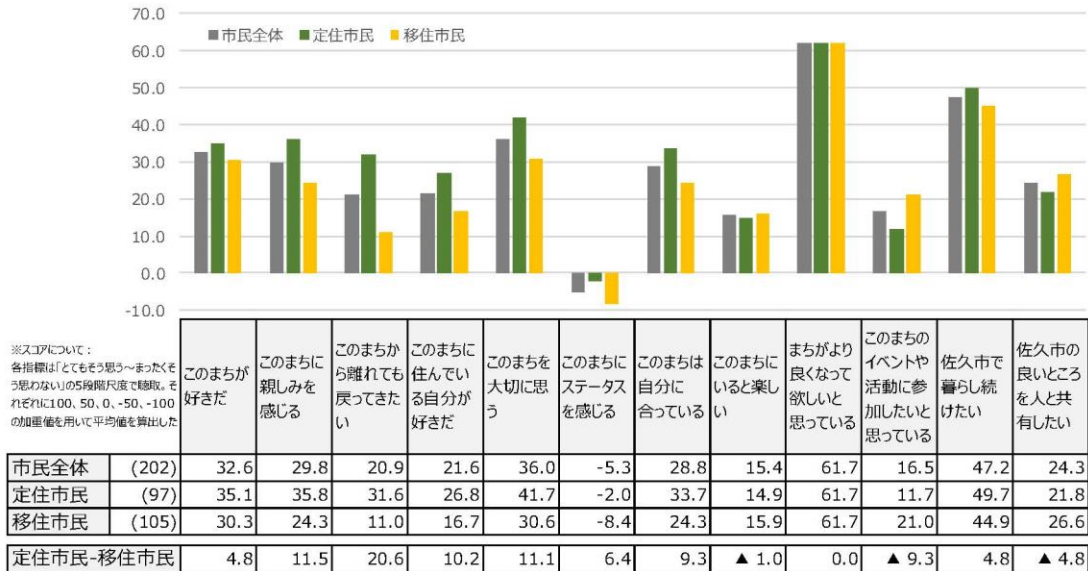


シビックプライド指標

n = 佐久市民ベース

- 佐久市のシビックプライドに関する各指標は以下のとおり。「まちがより良くなってほしい」は定住市民・移住市民ともに同スコア。「このまちのイベントや活動に参加したいと思っている」は移住市民が定住市民よりも9pt高い。

シビックプライド各指標／佐久市Q9[SAMX]



シビックプライド指標

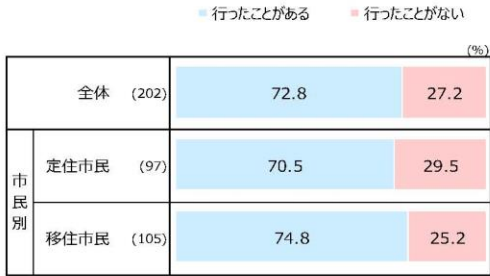
n = 佐久市民ベース

- 佐久市の祭りやイベントに「興味がある」人は71.3%、「行ったことがある」人は72.8%であった。
- 移住市民の方が興味や参加率が高い傾向がみられる。

祭りやイベントへの興味／佐久市Q14[SA]



祭りやイベントへの参加／佐久市Q14[SA]

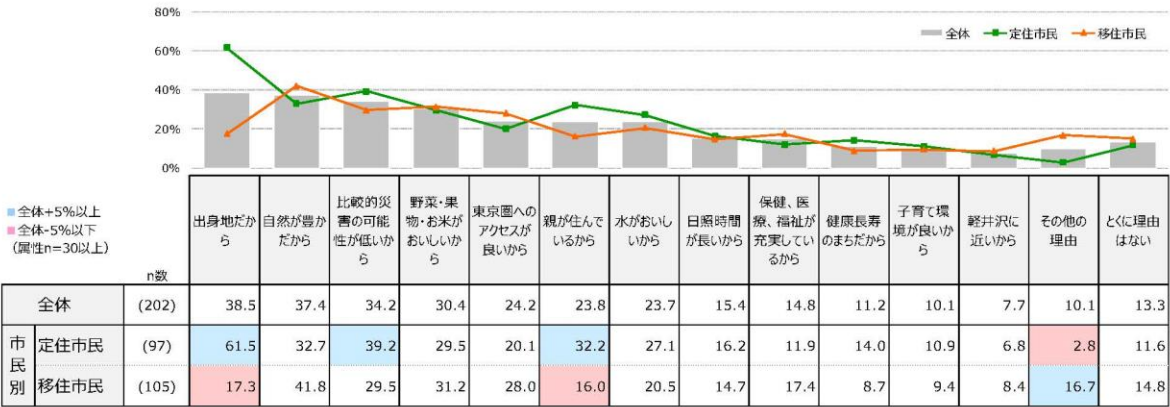


定住する理由

n = 佐久市民ベース

- 佐久市に住み続ける理由は、市民別で傾向が異なる。定住市民は「出身地だから」61.5%が圧倒的に高い。移住市民は「自然が豊かだから」が41.8%で最も高い。

佐久市に住み続ける理由／佐久市Q12[MA]



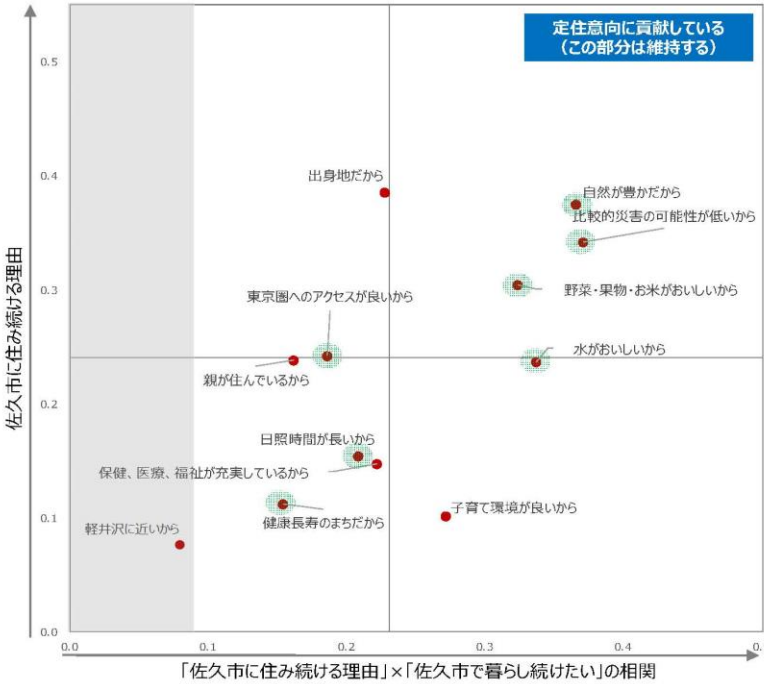
※「その他の理由」は、転勤・転職、家庭の事情などが理由として上げられた。

定住する理由

n = 佐久市民ベース

佐久市に住み続ける理由／佐久市Q12 [MA]

n = 202 (佐久市民ベース)



- 佐久市に住み続ける理由のなかでも、定住意向（佐久市で暮らし続けたい）と相関が高いため維持することが望ましい項目は「自然が豊かだから」「比較的災害の可能性が低いから」「野菜・果物・お米がおいしいから」であった。

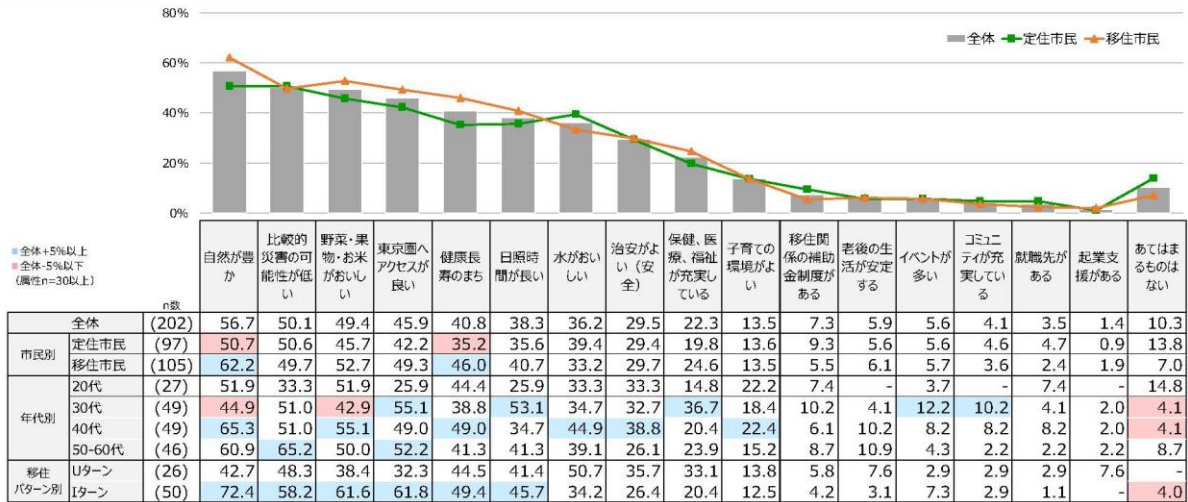
※グレーの網掛けは、定住意向と無相関であるため、改善の必要性は低い。
※●は佐久市のイメージが3割以上ある項目

佐久市のイメージ

n = 佐久市民ベース

- 佐久市のイメージは、「自然が豊か」56.7%、「比較的災害の可能性が低い」50.1%、「野菜・果物・お米がおいしい」49.4%が上位にあがる。また、「東京圏へアクセスが良い」「健康長寿のまち」とのイメージも4割以上と高い。
- 「就職先がある」「起業支援がある」など就業に関するイメージは低い。

佐久市のイメージ／佐久市Q16 [MA]

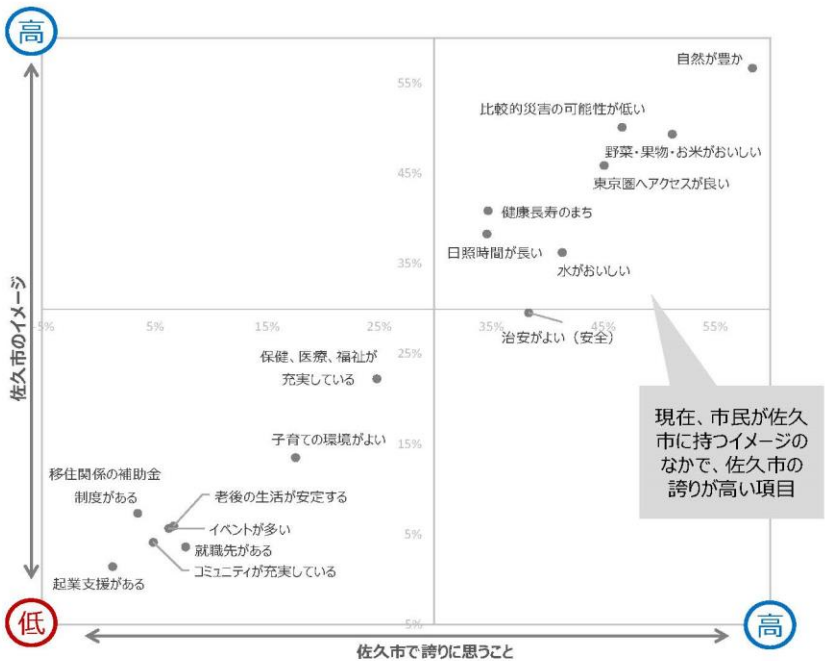


佐久市のイメージ

n = 佐久市民ベース

佐久市のイメージ／佐久市Q16 [MA]

n = 202 (佐久市民ベース)

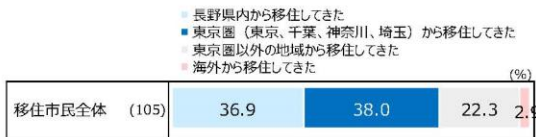


移住市民の意識・実態

n = 佐久市・移住市民ベース

- 移住市民は、「長野県内」「東京圏」からの移住者がそれぞれ4割弱。
- 移住パターンは「Iターン」が47.4%で最も多く、「Uターン」は25.0%。
- 移住地決定までの期間、移住地決定から引っ越しまでの期間は移住パターン別で傾向が異なる。IターンはUターンに比べ、移住地決定や引っ越しまで時間をかける傾向がみられる。

どこから移住してきたか／佐久市Q4[SA]



移住地が決定するまでの期間／佐久市Q24_1[SA]



移住パターン／佐久市Q17[SA]



移住地決定から引っ越しまでの期間／佐久市Q24_2[SA]



移住市民の意識・実態

n = 佐久市・移住市民ベース

- 移住後に思っていたより良かったと思う人(TOP2)は31.4%であった。Iターンの方がやや高い。
- 良かった理由には、「自然がとても豊か」や「日照時間が思っていたよりも長かった」など自然や天候についての意見が多くみられる。良くなかった理由には、「昔から住んでいる人と移住者との壁がある」といった地元民とのコミュニケーションや、交通機関・街灯等のハード面などがあがる。

移住後に感じたギャップ／佐久市Q22[SA]



【良かった理由】

- ◎ 晴天率が高い（女性30代・Iターン）
- ◎ 自然がとても豊か（女性50代・Iターン）
- ◎ 住みやすい（男性40代・Uターン）
- ◎ 夏涼しい（女性40代・その他のパターン）
- ◎ 住みやすい（男性30代・その他のパターン）
- ◎ ペーパードライバーだったので、最初は生活が不便だったが、車生活に慣れて生活が楽になった。（女性30代・Iターン）
- ◎ 日照時間が思っていたより長かったこと（女性20代・Iターン）
- ◎ 生活する上で不便がない（男性30代・Uターン）
- ◎ 戸建住宅を建てることが出来た（男性30代・Iターン）

【良くなかった理由】

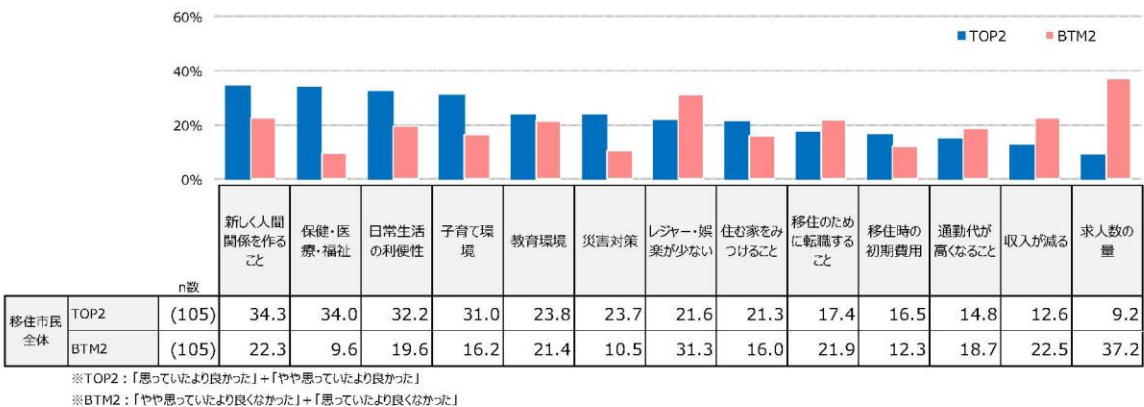
- ◎ 東京都と比べて遅れている（女性50代・Iターン）
- ◎ 市政が市民本位とは言えない（男性60代・Iターン）
- ◎ 道路事情が悪い（男性50代・Uターン）
- ◎ 町の街灯が少なく、夜道を歩くのが不安だった（女性40代・その他のパターン）
- ◎ 交通機関が悪い（男性60代・Iターン）
- ◎ 地域での同世代の交流が薄いし、昔からお住いの方々と若干のしらがみがある（男性50代・二地域居住）
- ◎ もっと自然豊かだと思っていた（女性30代・Iターン）
- ◎ 田舎の人ほど親切だと思っていたが実際にはよそ者には壁が厚かった。（女性50代・Iターン）
- ◎ 異常に寒い（男性30代・二地域居住）
- ◎ 地元活動や労働時間が長く、ワークライフバランスが崩れた（男性30代・Uターン）
- ◎ ゴミ収集が厳しかったり、移動時間が長かったりと考えていたのとは違った障壁があった。（男性30代・Iターン）

移住市民の意識・実態

n = 佐久市・移住市民ベース

- 移住して思っていたより良かったこと(TOP2)では、「新しく人間関係を作ること」「保健・医療・福祉」「日常生活の利便性」「子育て環境」が3割を超え、いずれもBTM2を上回る。
- 一方、思っていたより良くなかったこと(BTM2)で最も高いのは「求人数の量」37.2%、次いで「レジャー・娯楽が少ない」31.3%であり、いずれもTOP2を上回り、ギャップが感じられている。

移住後に感じたギャップ／佐久市Q23[SAMX]

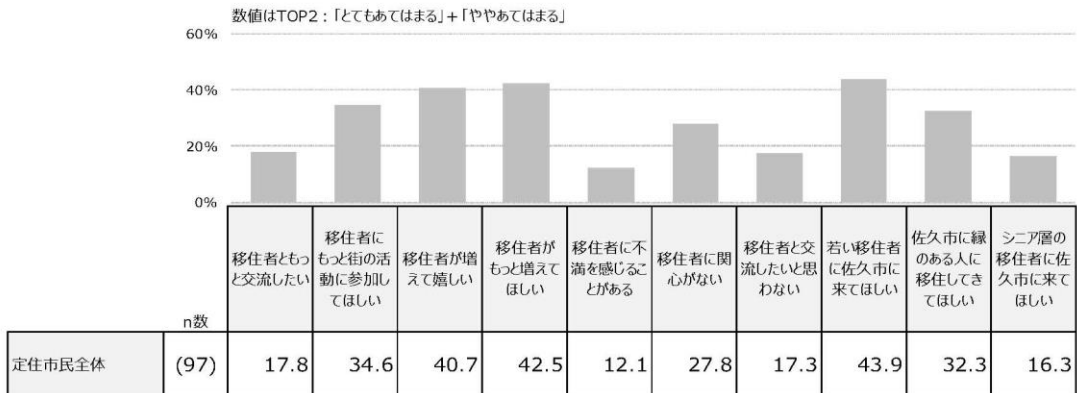


移住市民に対する意識

n = 佐久市・定住市民ベース

- 定住市民の移住市民に対する意識は、「移住者が増えて嬉しい」「移住者をもっと増えてほしい」「若い移住者に佐久市に来てほしい」がいずれも4割強で高い。

移住市民への意識／佐久市Q28[SAMX]



移住市民に対する意識

n = 佐久市・定住市民ベース

- 佐久市への移住者に対する、市民の「気になっていること・不安に思っていること」は以下のとおり。
※「とくになし」が多かったが記載からは削除している

【20-30代】移住市民について気になること・不安に思うこと／佐久市Q29[FA]

- ㊤ 交流が少ないこと。(女性20代・定住市民)
- ㊤ 治安(女性20代・定住市民)
- ㊤ 寒さに耐えられなさそう(女性20代・定住市民)
- ㊤ 佐久市の文化や伝統行事などに理解や参加をしてもらえないこと。(女性20代・定住市民)
- ㊤ ずっと住んでいる人とは違い、素性がわからないのが少し不安。(女性20代・定住市民)
- ㊤ 人としてなっていない人が多い(男性30代・定住市民)
- ㊤ 小中高や幼稚園、保育園が統廃合などにより少なく感じる。あと、廃校となった校舎などを市営住宅として活用してほしい(男性30代・定住市民)
- ㊤ 私は長土呂区に住んでおり、周辺は昨今の急速な宅地化で市内や周辺市町村その他から移り住んできた方が元々の居住者より多いですし、正直県外から移住してきたのかそうでないのかも区別が付きません。ですので特にはないです。(男性30代・定住市民)
- ㊤ マナー(男性30代・定住市民)
- ㊤ 外人(特にアジア系)が増えると嫌だなと思う。以前、堂々と商品を持ち出したり色々嫌な経験がある。(女性30代・定住市民)
- ㊤ 交通の不便(女性30代・定住市民)
- ㊤ 治安や秩序という点では、アパートなどに暮らす人が増えることは不安がある(女性30代・定住市民)
- ㊤ 土地に慣れていないのかマナーが守れないことがあり気になる(女性30代・定住市民)
- ㊤ 既存のコミュニティに溶け込む配慮がもっと必要だと思う(女性30代・定住市民)

移住市民に対する意識

n = 佐久市・定住市民ベース

【40-60代】移住市民について気になること・不安に思うこと／佐久市Q29[FA]

- ㊤ 不安は無い、というか移住者が居ない。(男性40代・定住市民)
- ㊤ この街の雰囲気とか文化に慣れてくれるかどうか(男性40代・定住市民)
- ㊤ 交流がない。(男性40代・定住市民)
- ㊤ 関わりが少ない。(男性40代・定住市民)
- ㊤ 運転マナーが悪い。外国人が多い。(女性40代・定住市民)
- ㊤ 自分の好きなことだけやってるイメージ。自分の住んでいる所のことでも、面倒なことには関わらないイメージ。(女性40代・定住市民)
- ㊤ ゴミの分別がそれぞれの地域で異なるため、分別の仕方がいい加減にしまっている方がいること(女性40代・定住市民)
- ㊤ 特に興味がないのでなにも思わない。(女性40代・定住市民)
- ㊤ 新しい風を吹かせて欲しい。(女性40代・定住市民)
- ㊤ 大都市圏と田舎の違い、特に不便な面を受け入れる人が少ない。(男性50代・定住市民)
- ㊤ 風習に慣れるかどうか(男性50代・定住市民)
- ㊤ 高齢化(男性50代・定住市民)
- ㊤ 自治会など地域のコミュニティとの関わりがすくない(男性50代・定住市民)
- ㊤ 困ったり、悩んだときに、遠慮なく声をあげて欲しい。(男性50代・定住市民)
- ㊤ 仕事があるか(女性50代・定住市民)
- ㊤ 自分の思いや要望を強調する方が多く、このままの佐久の良さを受け入れてもらえてないと思う。(女性50代・定住市民)
- ㊤ 交流しないのでわからない。(女性50代・定住市民)
- ㊤ 地元溶け込もうとしない。自分中心の生活をしている。(男性60代・定住市民)
- ㊤ 近くにきた人はとても良かった(男性60代・定住市民)
- ㊤ 佐久市をよく知らないでわからない(女性60代・定住市民)

移住市民の情報接点

n = 佐久市・移住市民ベース

- 移住市民の情報接触媒体は、実際に行った情報収集は、「移住候補地を検索する」26.7%が最も多い。一方で「あてはまるものはない」が63.7%を占める。
- 移住地決定の後押しになったことも、「移住候補地を検索する」が11.3%で最も多い。一方、「あてはまるものはない」が65.8%を占めている。

移住候補地に関する情報収集【実際に行ったこと】／佐久市Q25_1[MA]

		(%)							
n数		移住候補地を検索する	自治体の相談窓口にご相談する	移住候補地について知り合いに話を聞く	【東京圏で開催】自治体主催のイベントやセミナーに参加する	【東京圏で開催】自治体以外が主催する移住イベントやセミナーに参加する	【移住候補地で開催】現地での移住イベントやセミナーに参加する	その他の情報収集	あてはまるものはない
移住市民全体	(105)	26.7	13.5	10.6	10.1	6.2	4.2	6.5	63.7
移住パターン別									
Uターン	(26)	9.7	12.7	8.3	5.1	2.9	-	2.9	73.8
Iターン	(50)	34.1	19.1	9.6	11.6	5.4	4.4	4.0	60.1

候補地決定の後押しになったこと／佐久市Q25_2[MA]

		(%)							
n数		移住候補地を検索する	自治体の相談窓口にご相談する	移住候補地について知り合いに話を聞く	【東京圏で開催】自治体主催のイベントやセミナーに参加する	【東京圏で開催】自治体以外が主催する移住イベントやセミナーに参加する	【移住候補地で開催】現地での移住イベントやセミナーに参加する	その他の情報収集	あてはまるものはない
移住市民全体	(105)	11.3	7.3	8.1	4.3	2.1	3.3	5.2	65.8
移住パターン別									
Uターン	(26)	2.9	2.6	10.9	2.1	-	4.7	2.9	73.8
Iターン	(50)	16.3	11.3	4.0	6.5	2.7	1.7	4.0	64.6

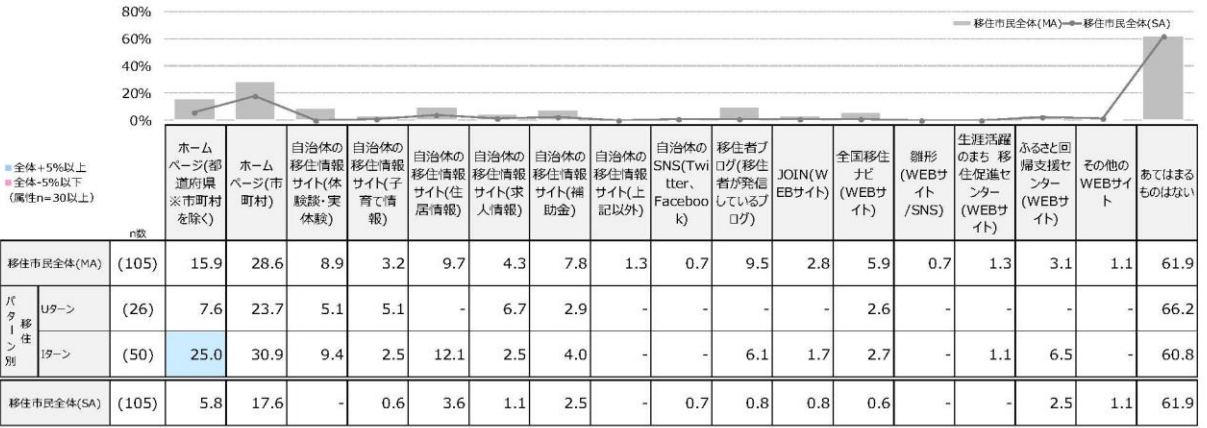
※「あてはまるものはない」には移住候補地の情報収集をしていない者が含まれる。
移住理由（転勤・家族の事情）、移住パターンによっては特に「移住」に関して情報収集していない者もいると考えられる。

移住市民の情報接点

n = 佐久市・移住市民ベース

- 移住全般に関するインターネット情報接点は、「ホームページ(市町村)」が28.6%で最も多い。「ホームページ(都道府県)」を13pt.上回る。

移住全般のインターネット情報接点／佐久市Q26 [MASAMX]



※関東甲信越Q10の通り、移住実践者は、情報接触媒体としてWEBサイト以外を利用しているものが、約6割のため、「WEBサイトは利用・閲覧していない」の回答が約6割となった。

- 移住全般と同様に、移住候補地に関するインターネット情報接点も、「ホームページ(市町村)」が26.7%で最も多い。次いで「ホームページ(都道府県)」12.5%、「自治体の移住情報サイト(住居情報)」9.6%がつづく。

移住候補地のインターネット情報接点／佐久市Q27 [MASAMX]



※関東甲信越Q10の通り、情報接点媒体としてWEBサイト以外を利用しているものが、約6割のため、「WEBサイトは利用・閲覧していない」の回答が約6割となった。

移住全般の自由意見

- 佐久市への移住全般に対する自由記述は以下のとおり。
※「とくになし」が多かったが記載からは削除している

【定住市民 1/3】移住全般について自由記述／佐久市Q35[FA]

- 無料の高速範囲を広げてほしい (男性20代・定住市民)
- 空き家をリフォームして貸出など。(女性20代・定住市民)
- 交流すること自体がなくなっているため、地区事でも取り組みやすい行事やそれに対する補助等を出していただきたい。(女性20代・定住市民)
- 住民税が高い 出産、子育てのしやすい街にしたい 就職先ももっと選びたい (女性20代・定住市民)
- 駐車場が充実していると良い (女性20代・定住市民)
- 興味を持ってもらえたら嬉しい。(女性20代・定住市民)
- 市民税を下げて欲しい。(男性30代・定住市民)
- 何がよいかわからない (男性30代・定住市民)
- 佐久市移住も含め、今後少子高齢化で地域コミュニティは、縮小、疎遠、過疎になるケースが考えられるが、移住対策で対策が無い場合に備えて、外国人も移住してほしいと思う。(男性30代・定住市民)
- 就職先(職種)の充実。大手企業の誘致。これがないと4大卒の若者が移住(帰省)出来ず、30歳を過ぎたら定年後まで帰る機会を失う。20代で将来を見据えながら佐久に住める環境の整備が必要かと。(男性30代・定住市民)
- 移住ではないのですが、急速な宅地の増加が原因で消火栓の整備や防犯灯の設置、ゴミステーションの配置や不足に問題が起きているように感じます。特にゴミステーションは30年前から数か所増えただけで場所はほぼ変わっておらず過不足が極端なようです。現状と今後を考えて見直しをして頂けないでしょうか。よろしくお願いいたします。(男性30代・定住市民)

移住全般の自由意見

【定住市民 2/3】移住全般について自由記述／佐久市Q35[FA]

- きちんとメリット、デメリットを勉強してから移住することをお勧めします。田舎なので区単位での清掃、消防団等の行事なんか結構ある。若い人がいないので出来るだけ参加してほしいと思う。(女性30代・定住市民)
- 有名な物が少なく感じる。(女性30代・定住市民)
- 空き家が増えているので、空き家の有効活用が出来たらいいと思う(女性30代・定住市民)
- 移住に限らず市民の声をひろってください。(女性30代・定住市民)
- 市内各所に溢れている空き家は、先祖からの土地と建物ということで、手放さず、ただ自分が棲むわけでもないというものも多い。これを貸家や共同住宅、貸し店舗等にして、有効に活用することを公的な機関主導で行うと、借り手側も安心して借りられ、新興住宅街を造るより街に活気がでると思う。また、これだけ医療が充実しているのだから、不派閥の医療研究や治療の拠点をもっと大胆に創造したり、既存の教育機関との連携を推し進めたりしてもらいたい。他にも3大菓子の街のひとつなんてことも言っているのだから、佐久地域の作物等を使った世界的な菓子のコンクールを開催するのもいい。また、日本三大稻荷を銘打つ鼻顔稻荷も、上の球状を解体整備して名実ともにそういう装いを目指して、婚礼などにも使えるようにしたり、初午祭をもっと盛り上げたり、祇園のお水渡りを復活させたりと、市の魅力を上げられるものはたくさん在ると思う。(男性40代・定住市民)
- 何にしても中途半端らしいので、移住者が居ない。(男性40代・定住市民)
- 積極的に進めてほしいが、地元の習慣も大切にほしい(男性40代・定住市民)
- これからも官民一体となった(選ばれる街づくり)に期待しています(男性40代・定住市民)
- 若い世代が定住できるような環境を作してほしい??(男性40代・定住市民)
- 引き続き頑張ってください。(男性40代・定住市民)
- アパートに一部屋に何人もで外国の方が暮らしていて 敷地内をのぞいてきたりするので怖い時があります。(女性40代・定住市民)
- 住民の満足度が高くなればなるほど移住希望者の関心を引き付けられると思う。(女性40代・定住市民)
- 佐久市へ移住するなら、佐久市のルールを理解した上で来てほしい。(女性40代・定住市民)

移住全般の自由意見

【定住市民 3/3】移住全般について自由記述／佐久市Q35[FA]

- 様々な世代の方が安心して暮らせること(女性40代・定住市民)
- 自然を売りにした移住推進をするのであれば、自然保護、環境維持にもっと力を入れるべきだと思う。(女性40代・定住市民)
- 浅科地区に大型スーパーマーケットが欲しい。浅科は移住者が増えて、子育て世代の移住が増えているのに、大型スーパーが1店舗もない。(女性40代・定住市民)
- 本当に自立できる人に来てほしい。(男性50代・定住市民)
- あまり、オスミはできない。(男性50代・定住市民)
- 魅力を感じる環境(家、子育て、老後支援)を市で整えてほしい(男性50代・定住市民)
- 多くの移住者に来てほしい。(男性50代・定住市民)
- 今後も盛況でありますように。(男性50代・定住市民)
- 移住する方が地元での就業ができるように働き場所、保育施設の充実、改善をすすめて欲しい。(女性50代・定住市民)
- 良い面も悪い面も伝えた方が良い。(女性50代・定住市民)
- あまりシニアには移住してきて欲しくない。若者が増えて欲しい。(男性60代・定住市民)
- 移住希望者への支援を行って下さい(男性60代・定住市民)
- 地域のコミュニティがあるのでそのまま持続していくことが魅力につながる(男性60代・定住市民)
- 住宅地周辺の農地転用を行いやすくする(男性60代・定住市民)
- 佐久市は、夏大雨の日が多くて住みにくいと思う(女性60代・定住市民)

移住全般の自由意見

【移住市民・Uターン 1/2】移住全般について自由記述／佐久市Q35[FA]

- 頑張してほしいと思います（男性20代・Uターン）
- 買い物するとを誘致してほしい（男性30代・Uターン）
- 佐久市の魅力をこれまで以上に発信し、発展し続けて欲しい。（男性30代・Uターン）
- Uターン移住も対象だったのか気になっている（男性30代・Uターン）
- 効果的なPR（男性30代・Uターン）
- 首都圏の人がメインターゲットだと思われますが、北陸新幹線の金沢方面の人や中部横断道の開通に合わせ、山梨や静岡の人にもPRしてあげればより良くなると思います（男性30代・Uターン）
- 佐久は良いところです。田舎ですが生活に必要なものは揃っていますし、平凡に暮したい私にとってはとても良いところです。（女性30代・Uターン）
- これからも住みたい（女性30代・Uターン）
- 私が移住後、苦になっているのは人間関係です。 申し訳ないですが、教養のない人が多く、自分のことばかり要求する人が多いように感じます。 誰かを見習うことや他の人の提案を受け入れて考えることも嫌い、他人を思いやり、他人のために長い目で見た行動をすることが欠けています。 仕事柄見える小中学校の教育の不十分さは、こういったところに一因があるのではないかとさえ思います。 これからこどもができたとして、現状の佐久市の学校に入れるのは不安しかありません。 医療に関しても、素晴らしい設備等は揃っているのに、障害等級の判定が厳しくなり利用したいのにできないという声も聞こえます。 締め付けて使えないようにするなら、なぜ、以前から国民健康保険・社会保険をあげておかなかったのか疑問です。 しっかり税金や保険料を払うからこそ市の施設を使えることは理解できます。 高くなっても構いません。 医療施設は必要な人が使えないような状況、小中学校の教育内容にも、人間性にも魅力を感じない現状では移住を周囲に勧めることはできません。（女性30代・Uターン）

移住全般の自由意見

【移住市民・Uターン 2/2】移住全般について自由記述／佐久市Q35[FA]

- 佐久市が合併して何年も経つが、旧佐久市と町との差がまだあると思う。ゴミの収集、17時のチャイムが鳴らない地域があるなど。そろそろ統一するべきではないか。（女性30代・Uターン）
- 大きなイベント会場がない（男性40代・Uターン）
- 自然豊かでよい（女性40代・Uターン）
- 交通事故をなくしてほしいので 子供だけでなく運転者への啓発に力を入れてほしい（女性40代・Uターン）
- 空き家対策をお願いします。（女性40代・Uターン）
- 防災対策をしっかりとしてほしい（男性50代・Uターン）
- 空き家情報が思ったより少ない。高額。（男性50代・Uターン）
- 市内循環バスの本数と止まる停留所を増やしてほしい。（女性50代・Uターン）

移住全般の自由意見

【移住市民・Iターン 1/2】移住全般について自由記述／佐久市Q35[FA]

- 稼ぎの良い仕事がありません。公務員ばかりが豊かになる現状に不満を募らせている住民は多いです。（男性20代・Iターン）
- 土地の金額が安くねば、家をたてやすい（女性20代・Iターン）
- 子供の遊び場を増やして欲しい（女性20代・Iターン）
- 移住者を募集するにあたりなんとなく東京在住のリタイア組のお金持ちを対象にしてる感じがしてしまう。古民家に興味があり農業に興味があり元手もあるようなバイタリティあふれた人。そのような人しか必要ないのならそれはそれでありだと思うけどそうでない人は生活するに一苦労。特に県外出身の子育て世代。進学先や就職先が豊富と言えないし、共働きじゃなきゃ生きていけないような賃金体系なのでいくら自然が豊かで食べ物美味しいといっても色々我慢してまで住みたい街とはならないのではないかなと思う。大学を卒業して就職で佐久市に来た人間にとっては最初は佐久市に住みたてて住んでるわけじゃないのでずーと佐久市に住むとも限らないし、賃金水準が低い会社が東京で募集をかけたところで人は集まらないしインターネットが普及した現代において地方の物価は安いから賃金が低くても問題ないとはならない。移住者としてリタイア組のような消費する側だけではなく生産性のある若いひとが住みたくなり街づくりが必要なのではないかなと思う。全国平均並みの賃金水準で佐久市にしかない会社、佐久市でしか出来ない事業の推進、選択肢が多い進学先や援助など佐久市に住むことでしか得られないシステム作りが必要なのではないかなと思う。ただ単にイベントをやれば人が住みたくなるというものではないし、働く場所を用意するだけでひとが住むようになるわけでもない。根幹に必要なのは金銭的に余裕のある生活が送れることであると私は思う。（男性30代・Iターン）
- 街灯を増やしてほしい（女性30代・Iターン）
- 車が無いと辛い。坂が多い。（女性30代・Iターン）
- 車の運転について、荒い人や自分勝手な人が多いです。移住者には忠告してあげた方が良くと思います。（女性30代・Iターン）
- 空き家情報をもっと多く分かりやすくSNSに載せて欲しい。（女性30代・Iターン）
- 仕事さえあれば住むには良い町（男性40代・Iターン）
- 空家バンクが酷い。（男性40代・Iターン）
- 家賃は安く良い（女性40代・Iターン）
- 人口が増えすぎて田畑やのどかさがなくならないで欲しい。（女性40代・Iターン）

移住全般の自由意見

【移住市民・Iターン 2/2】移住全般について自由記述／佐久市Q35[FA]

- 冬は凍るほど寒いですが一年を通して空気も美味しく、健康的な生活の送れる街かと思います。また高速も近くて都心部にも比較的アクセスしやすい位置にある地域かと思います。（女性40代・Iターン）
- 佐久市の魅力をどうやったら伝えられるのか… 難しいですね。（女性40代・Iターン）
- 公共施設の充実を図ってほしい（男性50代・Iターン）
- 家賃が高いので安く、求人を増やすといいかも（女性50代・Iターン）
- 全体的に見れば色々な分野で充実していると思うけれど、施設などが点在しているので、利用しにくいと思う（女性50代・Iターン）
- 佐久市は好きだし次世代の方にも好きになってもらいたい。だか若い世代が安心して収入できる企業が少なくないかと思っています。なので、実際に自分の子供たちには家庭を持って帰ってこい、と言えないのが現状です。良いところをもっとアピールするのも下手だと思う。生活が安定できたり通学などの不安がない便利なおもてなしを望みます。（女性50代・Iターン）
- 佐久市は住みやすい（女性50代・Iターン）
- 佐久市役所職員の意欲向上（女性50代・Iターン）
- 実効性のない移住関係の補助金はすべてすぐに止め、住みやすい街づくりと医療・介護を中心にした新たな産業構造の再構築をすべきだが、既成概念に囚われずに実現していただきたい。（男性60代・Iターン）
- 軽井沢や清里の様なお洒落な街を目指して欲しい。（男性60代・Iターン）
- 車がなくては生活できないので、老後の生活が不安。（女性60代・Iターン）

【移住市民・Jターン、二地域居住】移住全般について自由記述／佐久市Q35[FA]

- 移住する際に最も困難だったのが職探しであり、移住したいも働き方や収入面が一番の悩みです。そういった悩みを持つ方、または仕事がなく移住できない方も多いと思いますので、その点を中心にご検討いただきたいです。（男性30代・Jターン）
- 子育て支援に力をいれているというわりには、こちらから要望したことへの進捗もこちらから問い合わせないと反応がないし、理解してくれてないし把握していない（女性30代・Jターン）
- 自然が多いからすき（男性40代・Jターン）
- 路線バスやオンデマンドタクシーが現状使えない。より利用し易いとうれしい。いっそタクシー券を配布（補助金）したらどうですか。（男性60代・Jターン）
- 文化ホールが欲しい 公園はっかりいらない（男性30代・その他のパターン）
- 移住に際して、住宅購入には補助金が出たのですが、賃貸には出なくて残念でした。仕事で一時的なのか移住なのかの判断が難しいということでした。その辺りをなんとかしてもらえると、若い世代には購入資金は無いので助かると思いました。（男性30代・二地域居住）
- 空き家や所有者不明家屋対策（女性30代・その他のパターン）
- 住みやすい場所です（女性40代・その他のパターン）
- 東京へは近い（女性40代・その他のパターン）
- 結婚を期に移住しましたが、色々不便が有りましたが慣れました。基本的に車が無いと生活出来ないのが残念かと思います。車が無くても生活出来る地域って素敵ですね。（女性40代・その他のパターン）
- 市民目線の行政を期待します。（男性50代・二地域居住）
- 特にありません。とても気に入って暮らしています。（女性50代・二地域居住）